

2023（令和5）年度事業報告書

学校法人 湘南ふれあい学園

## 目 次

|      |                         |    |
|------|-------------------------|----|
| I    | 学校法人湘南ふれあい学園の概要         | 1  |
| II   | 学校法人湘南ふれあい学園教育指針に関する報告  | 7  |
| III  | 学校法人湘南ふれあい学園中長期計画に関する報告 | 28 |
| IV   | 2023年度各学校の事業計画の概要に関する報告 | 31 |
| V    | 財政報告                    | 72 |
| VI   | 施設・設備報告                 | 80 |
| VII  | 生涯学習事業報                 | 81 |
| VIII | 収益事業報告                  | 82 |
| IX   | 監査報告                    | 82 |

## I 学校法人湘南ふれあい学園の概要

### ■ 基本情報

|           |   |        |              |
|-----------|---|--------|--------------|
| 名称        | 学校法人 湘南ふれあい学園   |        |              |
| 理事長       | 大屋敷 芙志枝   |        |              |
| 主たる事務所 住所 | 神奈川県横浜市戸塚区上品濃 16 番 48 号   |        |              |
| 電話番号      | 045-828-4322  | FAX 番号 | 045-828-4323 |
| ホームページ    | <a href="http://www.fureai-g.ac.jp/">http://www.fureai-g.ac.jp/</a> |        |              |

### ■ 建学の理念

「人を尊び、命を尊び、個を敬愛す」

その考えのもとに保健・医療・福祉・教育を担当しそして、社会へ奉仕する事をめざすものです。

わたしたちは、すべての人々のしあわせに、今、役立ちたいと願っています。

- 1 やさしさと思いやりのある保健・医療・福祉・教育の実践
- 2 生命を全うしていただくための知識・技術の習得
- 3 その人らしさと個性を尊重し敬愛す

わたしたちは、理念の実践者になります。

### ■ 教職員の行動基準

#### 1 使命

ふれあいグループの理念を基本として、地域の人々の幸せに役立つ保健・医療・福祉・教育を保障するために、専門職的で倫理的な医療と教育を行なうべく最大限の努力を尽くす。

#### 2 地域社会への貢献

ふれあいグループの医療と教育機能を地域の医療・教育体系に連携し、効率的な地域サービスの成果を挙げることに努める。

#### 3 研修と教育

教育者としての研修に励み、ふれあいグループとして提供できる医療教育水準の向上と後進の教育に努める。

#### 4 記録と守秘義務

記録を完備し確実に管理するとともに、職務上知り得た個人の秘密は厳守する。

#### 5 管理運営

学生中心の教育の心構えを堅持し、ふれあいグループが地域社会に必須の医療並びに教育施設として存続できるよう、公正で合理的な管理運営に努める。

### ■ 事業基本方針

- 1 私たちは、PDC 活動により学校経営に全職員が参画し、さらなる発展を目指します。
- 2 私たちは、学生・園児に最適な教育サービスをタイムリーに提供します。
- 3 私たちはやさしさ、思いやりと気配りのある態度で仕事をします。

### ■ 全教職員参加

- 1 PDC 活動の推進 (部門・個人 PDC の精度向上)
- 2 安全管理体制の強化 (委員会活動の活性、規程類の再点検)

- 3 FD・SD 活動、研修活動の推進 (授業内容、職務内容の改善による教育水準の向上)
- 4 業務改善運動の推進及び6 S活動の実践
- 5 業務遂行の効率アップによる時間外削減及び時間の有効活用、整理・整頓・清掃・清潔・しつけ・作法の  
取り組み強化

## ■ 法人及び設置校の沿革

| 年 月            |      | 沿革   |
|----------------|------|--|
| 平成 6 年 (1994)  | 1 月  | 準学校法人 湘南ふれあい学園設置   |
|                | 4 月  | 茅ヶ崎看護福祉専門学校創立  |
| 平成 10 年 (1998) | 4 月  | 茅ヶ崎リハビリテーション専門学校創立   |
| 平成 12 年 (2000) | 4 月  | 茅ヶ崎リハビリテーション専門学校社会福祉専攻科設置  |
| 平成 13 年 (2001) | 1 月  | 学校法人横浜アカデミーより 2 幼稚園、2 専門学校、1 予備校を継承<br>湘南ふれあい学園を準学校法人から学校法人へ変更   |
| 平成 14 年 (2002) | 4 月  | 専門学校横浜外語ビジネスアカデミー日本語研修科設置  |
| 平成 16 年 (2004) | 4 月  | 下田看護専門学校創立<br>専門学校横浜外語ビジネスアカデミー美容学科・診療情報管理学科・臨床工学学科設置  |
| 平成 17 年 (2005) | 4 月  | 専門学校横浜外語ビジネスアカデミーをふれあい横浜専門学校に校名変更  |
| 平成 18 年 (2006) | 4 月  | 茅ヶ崎リハビリテーション専門学校社会福祉学科を精神社会福祉学科へ名称変更<br>ふれあい横浜専門学校美容学科入学定員変更、総合電子専門学校学科再編 (設置及び変更)                                 |
| 平成 20 年 (2008) | 4 月  | 茅ヶ崎リハビリテーション専門学校 理学療法学科入学定員変更  |
| 平成 21 年 (2009) | 4 月  | 総合電子専門学校 学科再編 (名称変更等)  |
| 平成 22 年 (2010) | 4 月  | 茅ヶ崎看護福祉専門学校を茅ヶ崎看護専門学校に校名変更及び看護学科入学定員変更   |
| 平成 23 年 (2011) | 4 月  | ふれあい横浜専門学校 観光学科入学定員変更<br>総合電子専門学校 研究科設置  |
| 平成 24 年 (2012) | 4 月  | 茅ヶ崎リハビリテーション専門学校 言語聴覚学科 (2 年制) 設置及び作業療法学科入学定員変更<br>総合電子専門学校 医療マネジメント科設置及び情報デザイン科入学定員変更                             |
|                | 6 月  | 湘南医療大学 (仮称) 大学設立準備室設置  |
| 平成 26 年 (2014) | 3 月  | 茅ヶ崎リハビリテーション専門学校 南湖校舎移転<br>湘南医療大学 (仮称) 設置認可申請書提出   |
|                | 4 月  | 学校法人湘南ふれあい学園本部事務所移転<br>総合電子専門学校を医療ビジネス観光情報専門学校に校名変更及び学科再編  |
|                | 10 月 | 湘南医療大学 設置認可<br>学校法人湘南ふれあい学園寄附行為変更認可  |
| 平成 27 年 (2015) | 4 月  | 湘南医療大学開学<br>学校法人湘南ふれあい学園本部事務所移転  |
| 平成 28 年 (2016) | 3 月  | 茅ヶ崎リハビリテーション専門学校介護福祉士実務者研修設置   |
| 平成 29 年 (2017) | 2 月  | 茅ヶ崎リハビリテーション専門学校介護福祉士実務者研修<br>年間定員を 30 名→60 名に変更   |
|                | 4 月  | みどり幼稚園を幼保連携型認定こども園みどり幼稚園に改組  |
| 平成 30 年 (2018) | 2 月  | 茅ヶ崎リハビリテーション専門学校介護福祉士実務者研修<br>年間定員を 60 名→90 名に変更   |
|                | 3 月  | 医療ビジネス観光情報専門学校 情報システム学科 廃科 工業専門課程 廃止   |
|                | 4 月  | 湘南医療大学 臨床医学研究所   |
|                | 7 月  | 医療ビジネス観光福祉専門学校 介護福祉学科設置及びこれに伴う校名変更認可   |
|                | 11 月 | 湘南医療大学 大学院 (保健医療学研究所) 設置認可及びこれに伴う学校法人湘南ふれあい学園寄<br>附行為変更認可<br>医療ビジネス観光福祉専門学校 介護福祉学科新課程設置に伴う学校法人湘南ふれあい学園寄<br>附行為変更認可 |

|                     |     |   |
|---------------------|-----|---|
|                     | 2月  | 湘南医療大学薬学部新設のための寄附活動のための寄附行為変更認可   |
| 平成31年<br>令和元年(2019) | 4月  | 湘南医療大学大学院保健医療学研究科設置<br>湘南医療大学認定看護研修センターを看護実践教育センターに改称<br>医療ビジネス観光福祉専門学校に校名変更 介護福祉学科、附帯教育事業 介護福祉士実務者研修設置 |
|                     | 3月  | 湘南医療大学薬学部医療薬学科設置申請<br>湘南医療大学薬学部設置に伴う学校法人湘南ふれあい学園寄附行為変更認可申請  |
| 令和2年(2020)          | 4月  | 下田看護専門学校を湘南医療大学附属下田看護専門学校に名称変更  |
|                     | 10月 | 湘南医療大学薬学部医療薬学科設置認可<br>湘南医療大学薬学部設置に伴う学校法人湘南ふれあい学園寄附行為変更認可  |
| 令和3年(2021)          | 4月  | 湘南医療大学薬学部設置<br>湘南医療大学 看護実践教育センターを看護キャリア開発コアセンターに改称  |
|                     | 8月  | 湘南医療大学収容定員(保健医療学部看護学科入学定員80→140名)変更認可   |
|                     | 12月 | 湘南医療大学専攻科(公衆衛生看護学専攻 助産学専攻)設置認可  |
| 令和4年(2022)          | 4月  | 湘南医療大学大学院高度実践看護師(がん看護)養成課程設置  |
|                     | 3月  | 湘南医療大学大学院保健医療学研究科博士後期課程設置申請<br>医療ビジネス観光福祉専門学校 介護福祉学科入学定員変更計画書提出(35→60名)                                 |
| 令和5年(2023)          | 4月  | 湘南医療大学大学院高度実践看護師(感染看護学)養成課程設置   |
|                     | 6月  | 湘南医療大学大学院保健医療学研究科博士後期課程設置申請(補正)   |
|                     | 9月  | 湘南医療大学大学院保健医療学研究科博士後期課程設置認可<br>医療ビジネス観光福祉専門学校 介護福祉学科入学定員変更申請書提出(35→60名)                                 |
|                     | 3月  | 医療ビジネス観光福祉専門学校 介護福祉学科入学定員変更認可(35→60名)   |

## ■設置する学校等の概要

【設置する学校】(2023年5月1日現在)

| 学校名  | 学部・学科・専攻等(入学定員)                    | 開設年度              |
|--|------------------------------------|-------------------|
| 湘南医療大学<br>神奈川県横浜市戸塚区上品濃16番48号<br>学長 大屋敷 英志枝        | 保健医療学部<br>看護学科(140)                | 平成27年度<br>(2015年) |
|  | リハビリテーション学科<br>理学療法専攻(40)          |                   |
|  | リハビリテーション学科<br>作業療法専攻(40)          |                   |
| 湘南医療大学<br>神奈川県横浜市戸塚区上品濃16番48号<br>学長 大屋敷 英志枝        | 薬学部<br>医療薬学科(130)                  | 令和3年度<br>(2021年)  |
|  | 大学院<br>保健医療学研究科                    | 平成31年度<br>(2019年) |
|  | 専攻科<br>公衆衛生看護学専攻(20)、<br>助産学専攻(15) | 令和4年<br>(2022年)   |
| 茅ヶ崎看護専門学校<br>神奈川県茅ヶ崎市今宿390番地<br>学校長 今田 敏夫          | 看護学科(80)                           | 平成6年度<br>(1994年)  |
| 茅ヶ崎リハビリテーション専門学校<br>神奈川県茅ヶ崎市南湖1丁目6番11号<br>学校長 赤池 信 | 理学療法学科(70)                         | 平成10年度<br>(1998年) |
|  | 作業療法学科(30)                         |                   |
|  | 言語聴覚学科(35)                         |                   |
|  | 付帯教育事業 社会福祉専攻科(80)                 |                   |
| 湘南医療大学附属下田看護専門学校<br>静岡県下田市柿崎289番地<br>学校長 大石 實      | 看護学科(40)                           | 平成16年度<br>(2004年) |

|   |                        |                   |
|---|------------------------|-------------------|
| 医療ビジネス観光福祉専門学校<br>神奈川県相模原市南区上鶴間本町3丁目18番27号<br>学校長 松尾 和夫 | 医療ビジネス学科 (40)          | 昭和61年度<br>(1986年) |
|   | 観光学科 (60)              |                   |
|   | 介護福祉学科 (35)            | 平成31年度<br>(2019年) |
|   | 付帯教育事業 介護福祉士実務者研修 (30) |                   |
| 幼保連携型認定こども園みどり幼稚園<br>神奈川県横浜市戸塚区汲沢2丁目26番14号<br>園長 入澤 登美子 | 認定こども園 (218)           | 平成29年度<br>(2017年) |

【設置する学校等の在籍者数】(2023年5月1日現在)

[湘南医療大学]

| 学部・学科・専攻       |                         | 入学定員 | 編入学定員 | 収容定員 | 入学者数 | 2023年度在籍者数 |     |     |     | 2023年度卒業生 |
|----------------|-------------------------|------|-------|------|------|------------|-----|-----|-----|-----------|
|                |                         |      |       |      |      | 1年生        | 2年生 | 3年生 | 4年生 |           |
| 保健<br>医療<br>学部 | 看護学科                    | 140  | —     | 440  | 140  | 142        | 138 | 77  | 80  | 77        |
|                | リハビリテーション学科<br>(理学療法専攻) | 40   | —     | 160  | 43   | 43         | 42  | 42  | 38  | 33        |
|                | リハビリテーション学科<br>(作業療法専攻) | 40   | —     | 160  | 41   | 41         | 35  | 38  | 34  | 29        |
| 薬学部            | 医療薬学科                   | 130  | —     | 390  | 78   | 83         | 61  | 27  |     |           |
| 大学院            | 保健医療学研究科                | 12   | —     | 24   | 4    | 4          | 16  |     |     | 14        |
| 専攻科            | 公衆衛生看護学専攻               | 20   | —     | 20   | 20   | 20         |     |     |     | 20        |
|                | 助産学専攻                   | 15   | —     | 15   | 15   | 15         |     |     |     | 15        |

【湘南医療大学 収容定員の充足率】

| 学部・学科       | 平成27年度<br>(2015)<br>開学年度 | 平成28年度<br>(2016) | 平成29年度<br>(2017) | 平成30年度<br>(2018)<br>完成年度 | 2019年度<br>大学院設置 | 2020年度 | 2021年度<br>薬学部設置 | 2022年度 | 2023年度 |
|-------------|--------------------------|------------------|------------------|--------------------------|-----------------|--------|-----------------|--------|--------|
| 保健医療学部      | 1.16                     | 1.08             | 1.08             | 1.05                     | 1.05            | 1.01   | 1.02            | 0.99   | 0.98   |
| 看護学科        | 1.25                     | 1.11             | 1.11             | 1.06                     | 1.04            | 1.01   | 0.99            | 0.98   | 0.99   |
| リハビリテーション学科 | 1.08                     | 1.05             | 1.04             | 1.03                     | 1.07            | 1.02   | 1.05            | 0.99   | 0.97   |
| 薬学部         |                          |                  |                  |                          |                 |        | 0.26            | 0.38   | 0.46   |
| 大学院         |                          |                  |                  |                          | 0.91            | 0.71   | 0.71            | 0.95   | 0.83   |
| 専攻科         |                          |                  |                  |                          |                 |        |                 | 0.77   | 1.00   |

[茅ヶ崎看護専門学校]

| 学科   | 入学定員 | 収容定員 | 入学者数 | 2023年度在籍者数 |     |     | 2023年度卒業生 |
|------|------|------|------|------------|-----|-----|-----------|
|      |      |      |      | 1年生        | 2年生 | 3年生 |           |
| 看護学科 | 80   | 240  | 72   | 79         | 77  | 63  | 61        |

[茅ヶ崎リハビリテーション専門学校]

| 学科                    | 入学定員 | 収容定員 | 入学者数 | 2023年度在籍者数 |     |     |     | 2023年度<br>卒業生 |
|-----------------------|------|------|------|------------|-----|-----|-----|---------------|
|                       |      |      |      | 1年生        | 2年生 | 3年生 | 4年生 |               |
| 理学療法学科                | 70   | 280  | 62   | 63         | 66  | 54  | 53  | 49            |
| 作業療法学科                | 30   | 120  | 22   | 23         | 19  | 13  | 21  | 21            |
| 言語聴覚学科                | 35   | 70   | 27   | 27         | 30  | /   |     | 30            |
| 社会福祉専攻科 <sup>※1</sup> | 80   | 160  | 54   | 54         | 68  | /   |     | 68            |

※1 社会福祉専攻科は1年6ヶ月の通信課程

[湘南医療大学附属下田看護専門学校]

| 学科   | 入学定員 | 収容定員 | 入学者数 | 2023年度在籍者数 |     |     | 2023年度<br>卒業生 |
|------|------|------|------|------------|-----|-----|---------------|
|      |      |      |      | 1年生        | 2年生 | 3年生 |               |
| 看護学科 | 40   | 120  | 26   | 27         | 37  | 27  | 26            |

[医療ビジネス観光福祉専門学校]

| 学科                       | 入学定員 | 収容定員 | 入学者数 | 2023年度在籍者数 |     | 2023年度<br>卒業生 |    |
|--------------------------|------|------|------|------------|-----|---------------|----|
|                          |      |      |      | 1年生        | 2年生 |               |    |
| 医療ビジネス学科                 | 40   | 80   | 20   | 20         | 24  | 24            |    |
| 観光学科                     | 40   | 100  | 18   | 18         | 17  | 16            |    |
| 介護福祉学科                   | 35   | 70   | 22   | 22         | 28  | 27            |    |
| 介護福祉士実務者研修 <sup>※2</sup> | 30   | 30   | 24   | 24         | /   |               | 24 |

※2 介護福祉士実務者研修は6ヶ月の通信課程（4月.6月 年2回開講）

[幼保連携型認定こども園みどり幼稚園]

| 総定員 | 入園者数 | 2023年度在籍者数 |     |    |    |    | 2023年度<br>卒園生 |
|-----|------|------------|-----|----|----|----|---------------|
|     |      | 1歳児        | 2歳児 | 年少 | 年中 | 年長 |               |
| 218 | 65   | 8          | 10  | 62 | 58 | 60 | 61            |

【法人役員・評議員及び理事会・評議員会の開催状況】

1. 役員・評議員の数（2024年3月31日現在）

| 役員・評議員 | 定数    | 現員 |
|--------|-------|----|
| 理事     | 6～8   | 6  |
| 監事     | 2     | 2  |
| 評議員    | 13～17 | 13 |

2. 役員の概要（理事6名、監事2名 2024年3月31日現在）

| 役職     | 氏名      | 主な現職                     | 就任年月日（重任日）             |
|--------|---------|--------------------------|------------------------|
| 理事長／常勤 | 大屋敷 芙志枝 | 湘南医療大学学長<br>医療法人社団康心会理事長 | 1994年3月8日              |
| 理事／非常勤 | 大屋敷 幸志  | 社会福祉法人麗寿会理事長             | 2006年6月24日（2020年6月24日） |
| 理事／常勤  | 熊谷 幸男   | 湘南ふれあい学園事務局長             | 2001年6月24日（2020年6月24日） |
| 理事／非常勤 | 小林 暢比古  | 神奈川県金属プレス工業会名誉会長         | 2021年1月1日              |
| 理事／常勤  | 寺本 明    | 湘南医療大学副学長兼保健医療学部長        | 2020年6月24日             |
| 理事／非常勤 | 有坂 健一   | 税理士                      | 2016年6月24日（2020年6月24日） |
| 監事／非常勤 | 金井 清吉   | 弁護士                      | 2001年4月1日（2020年6月24日）  |
| 監事／非常勤 | 竹俣 耕一   | 公認会計士 税理士                | 2012年6月24日（2020年6月24日） |

3. 評議員の概要（評議員13名 2024年3月31日現在）

|         | 氏名      | 主な現職                                  | 就任年月日（重任日）            |
|---------|---------|---------------------------------------|-----------------------|
| 評議員／常勤  | 大屋敷 芙志枝 | 湘南医療大学学長<br>医療法人社団康心会理事長              | 2002年7月4日（2020年7月4日）  |
| 評議員／常勤  | 寺本 明    | 湘南医療大学副学長兼保健医療学部長                     | 2018年4月1日（2020年7月4日）  |
| 評議員／常勤  | 加藤 尚美   | 湘南医療大学 専攻科長                           | 2019年6月1日（2020年7月4日）  |
| 評議員／非常勤 | 赤池 信    | 茅ヶ崎リハビリテーション専門学校 学校長<br>兼 康心会汐見台病院 院長 | 2022年4月20日            |
| 評議員／常勤  | 入澤 登美子  | 幼保連携型認定こども園みどり幼稚園園長                   | 2010年3月30日（2020年7月4日） |
| 評議員／常勤  | 加藤 修一   | 茅ヶ崎リハビリテーション専門学校副校長                   | 2005年3月30日（2020年7月4日） |
| 評議員／常勤  | 小野川 敏子  | 湘南医療大学附属下田看護専門学校 副校長                  | 2011年3月23日（2020年7月4日） |
| 評議員／常勤  | 小林 勝一郎  | 湘南ふれあい学園学園本部 部長                       | 2013年3月22日（2020年7月4日） |
| 評議員／常勤  | 山戸 真実   | 医療ビジネス観光福祉専門学校事務職員                    | 2018年4月1日（2020年7月4日）  |
| 評議員／非常勤 | 有坂 健一   | 税理士                                   | 2016年6月24日（2020年7月4日） |
| 評議員／非常勤 | 今田 敏夫   | 茅ヶ崎看護専門学校 学校長<br>兼 茅ヶ崎中央病院 院長         | 2019年8月1日（2020年7月4日）  |
| 評議員／常勤  | 熊谷 幸男   | 湘南ふれあい学園事務局長                          | 2001年4月10日（2020年7月4日） |
| 評議員／非常勤 | 大屋敷 幸志  | 社会福祉法人麗寿会理事長                          | 2004年7月4日（2020年7月4日）  |

4. 2023年度 理事会・評議員会開催状況

|      | 開催回数 |
|------|------|
| 理事会  | 5回   |
| 評議員会 | 5回   |

## 【設置する学校等の教職員数】

教職員数（2023年5月1日現在）

| 学校名               | 教員      |     | 職員※2 |
|-------------------|---------|-----|------|
|                   | 専任※1    | 兼任  |      |
| 湘南医療大学            | 122     | 158 | 56   |
| 茅ヶ崎看護専門学校         | 22      | 75  | 6    |
| 茅ヶ崎リハビリテーション専門学校  | 34      | 73  | 10   |
| 湘南医療大学附属下田看護専門学校  | 10      | 38  | 3.8  |
| 医療ビジネス観光福祉専門学校    | 11      | 27  | 5    |
| 幼保連携型認定こども園みどり幼稚園 | 24.25※3 | —   | 4    |
| 学園本部（研修センター含む）    | 2       | 12  | 4    |

※1 専任には、学長、学校長、非常勤契約者を含む ※2 非常勤職員（守衛）含む ※3 非常勤補助者の常勤換算数

教員内訳

[湘南医療大学]

| 学部        | 学科・専攻           |             | 教授 |    | 准教授 |    | 講師 |   | 助教 |    | 助手 |   | 計  |    |
|-----------|-----------------|-------------|----|----|-----|----|----|---|----|----|----|---|----|----|
|           |                 |             | 男  | 女  | 男   | 女  | 男  | 女 | 男  | 女  | 男  | 女 | 男  | 女  |
| 保健        | 看護学科            |             | 4  | 11 | 0   | 5  | 2  | 5 | 2  | 11 | 0  | 4 | 8  | 36 |
| 医療<br>学部  | リハビリテー<br>ション学科 | 理学療法<br>学専攻 | 7  | 0  | 1   | 2  | 3  | 0 | 1  | 0  | 0  | 0 | 12 | 2  |
|           |                 | 作業療法<br>学専攻 | 3  | 1  | 2   | 0  | 2  | 2 | 0  | 1  | 0  | 0 | 7  | 4  |
| 薬学部       | 医療薬学科           |             | 16 | 3  | 6   | 4  | 6  | 1 | 6  | 1  | 0  | 0 | 34 | 9  |
| 保健医療学研究科* |                 |             | 1  | 1  | 0   | 0  | 0  | 0 | 0  | 1  | 0  | 0 | 1  | 2  |
| 専攻科       |                 |             | 0  | 1  | 0   | 3  | 0  | 1 | 0  | 2  | 0  | 0 | 0  | 7  |
| 計         |                 |             | 31 | 17 | 9   | 14 | 13 | 9 | 9  | 16 | 0  | 4 | 62 | 60 |

\*保健医療学研究科教員で保健医療学部兼任者は再掲しない。

教職員の保有学位や業績については、以下のホームページ上に公開している。

[https://sums.ac.jp/html/department/nursing\\_teacher.html](https://sums.ac.jp/html/department/nursing_teacher.html)

[https://sums.ac.jp/html/department/pt\\_teacher.html](https://sums.ac.jp/html/department/pt_teacher.html)

[https://sums.ac.jp/html/department/ot\\_teacher.html](https://sums.ac.jp/html/department/ot_teacher.html)

<https://sums.ac.jp/html/department/pharmacy/teacher.html>

[https://sums.ac.jp/html/graduate\\_school/teacher/](https://sums.ac.jp/html/graduate_school/teacher/)

<https://sums.ac.jp/html/advanced-courses/teacher.html>

## II 学校法人湘南ふれあい学園教育指針に関する報告

### 1 教育力を高める活動

教職員は、学生の学習力を引き出し、やる気を目覚めさせ、卒業目標（DP）にかなう人材育成を行うと同時に、国家試験に合格する教育を実施してきました。

そのための取り組みとして、学生からの授業・実習評価アンケートの実施、GPA評価、毎回の授業ではリフレクションシートの活用などを行ってきました。また、各学部、学科において、年3～4回のFD研修が計画され、計画通りに実施されました。

湘南医療大学の卒業時アンケートは、別紙のとおり報告します。

---

---

## 湘南医療大学 2023 年度卒業時アンケート

---

---

### アンケートの概要

○実施日：2024 年 2 月中旬

○回答者の属性について

#### 1) 学科専攻

| 学科専攻名   | 回答数 | 卒業生数 |
|---------|-----|------|
| 看護学科    | 59  | 77   |
| 理学療法学専攻 | 33  | 33   |
| 作業療法学専攻 | 28  | 29   |
| 学校全体    | 120 | 139  |

#### 2) 性別

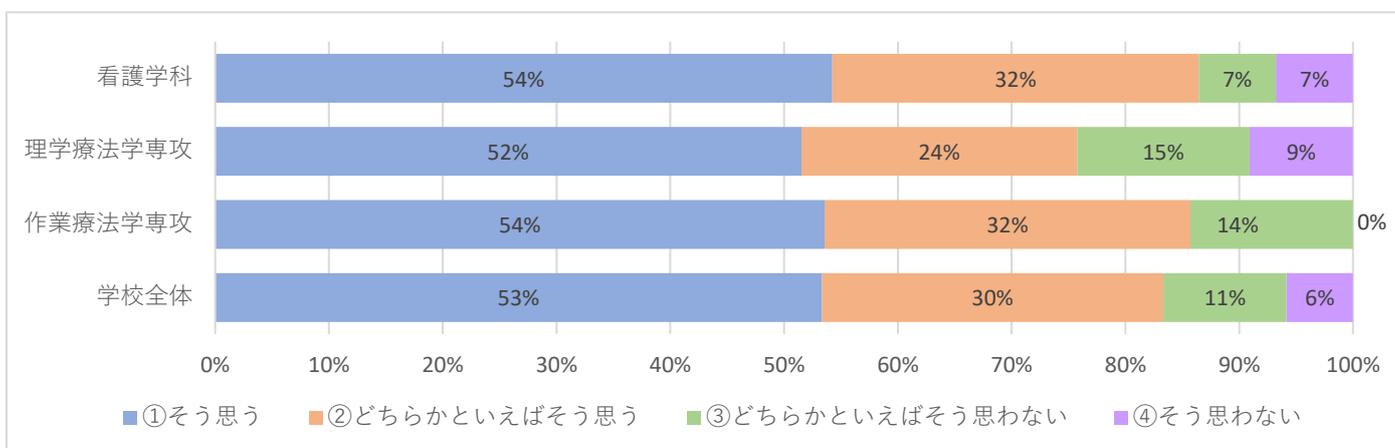
| 学科専攻名   | 男性 | 女性 |
|---------|----|----|
| 看護学科    | 1  | 58 |
| 理学療法学専攻 | 20 | 13 |
| 作業療法学専攻 | 10 | 18 |
| 学校全体    | 31 | 89 |

1) あなたの本学受験時の入試区分を選んでください。

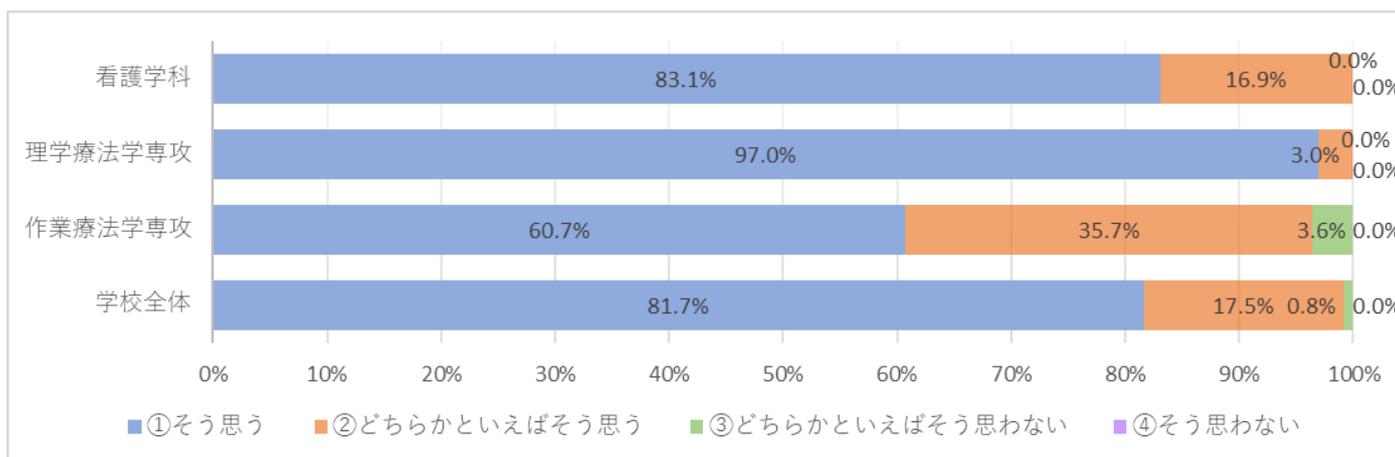
|         | ①<br>AO 入試 | ②AO<br>入試Ⅱ期<br>(OTのみ) | 推薦入試 |     | 一般入試 |     |     | センター試験利用 |     | ⑩<br>第2志望 |
|---------|------------|-----------------------|------|-----|------|-----|-----|----------|-----|-----------|
|         |            |                       | ③Ⅰ期  | ④Ⅱ期 | ⑤Ⅰ期  | ⑥Ⅱ期 | ⑦Ⅲ期 | ⑧Ⅰ期      | ⑨Ⅱ期 |           |
| 看護学科    | 11         | 0                     | 20   | 12  | 9    | 2   | 6   | 2        | 0   | 2         |
| 理学療法学専攻 | 7          | 0                     | 5    | 8   | 9    | 4   | 0   | 0        | 1   | 2         |
| 作業療法学専攻 | 7          | 1                     | 6    | 3   | 5    | 1   | 0   | 3        | 0   | 3         |
| 学校全体    | 25         | 1                     | 31   | 23  | 23   | 7   | 6   | 5        | 1   | 7         |

## I 入学時の期待

2) 本学は入学を希望していた大学でしたか。

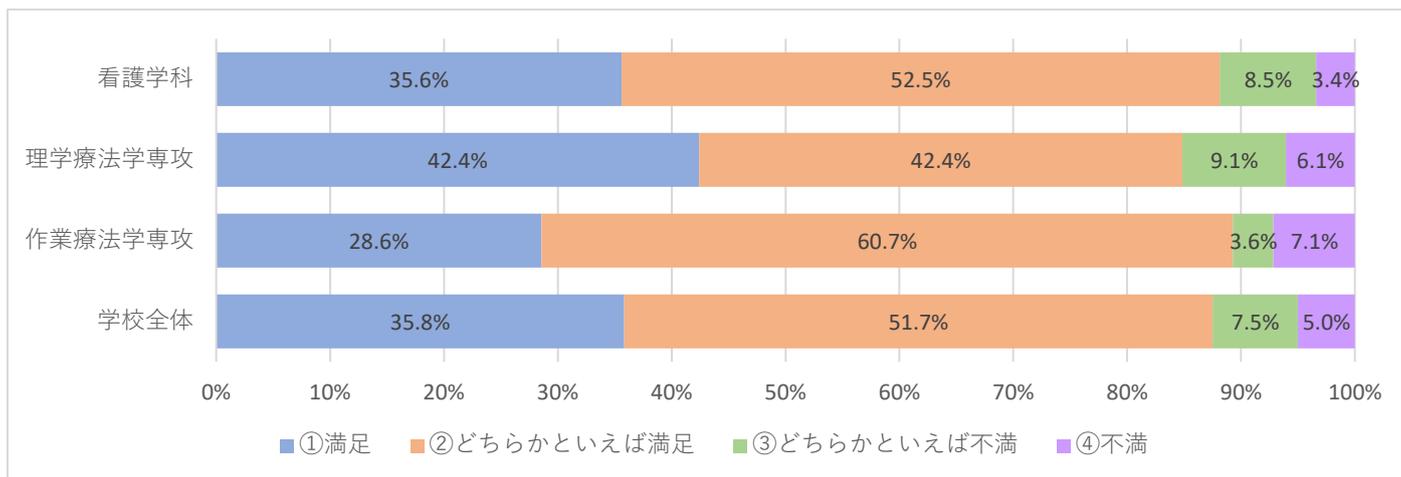


3) 学部学科専攻は希望通りでしたか。

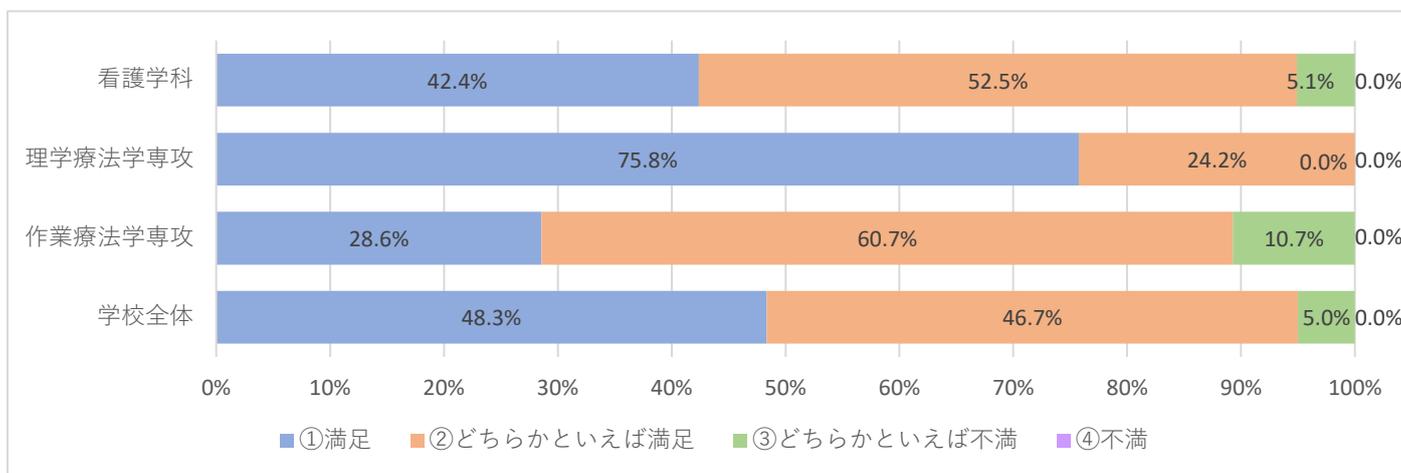


## II 本学における教育内容について

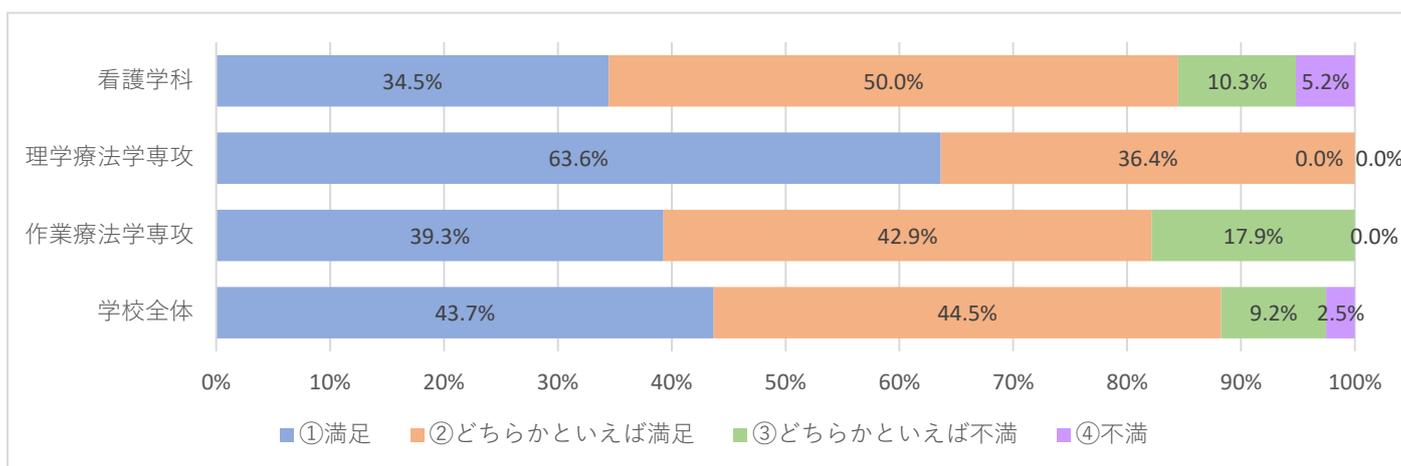
### 4) 共通教育科目（1年次の語学【英語Ⅰ等】や人文科学系【心理学・物理学・倫理学等】の基礎科目）について



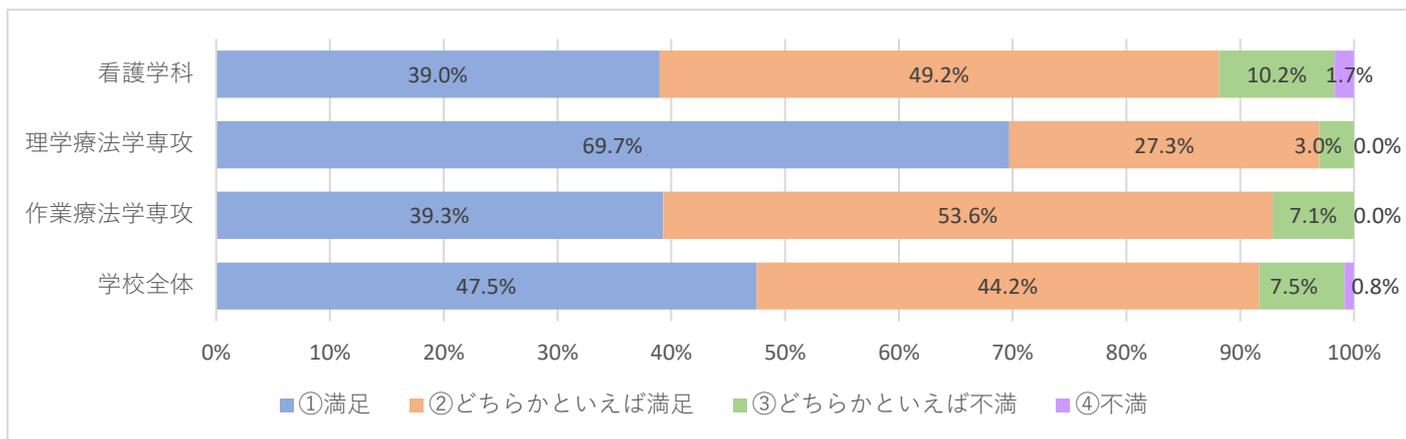
### 5) 学科専攻の専門科目について



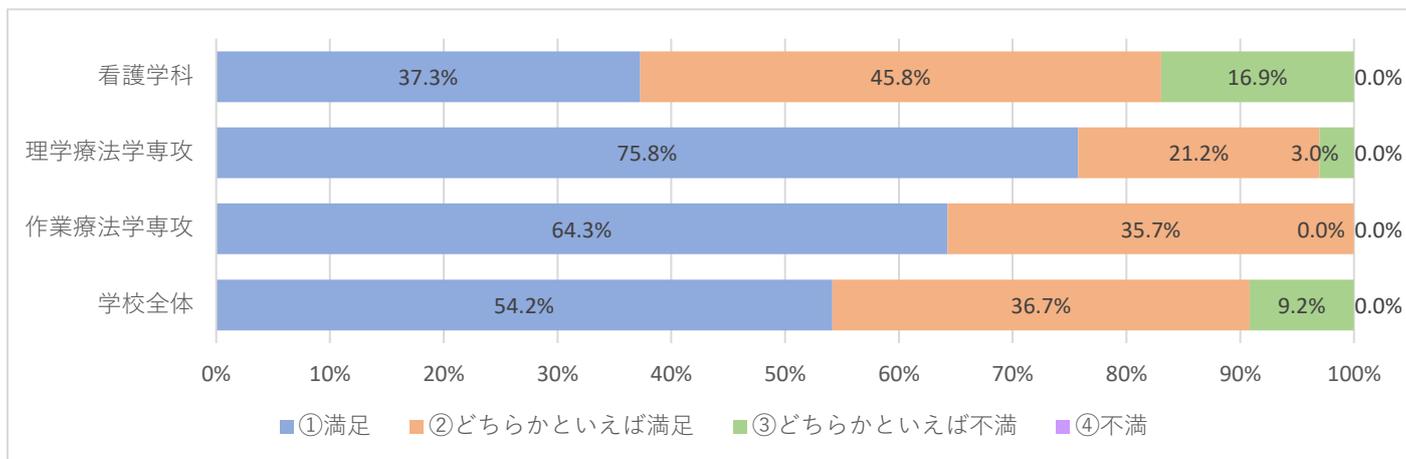
### 6) 臨床実習について



## 7) 卒業研究／看護研究について

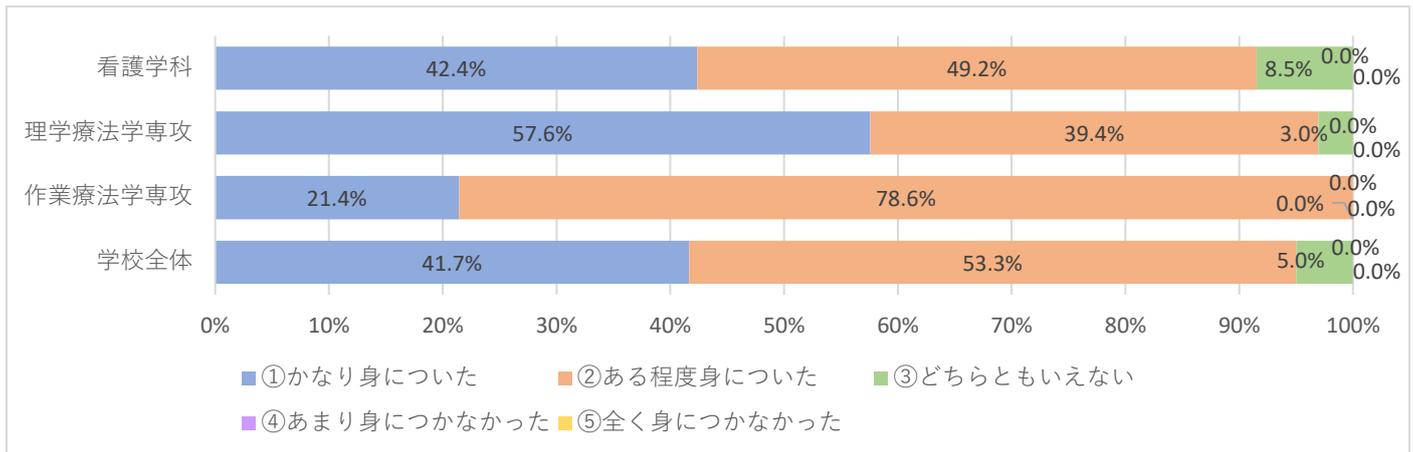


## 8) 国家試験対策について

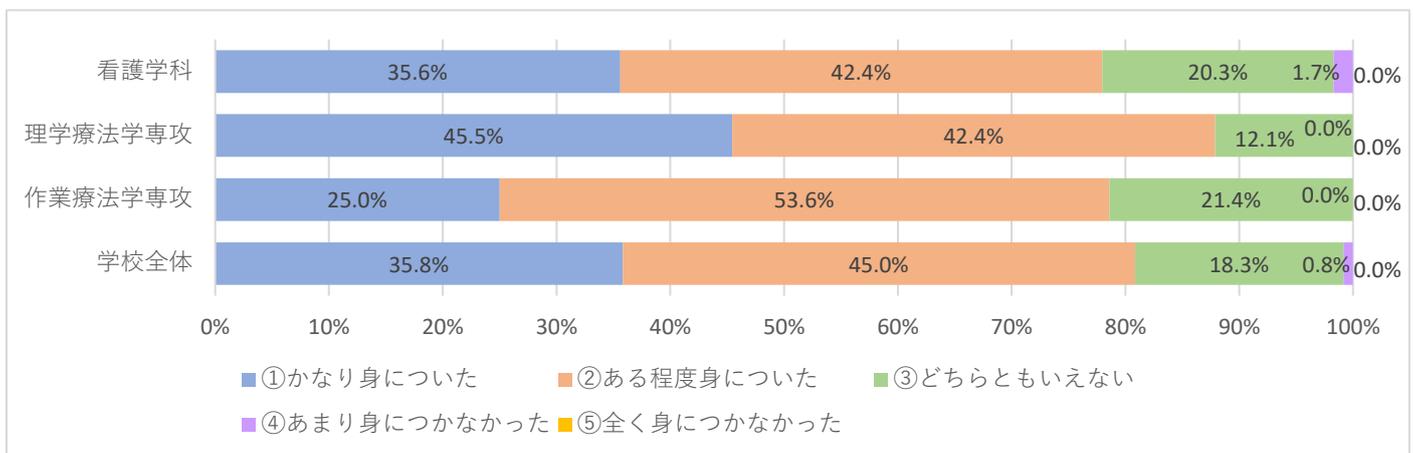


### Ⅲ 在学中の成長

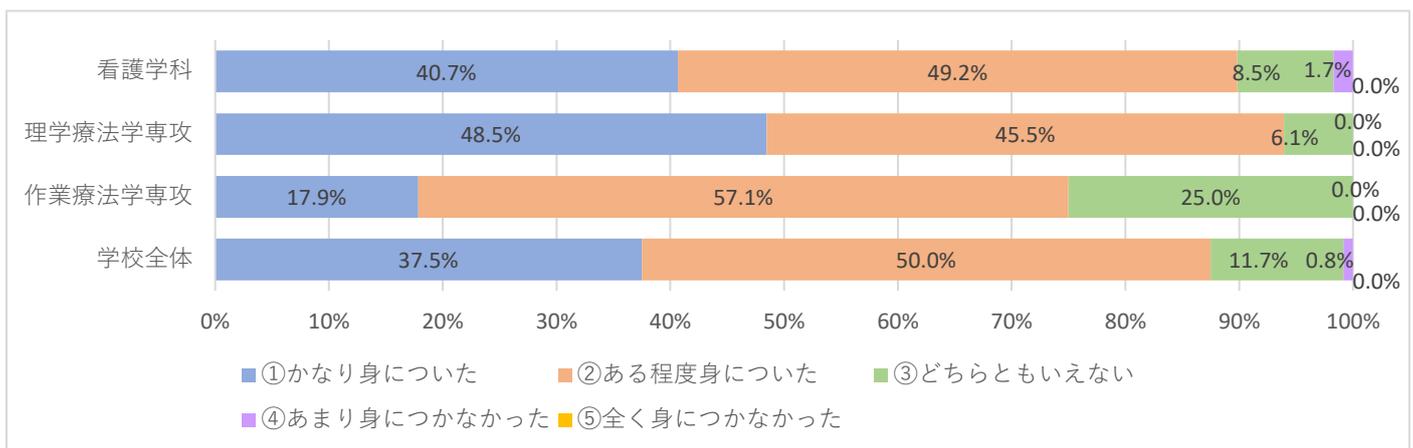
#### 9) 所属学科専攻に直結する専門職の知識技術について



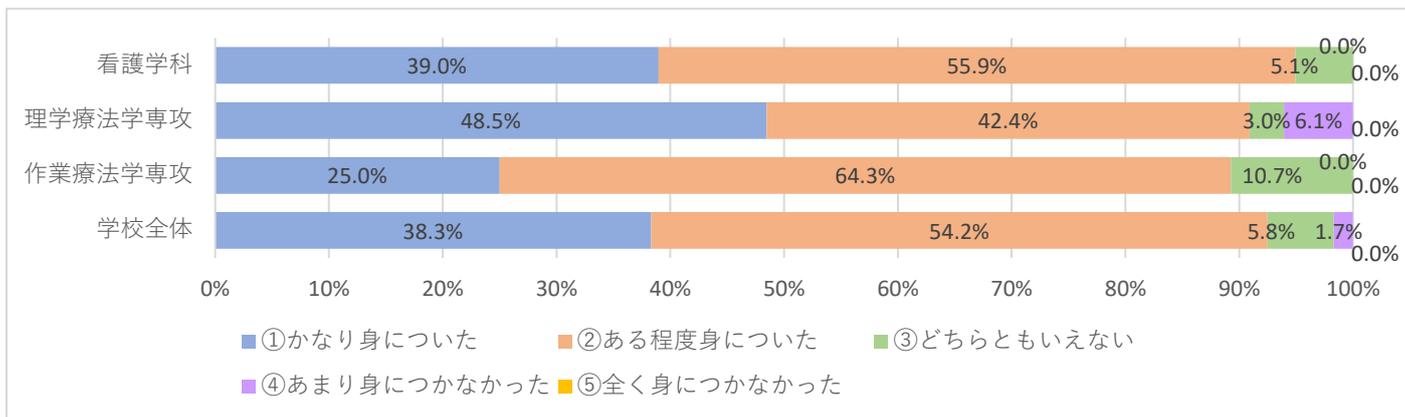
#### 10) 問題や課題に対して自ら行動する力（主体性）について



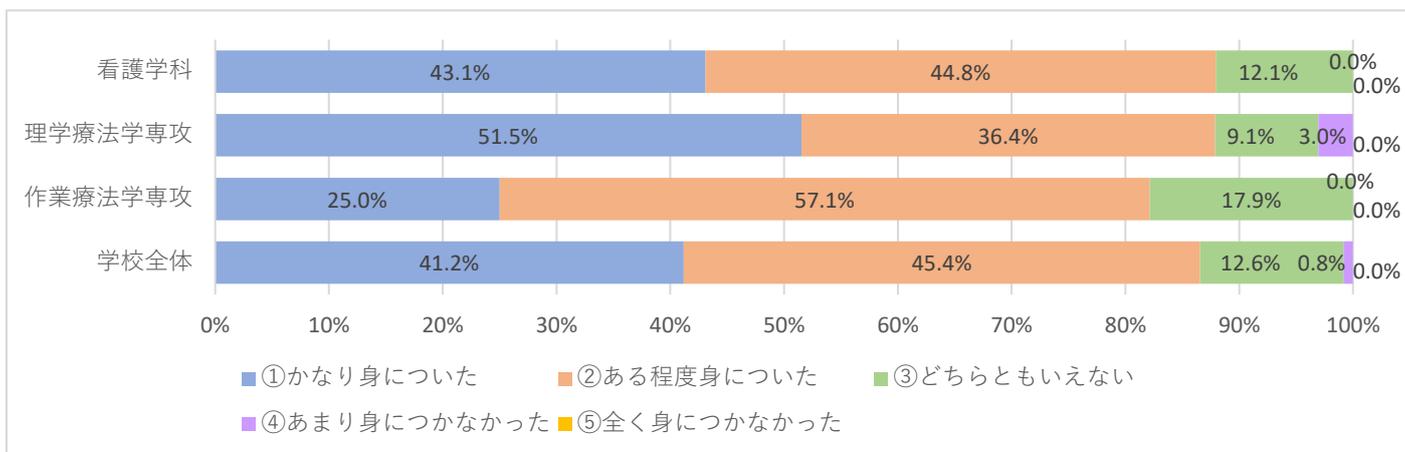
#### 11) 科学的根拠（学んだ知識）に基づき問題解決に取り組む姿勢について



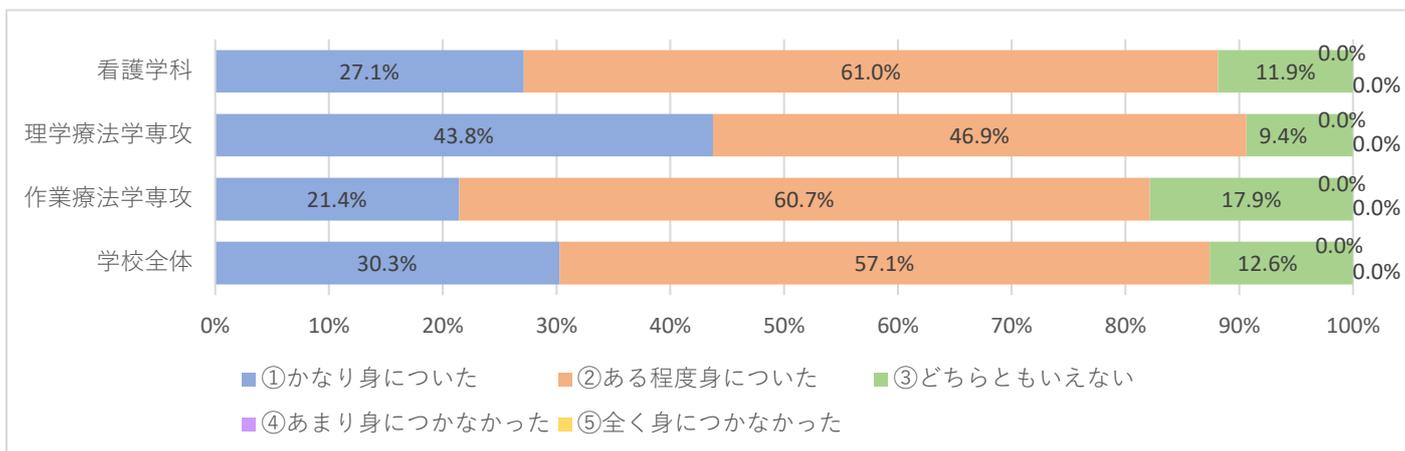
### 12) 他の職種と連携して人々の健康に寄与する力について



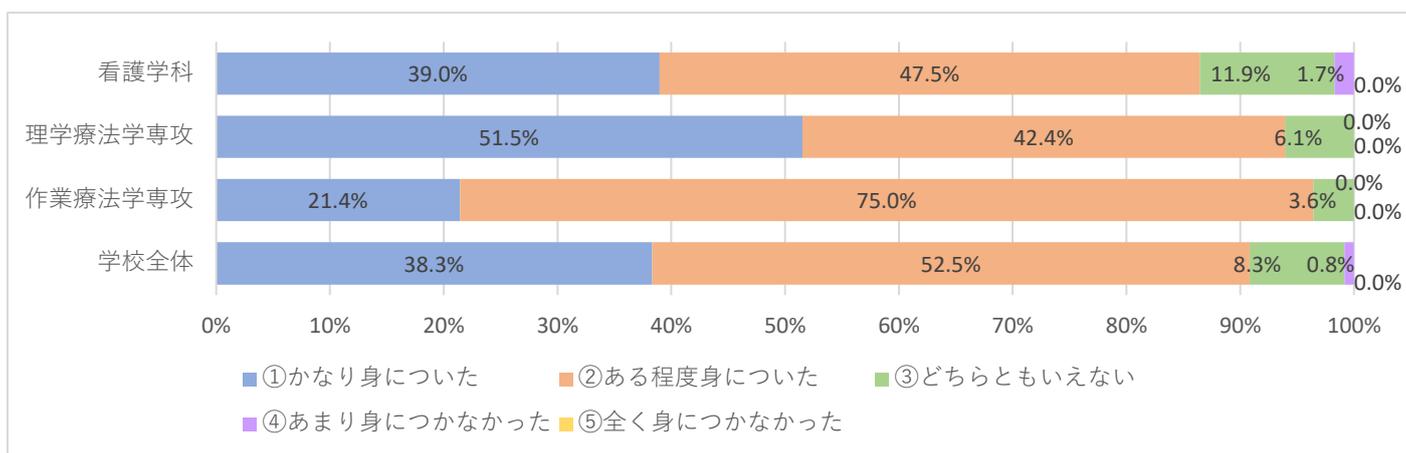
### 13) 様々な他者とのコミュニケーションを通じ良好な関係を築く力について



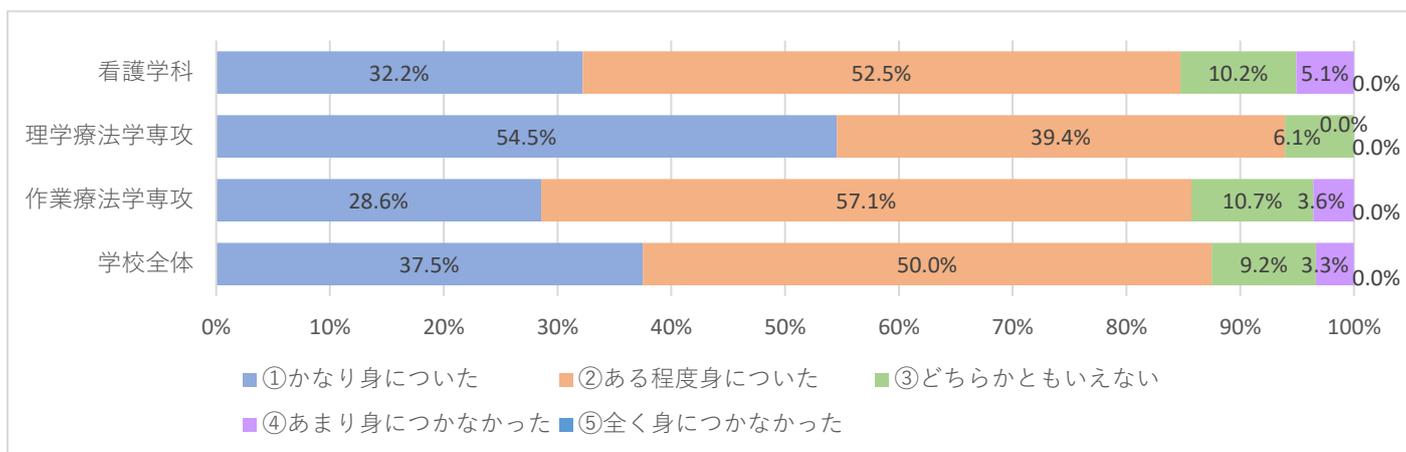
### 14) 幅広い教養について



15) 高い倫理観（社会生活を送る上での決まりごとや守るべき道理）について

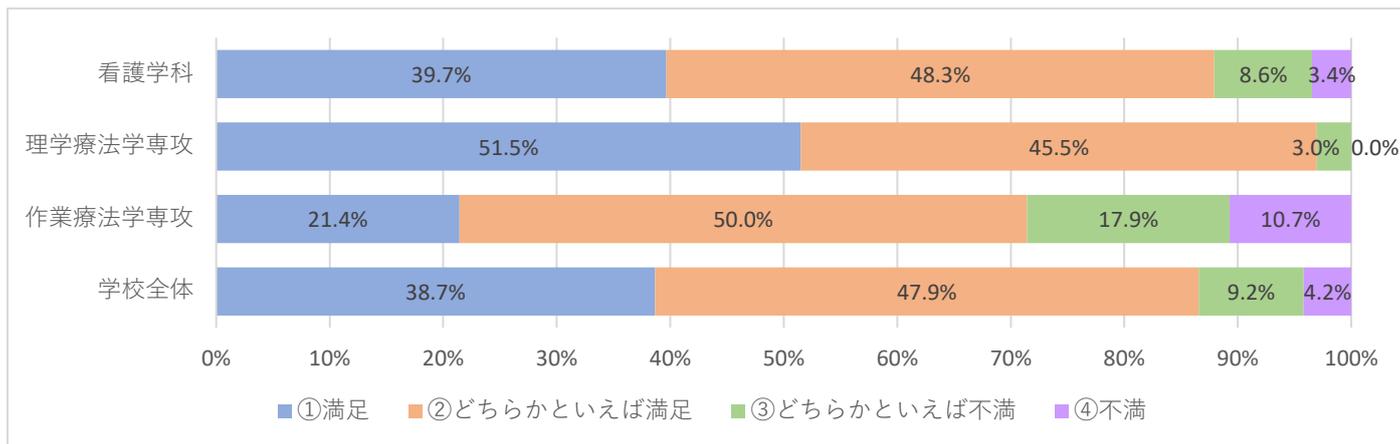


16) 専門職就職後にも自己研鑽に努める覚悟や姿勢について

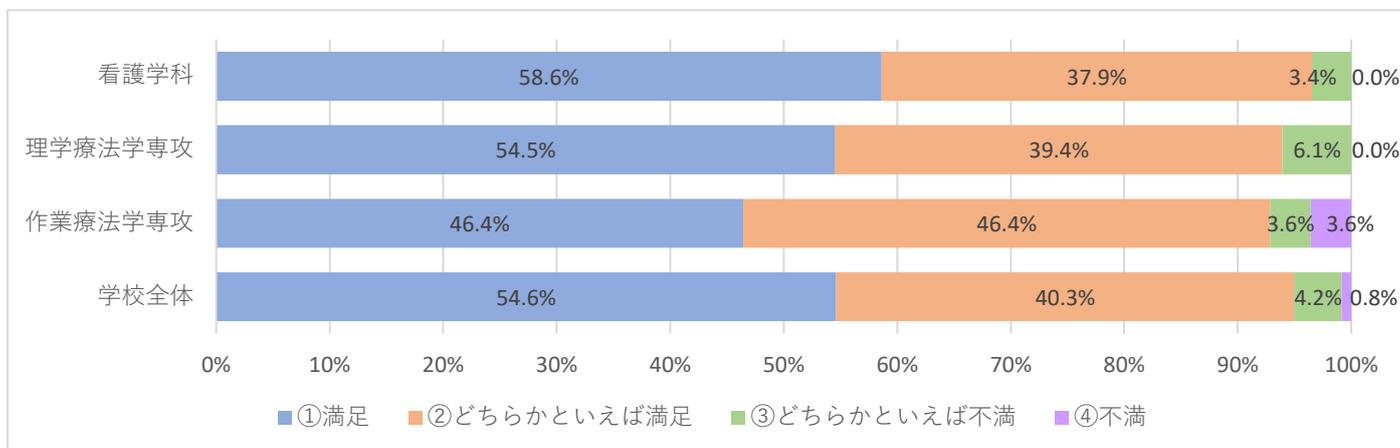


#### IV 本学における就職支援について

17) 就職支援に満足していますか。

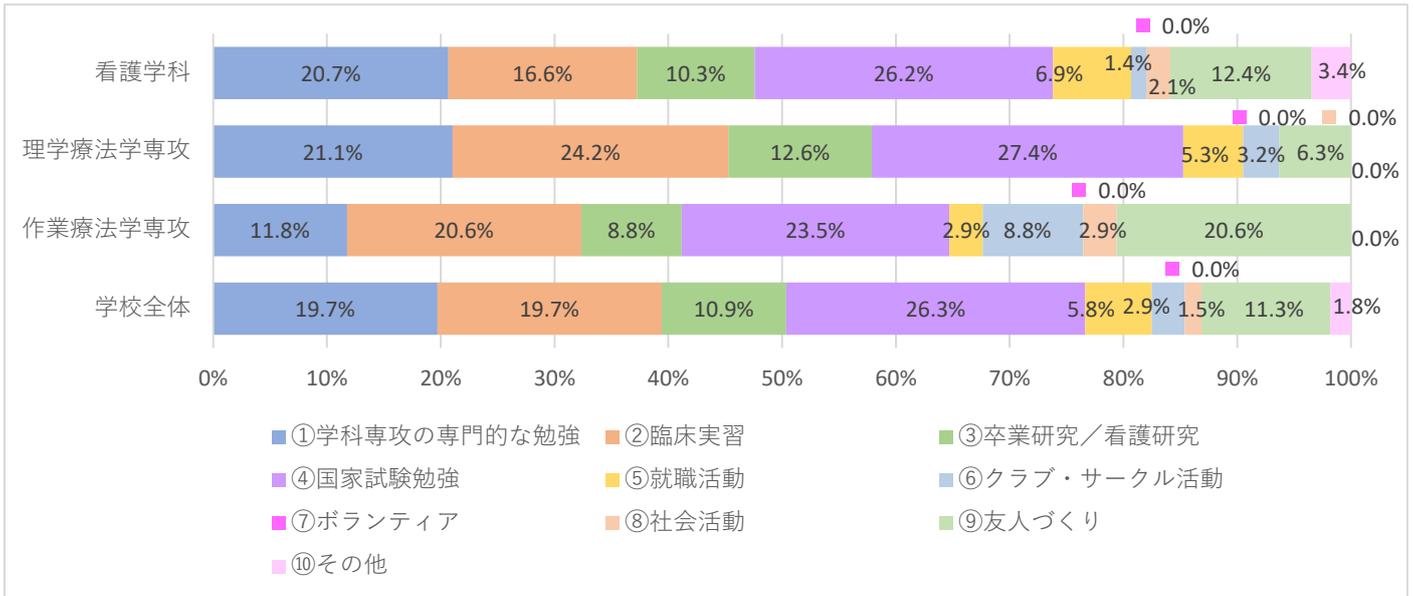


18) 最終的な卒業後の進路（就職・進学等）に満足していますか。

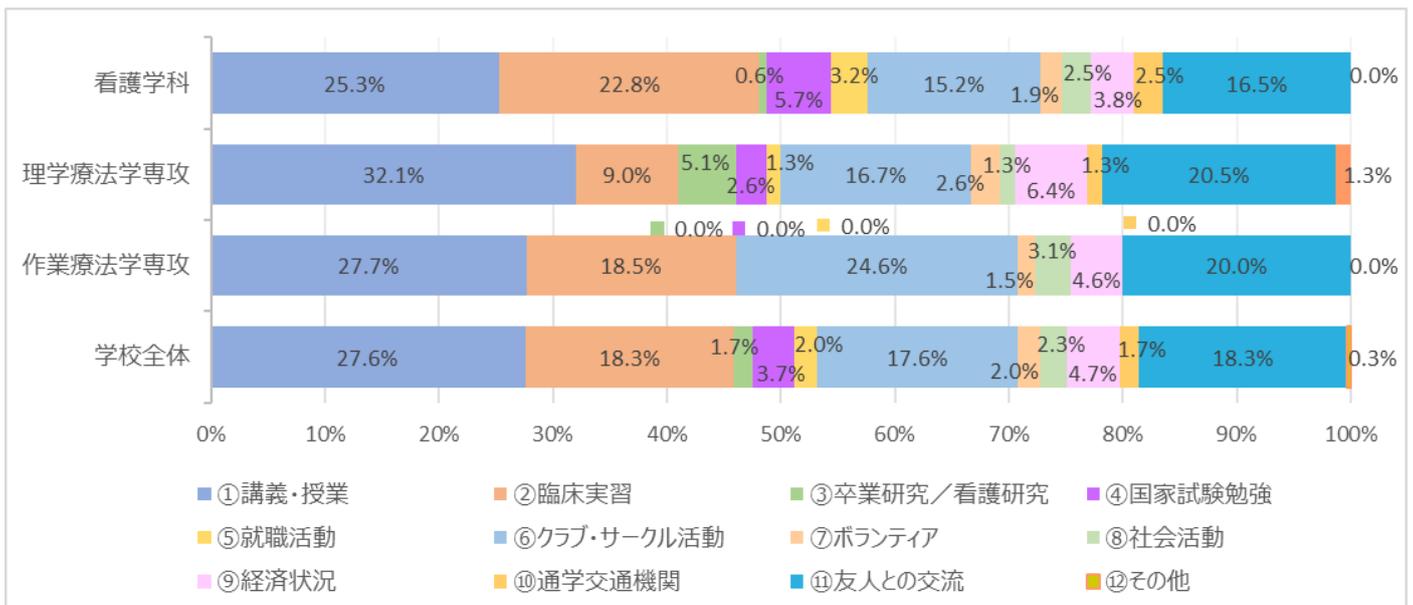


## V キャンパスライフについて

19) 本学在学中、力を入れた活動を選んでください。(複数回答可)

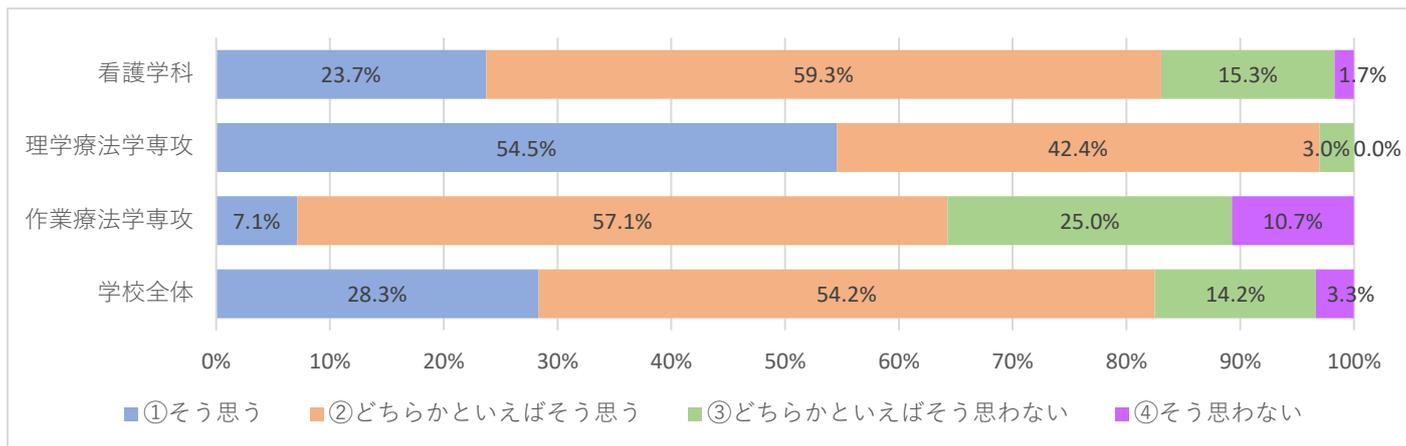


20) コロナ禍の中、あなたにとって大きな影響を受けたものを選んでください。(複数回答可)



## VI 総合的な評価について

21) 入学前と比較して『湘南医療大学は良い大学だ』という思いは強まりましたか。



22) あなたが4年間で『専門職に就く覚悟やモチベーション』が最も高まった科目は何ですか。

| 看護学科      |    | 理学療法学専攻  |    | 作業療法学専攻       |    |
|-----------|----|----------|----|---------------|----|
| 科目名       | 件数 | 科目名      | 件数 | 科目名           | 件数 |
| 臨地実習      | 10 | 臨床実習     | 8  | 臨床実習          | 8  |
| 基礎看護学     | 5  | 総合臨床実習II | 5  | 解剖学           | 3  |
| 統合実習      | 5  | 総合臨床実習I  | 4  | 総合臨床実習I       | 3  |
| 成人看護学実習I  | 4  | 総合臨床実習   | 3  | 高次脳機能障害       | 2  |
| 成人看護学     | 3  | 解剖学      | 2  | 総合臨床実習II      | 2  |
| 成人看護学実習II | 2  | 運動生理学    | 1  | 評価実習          | 2  |
| 1年生の時の演習  | 1  | 運動療法学演習  | 1  | ADL支援論        | 1  |
| チーム医療論    | 1  | 解剖学実習    | 1  | 作業療法基礎        | 1  |
| 解剖        | 1  | 検査測定学    | 1  | 地域作業療法学       | 1  |
| 解剖生理学     | 1  | 国家試験勉強   | 1  | 地域作業療法学II(各論) | 1  |
| 人体の構造・機能  | 1  | 評価学実習    | 1  | 老年期作業療法       | 1  |
| 成人慢性期の実習  | 1  | 理学療法学評価  | 1  |               |    |
| 生活行動の援助技術 | 1  |          |    |               |    |
| 精神看護学     | 1  |          |    |               |    |
| 精神看護学実習   | 1  |          |    |               |    |
| 哲学        | 1  |          |    |               |    |
| 看護研究      | 1  |          |    |               |    |
| 老年看護学     | 1  |          |    |               |    |

23) あなたが4年間で『湘南医療大学でこの科目を受講できて良かった』と思う科目は何ですか。

| 看護学科       |    | 理学療法学専攻  |    | 作業療法学専攻         |    |
|------------|----|----------|----|-----------------|----|
| 科目名        | 件数 | 科目名      | 件数 | 科目名             | 件数 |
| 人体の構造・機能   | 8  | 解剖学実習    | 7  | 解剖学             | 5  |
| チーム医療論     | 4  | 解剖学      | 6  | 司法精神科作業療法       | 4  |
| 臨地実習       | 3  | 臨床実習     | 3  | 臨床実習            | 4  |
| 音楽論        | 2  | 総合臨床実習II | 3  | チーム医療論          | 3  |
| 成人看護学実習I   | 2  | 総合臨床実習   | 2  | MMTの授業          | 1  |
| 臨床心理学      | 1  | 韓国語      | 1  | クリニカルリーズニング     | 1  |
| ウィメンズヘルス   | 1  | 呼吸循環     | 1  | 運動学             | 1  |
| がん看護       | 1  | 生理学      | 1  | 解剖学実習           | 1  |
| 解剖         | 1  | 統計学      | 1  | 整形外科学           | 1  |
| 解剖生理学      | 1  | 特論I      | 1  | 生命倫理学           | 1  |
| 看護管理学      | 1  | 日常生活活動   | 1  | 発達障害作業療法学II(各論) | 1  |
| 韓国語        | 1  | 理学療法士研究法 | 1  | 倫理学             | 1  |
| 基礎看護学      | 1  | 理学療法特論1  | 1  |                 |    |
| 公衆衛生看護学    | 1  |          |    |                 |    |
| 実践看護論I     | 1  |          |    |                 |    |
| 小児看護学      | 1  |          |    |                 |    |
| 成人看護学      | 1  |          |    |                 |    |
| 成人看護学方法論   | 1  |          |    |                 |    |
| 生命倫理学      | 1  |          |    |                 |    |
| 東京アカデミーの講座 | 1  |          |    |                 |    |
| 統合実習       | 1  |          |    |                 |    |
| 統合実習(精神)   | 1  |          |    |                 |    |
| 病態学        | 1  |          |    |                 |    |
| 補完医療とフットケア | 1  |          |    |                 |    |
| 倫理学        | 1  |          |    |                 |    |

## 24) 本学に対するご意見や改善点があれば具体的にご記入ください。(自由書式)

| 意見   | 件数 |
|--|----|
| 事務連絡を早めにして欲しい  | 5  |
| 事務の方と先生方の連携が取れていない   | 3  |
| 授業において使用する専門的な道具類を揃えて欲しい   | 2  |
| 売店の営業時間が短い   | 2  |
| 事務の方の対応が悪い   | 1  |
| 先生方や友人にも恵まれ、楽しく充実した大学生活を送ることが出来ました。この大学に入学できて良かったと心から思っている             | 1  |
| 1年生の時から実習があれば、授業も身に入りやすい   | 1  |
| 講義室1の空調の風が強くて、直接当たって寒かったり目が濁ってしまっていたので、風を避けるものをつけて欲しい                  | 1  |
| コンビニが欲しい   | 1  |
| 図書室の暖房が暑すぎる  | 1  |
| 学食のメニューを増やして欲しい  | 1  |
| 就職時にふれあいグループとの連携がなさすぎるし、成績をとっていても希望が通らないので奨学金をとってない人にとっては行くメリットがないと感じた | 1  |
| 日曜日でも学校を開けて欲しい   | 1  |
| エアコンをつけてくれない 教員が意識してつけたり温度管理をすべきだと思う                                   | 1  |
| 1年生の時に担任にこの道を諦めた方がいいのではないかとされたことがずっとショックで不信感しかなかった                     | 1  |
| 一切使わない教科書を無駄に買わせないで欲しい   | 1  |
| 卒業試験の問題に誤字や不適切が多い  | 1  |
| 意見をしても聞く耳を持たない教員が多く、偉そうに話されるのが嫌だった                                     | 1  |
| 縦の関わりをもっと増やしてほしい   | 1  |
| 今年度のグループ内の就職活動では、面接本番の3.4日前に外部病院との併願が禁止され、併願を視野に入れていた学生が大変混乱した         | 1  |
| 機械類、wi-ifが利用しにくいのもっと使いやすくして欲しい   | 1  |
| 大学専用のバスを出して欲しい   | 1  |
| 国試前に国試部屋を追い出さないで欲しかった  | 1  |
| 物品が破損してから修繕までが長く、早期に対応できるようにして欲しい                                      | 1  |
| 空調や設備が整っていない   | 1  |

## 2 教員の資質を高める活動

学園各校は、教育力を高めるため、また、教育・研究活動の到達度の確認・点検、実践力強化に向けた指導方法改善などの発表やWGをする場として、「大学部会」「教育部会（専門学校）」「保育部会（認定こども園）」において、2ヶ月に1回「全体研修会」、年に2回「医療教育研究会」を開催した。2023年度の研修実績は以下のとおりです。

### 大学部会、教育部会、保育部会 2023年度 研修会プログラム

#### 【大学部会】

| 月     | 内容   | 発表者   |
|-------|--|---|
| 4.5月  | <p>ふれあいグループが目指すもの<br/>部門PDC(学科専攻別事例発表)<br/>■大学 看護学科、PT学専攻、OT学専攻、薬学部、事務部</p> <p>業務改善<br/>法令遵守・服務規律<br/>6S活動(大学品質サービスの向上のため全教職員の理解と実行)</p> <p>湘南医療大学の教育・研究目標(全教員科研費応募)-新任教員を迎えて本学の教育研究活動を説明する-</p> <p>■2023年度事業計画重点目標<br/>【保健医療学部】<br/>■事業計画重点項目に対する取り組み<br/>(1) ③効果的なチューター活動(理学療法専攻の計画)<br/>(2) ⑩キャリア支援(看護学科の計画)<br/>(3) ⑦休退学者減少への取り組み(作業療法専攻の計画)<br/>(4) ⑥入学定員の確保(学生募集活動計画)</p> <p>【薬学部】<br/>■事業計画重点項目に対する取り組み<br/>(1) ③効果的なチューター活動<br/>(2) ⑩キャリア支援<br/>(3) ⑦休退学者減少への取り組み<br/>(4) ⑥入学定員の確保(学生募集活動計画)</p> | <p>大屋敷英志枝<br/>川本、坂上、<br/>鶴見、鈴木、<br/>前川<br/>ブロック長<br/>人事部<br/>財務部長、山<br/>田<br/>寺本</p> <p>小林</p> <p>坂上<br/>川本<br/>鶴見<br/>前川</p> <p>定本<br/>加賀谷<br/>石橋<br/>東山</p> |
| 6月    | <p>研修1 教育部門PDC<br/>・部門PDCの報告<br/>研修2 業務改善<br/>・業務改善の事例報告<br/>研修3 6S活動の報告</p> <p>研修4 大学における安全管理対策<br/>・薬品等の管理、学生(データ)管理、防災管理、健康管理<br/>研修5 臨地、臨床、実務実習指導体制と学生支援</p> <p>研修6 専門職のレベルアップ<br/>・学修者本位の教育を実践するための取り組み<br/>研修7 チーム医療教育<br/>・今年度の「チーム医療論」の方針などの概要解説</p>   | <p>田中、森尾、新<br/>泉、木村<br/>尾平、宮内<br/>石橋、須鎌、江<br/>川、石岡</p> <p>市丸、川本</p> <p>清水、櫻井、久<br/>保田、寺島、青<br/>島<br/>大村、田邊、佐<br/>藤、澤井<br/>寺本</p>                              |
| 7.8月  | <p>ふれあいグループが目指すもの<br/>部門PDC(学科専攻別事例発表)<br/>■大学 看護学科、PT学専攻、OT学専攻、薬学部、事務部</p> <p>業務改善<br/>法令遵守・服務規律<br/>6S活動(大学品質サービスの向上のため全教職員の理解と実行)<br/>■事業計画重点項目に対する取り組み<br/>(1) ⑩キャリア支援(看護学科の計画)</p> <p>チーム医療論</p>  | <p>大屋敷英志枝<br/>川本、坂上、鶴<br/>見、鈴木、前川<br/>ブロック長<br/>人事部<br/>財務部長</p> <p>櫻井<br/>野口</p>   |
| 9.10月 | <p>ふれあいグループが目指すもの<br/>部門PDC(学科専攻別事例発表)<br/>看護学科(東戸塚)、看護学科(山手)、PT学専攻、OT学専攻、薬学部、事務部</p> <p>業務改善<br/>法令遵守・服務規律<br/>禁煙について、交通事故について、パワーハラスメントについて、職員異動公募制度について<br/>6S活動の推進 6Sアンケート集計結果<br/>年間重点目標 ⑧FD・SD研修の充実<br/>1) 教学マネジメントにおける教員の業務内容の整理・点検について</p>   | <p>大屋敷英志枝<br/>田中、山勢、大<br/>村、西野<br/>木村、前川<br/>ブロック長<br/>人事部</p> <p>財務部長</p> <p>寺本</p>  |

|        |   |   |
|--------|---|---|
|        | 2)「公的研究費の不正床防止のためのコンプライアンス教育」および「研究活動における不正行為への対応等のための研究倫理教育」(10月科研費申請前研修)<br>チーム医療論  | 本田<br>野口  |
| 11.12月 | ふれあいグループが目指す者<br>【保健医療学部】【FD】<br>国家試験対策状況(学科専攻別事例発表) 看護学科、リハビリテーション学科 PT 学専攻、OT 学専攻<br>休退学者減少への支援策 (分析と対策)<br>授業方法改善 (1) 学生が理解しやすい授業を行うためには(好事例発表)<br>授業方法改善 (2) 学生が理解しやすい授業を行うためには(好事例発表)<br>学修成果の把握 (ポートフォリオの活用について)<br>【SD】<br>PDC 10月C (結果分析・評価) 11月PD (目標・行動)<br>【薬学部】<br>OSCE/CBT対策指導状況<br>成績低迷者への教育と生活指導<br>授業方法改善 (1) 学生が理解しやすい授業を行うためには(好事例発表)<br>授業方法改善 (2) 学生が理解しやすい授業を行うためには(好事例発表)<br>学修成果の把握 (ポートフォリオの活用について)<br>【SD】<br>学生募集 入学定員確保 (総合型選抜・学校推薦型入試の状況を踏まえた今後の対策)   | 大屋敷美志枝<br>伊藤、坂上、三川<br>西野<br>中村<br>岡<br>田中、斉藤、新泉<br>湯本<br>片川<br>定本<br>山崎<br>加藤<br>前川   |
| 2月     | 第19回ふれあいグループ医療教育研究会<br>【看護学科】<br>「慢性疾患患者に対するアドバンス・ケア・プランニングの概念分析」についての文献検討<br>本邦における月経に対する支援についての文献検討<br>地域包括支援センター看護職が夫介護者を地域の水平的組織につなげる支援と夫介護者の変容のプロセス<br>若年性認知症者への就労支援における基礎的調査<br>新人看護職のSOC (Sense of Coherence) に関する文献レビュー<br>がん看護とその家族への看護相談の実践にリフレクションを取り入れた関わりの変化<br>高齢者住宅に暮らす人のフレイルの現状と入居期間と関連<br>精神障がい者の恋愛・結婚に関するオンラインプログラムの開発と評価：ランダム化比較試験<br>Carinf partnership with nurse and HEC praxis<br>集中治療室における新人看護師が経験する困難と支援<br>わが国の感染症看護専門看護師および感染管理認定看護師の地域における感染対策活動とそのネットワークに関する文献検討<br>COVID-19 拡大に伴う自粛生活による1型糖尿病患者の心身への影響<br>コロナ発生後における地域活動への参加交流に対する都市在住高齢者の意識<第1報><br>看護職の心理的安全性と組織に関する文献レビュー<br>HPV ワクチン接種後有害事象発言者が、新型コロナワクチン接種を受ける際に必要な支援<br>「一般不妊治療を受けている女性の思い」の文献レビュー<br>周麻酔期看護師が行う術前訪問<br>地域包括支援センター保健師に関する研究の動向<br>救急・集中治療領域における DNAR 方針患者・家族への関わりについての文献検討<br>村松志保子氏の助産師活動・教育における文献検討<br>看護大学生の自己調整学習に関する文献レビュー<br>訪問看護師が行う判断に関する文献レビュー<br>訪問看護師に対しての研修内容に関する文献検討<br>コロナ禍における臨地実習の変容がもたらした影響<br>子育て世代包括支援センターにおける連携に関する文献検討<br>更年期女性の更年期症状への関連因子についての横断研究<br>【リハビリテーション学科】<br>神経解剖学と脳画像評価に対するセラピストの意識調査<br>「フォトボイス」の手法による脳卒中障害者の働く場における探索的ニーズ調査<br>人工炭酸温水による足浴が下肢筋力向上と点灯予防への可能性について<br>地域防災拠点における災害時要配慮者の受け入れに関する調査<br>作業に根差した実践 (OBP) の認識調査～第2報 テキストマイニングによる質的分析～<br>新生児の自発運動の軽量化と動きの関連<br>脳卒中後うつ病者のリハビリテーションの捉え方について—脳卒中罹患者を対象とした質的調査—<br>筋痛性脳脊髄炎/慢性疲労症候群当事者による作業の選択・継続に影響を与える要因—複線経路・等至性モデリング (TEM) を用いた質的記述的研究—<br>プロンプトフェイディング技法の指導効果—介助時における身体接触時間への影響—<br>司法作業療法学会開設とその経緯<br>TKAインプラントCR型、PS型、MP型タイプ別の筋骨格モデルの開発<br>10年間の地域健康増進活動と今後の課題 | 関谷<br>野井<br>高橋<br>佐々木<br>渡部<br>三堀<br>山田<br>日下<br>倉橋<br>松永<br>野口<br>陶山<br>塚原<br>栗原<br>松尾<br>黒川<br>山口<br>大高<br>坂口<br>是永<br>黒田<br>市川<br>石橋<br>櫻井<br>山崎<br>今野<br>大村<br>西野<br>中村<br>下田<br>新泉<br>斉藤<br>三川<br>田島<br>小林<br>鶴見<br>山田<br>鶴見 |

|    |  |   |
|----|--|---|
|    | <p><b>【薬学部】</b><br/> 横浜市の下処理施設近傍の水域を対象とした薬剤耐性菌の存在実態<br/> 放線菌株単離の条件検討<br/> 新規膵がん治療薬開発を目的としたインディルビン-亜鉛錯体の創薬<br/> γ-Sクリスタリンにおけるアスパラギン残基の脱アミド化による凝集促進<br/> 真菌代謝産物からの抗血小板活性物質の探索<br/> 天然由来有用化合物の供給に関する研究<br/> 神奈川県での飲酒の頻度・量と肝機能の相関解析<br/> AS-MSによるRAD52阻害剤探索のための条件検討<br/> 新規エストロゲン受容体アンタゴニストの創製<br/> タンパク質中に生成したスクシンイミド中間体のラセミ化：リン酸水素イオンによる触媒作用の可能性の計算化学的検討<br/> 不斉エナミノンの反応性に関する研究<br/> 酸化ストレスタンパク質の疾患バイオマーカーとしての可能性<br/> 肺炎球菌性肺炎における疾患感受性遺伝子を起点とした重症肺炎制御機構の解明<br/> 薬学教育における実習教材としてのメダカの有用性<br/> Trichosporon asahiiの病原因子の探索<br/> ATL特異的増加タンパク質をコードする遺伝子の増幅<br/> ジョン・リリー(1554-1606)「ミダス」について<br/> 肝臓における脂質代謝系の性差解析<br/> ヒト皮膚ケラチノサイトにおけるプロテアーゼ活性化受容体を介したサイトカイン応答<br/> ゲンタマイシンによる骨芽細胞の細胞毒性に対するIGF-1の回復効果<br/> 神経ペプチドPACAPによる神経突起の伸長機構について<br/> 関節リウマチ患者における薬の使用上の課題</p>   | 曾川<br>江川<br>市丸<br>加藤<br>中橋<br>片川<br>加藤<br>石川<br>栗原<br>高橋<br><br>東山<br>須藤<br>進藤<br>殿山<br>市川<br>石田<br>須田<br>山崎<br>石橋<br>木村<br>塩田<br>定本    |
| 3月 | ふれあいグループのめざすもの<br><b>【保健医療学部】</b><br>学園の必須活動【SD】PDC 12月C(結果分析・評価) 1月PD(目標・行動)<br><br>今年度の重点目標⑨【FD】自己点検・評価の厳格化(1)自己点検・評価の結果：教育の質の改善・向上の状況<br>今年度の重点目標⑨【FD】自己点検・評価の厳格化(2)自己点検・評価の結果：教育の質の改善・向上の状況<br>今年度の重点目標③【FD】効果的なチューター活動(学修状況や学修方法、試験・実習等に向けたアドバイス)<br>学園の必須活動FD・SD研修の充実(6S活動 報告)<br>今年度の重点目標⑥【SD】入学定員の確保 現在までの募集活動・入試の分析と評価 広報力強化に向けた対策(HPの見直しなど)<br>【FD】2023年度「チーム医療論」総括(専門性の理解と演習効果の検証)<br>【FD】学生相談(ハラスメントのない快適なキャンパスの実現)<br><br><b>【薬学部】</b><br>学園の必須活動【SD】PDC 12月C(結果分析・評価) 1月PD(目標・行動)<br>今年度の重点目標⑨【FD】自己点検・評価の厳格化自己点検・評価の結果：教育の質の改善・向上の状況<br>今年度の重点目標④【FD】学修支援(高大接続)入学前教育・特別教育活動の実施状況と課題<br>2024年度の重点教育①【FD】薬学部の教育サポートプログラム(入学-卒業(一貫型4Sプログラム))Sドリル、Sカルテ、Sサポート、Sシステム 高校リメディアル教育・基礎学力の定着～講義・補講・定期試験・実習サポート<br>2025年度の重点教育②【FD】薬学部4年次生 OSCE,CBT対策ガイダンス、履修科目の実践、問題演習、模試対策、集中講義など<br>今年度の重点目標③【FD】効果的なチューター活動(学修状況や学修方法、試験・実習等に向けたアドバイス)<br>今年度の重点目標②【FD】授業評価の結果を活かした授業改善、教育活動の改善への活用 学士課程教育の質的転換(学生の主体性を伸ばす能動的学修(アクティブ・ラーニング)への転換) | 大屋敷英志枝<br><br>田中、下田、久保田<br>川本<br><br>鶴見<br>増田<br><br>土田<br>前川<br><br>野口<br>寺本<br><br>木村<br>鈴木<br>中橋<br>湯本<br><br>加賀谷、石橋<br><br>若山<br>定本 |

**【教育部会】**

| 月    | 内容  | 発表者   |              |
|------|---|---|--------------|
| 4.5月 | ふれあいグループが目指すもの  | 大屋敷英志枝  |              |
|      | 業務改善<br>法令遵守・服務規律 禁煙/個人情報<br>6S活動 好事例<br>安全管理・感染防止対策 インシデント・アクシデント 感染防止最新情報 | ブロック長<br>人事部<br>財務部長<br>看護部                       |              |
|      | 看護校   | 本年度の学生募集計画・昨年度の結果分析分・説明会計画内容・高校訪問計画<br>本年度の国家試験対策 | 町田<br>相川     |
|      | リハ校   | 本年度の学生募集計画・昨年度の結果分析・説明会計画と内容・高校訪問計画<br>本年度の国家試験対策 | 藤田、久保田<br>高橋 |
|      | 下田校   | 本年度の学生募集計画・昨年度の結果分析・説明計画と内容・高校訪問計画<br>本年度の国家試験対策  | 柳<br>柳       |

|        |     |   |   |
|--------|-----|---|---|
|        | 医ピ校 | 本年度の学生募集計画・昨年度の結果分析・説明計画と内容・高校訪問計画<br>本年度の国家試験対策  | 柴田<br>福島  |
| 6月     |     | 事務課の部門 PDC について<br>医療ビジネス観光福祉専門学校事務課部門 PDC の好事例<br>部門 PDC の成果と課題<br>ワークライフバランスへの取り組み<br>業務改善での効率化<br>医療ビジネス観光福祉専門学校 観光学科 業務改善の好事例<br>6 S 活動の定着<br>6 S 活動報告～最近の事例紹介<br>医療ビジネス観光福祉専門学校医療ビジネス学科 6 S 活動についての報告<br>下田校における安全管理対策<br>リハ校の安全管理対策について<br>新型コロナウイルス感染症 5 類変更後の感染対策<br>チーム医療についての取り組み<br>専門職連携教育への取り組み<br>実習計画と課題について<br>年間実習配置とその課題について<br>年間実習計画立案の実際と臨地実習での学ばせ方の工夫<br>介護実習における実態と課題<br>吸引・吸入・酸素療法演習<br>カリキュラム改正に伴う新科目「生活機能学」の設定<br>授業デザインについて<br>資格取得のための授業間連携 | 矢崎<br>菊地<br>岩淵<br>増田<br>岡崎<br>川村<br>村越<br>小島<br>遠藤<br>柳<br>藤田<br>津田<br>並木<br>内記<br>杉山<br>高橋<br>板橋<br>福島<br>斎藤<br>増田<br>神保<br>本間 |
| 7.8月   |     | ふれあいグループが目指すもの  | 大屋敷英志枝  |
|        |     | 『業務改善』課業表と業務改善について<br>業務改善<br>法令遵守・サービス規律 禁煙/個人情報<br>6 S 活動 好事例   | 事務責任者<br>ブロック長<br>人事部<br>財務部長   |
|        | 看護校 | 『部門 PDC』看護学科<br>国試対策 ・ 3 年生国試対策カスタマーサクセス看護利用について  | 増田<br>六反  |
|        | リハ校 | 『業務改善』リハ校事務課の取り組み<br>『部門 PDC』作業療法学科<br>言語聴覚学科の国家試験対策  | 藤田<br>高橋<br>岩淵  |
|        | 下田校 | 事務改善 事務課の超勤削減に向けた取り組み<br>『部門 PDC』事務課<br>国家試験対策  | 柳<br>柳<br>教員  |
|        | 医ピ校 | 『業務改善』事務課の超勤削減に向けた取り組み<br>『部門 PDC』事務課<br>介護福祉学科の国家試験対策  | 菊地<br>菊地<br>福島  |
| 9.10月  |     | ふれあいグループが目指すもの<br>業務改善<br>法令遵守・サービス規律 禁煙について、交通事故について、パワーハラスメントについて、職員異動<br>公募制度について<br>6 S 活動の推進 6 S アンケート集計結果   | 大屋敷英志枝<br>ブロック長<br>人事部<br>財務部長  |
|        | 看護校 | 『部門 PDC』看護校 事務課の取り組み<br>『学生募集』看護学科 オープンキャンパスについて<br>『国試検定対策』国家試験対策について  | 矢崎<br>増田<br>相川  |
|        | リハ校 | 『部門 PDC』リハ校事務課の取り組み<br>『学生募集』理学療法学科<br>作業療法学科の国家試験対策  | 藤田<br>岡崎<br>神保  |
|        | 下田校 | 『部門 PDC』下田校 事務課の取り組み<br>『学生募集 効率的な広報活動について』事務課<br>『国試検定対策』秋以降の国家試験対策と不合格のリスクの高い学生について   | 柳<br>柳<br>柳   |
|        | 医ピ校 | 『部門 PDC』医療ビジネス校 観光学科の取り組み<br>『学生募集 効果的な広報戦略について』事務課<br>『国試検定対策 医療事務コース前期検定試験対策』医療ビジネス学科   | 小堀<br>柴田・三井<br>矢崎   |
| 11.12月 |     | ふれあいグループが目指すもの  | 大屋敷英志枝  |
|        | 看護校 | 『国試検定対策』3 年後を見据えた国家試験対策について<br>『学生募集』選ばれる学校を目指す<br>『休退学防止』明日に向かって GO!<br>『学生が理解しやすい授業 (授業方法改善)』模擬授業「看護倫理」見ているものが<br>違うから起こること   | 相川<br>町田<br>増田<br>秋田  |
|        | リハ校 | 『国家試験対策』リハ校理学療法学科国家試験対策<br>『学生募集』言語聴覚学科の学生募集<br>理学療法学科の休退学防止策<br>SD 研修：業務改善 作業効率を考えた時間短縮の提案<br>FD 研修：授業方法の改善 学生が理解しやすい授業  | 岡崎<br>岩淵<br>岡崎<br>藤田<br>高橋  |

|      |     |  |   |
|------|-----|--|---|
|      | 下田校 | 『国試検定対策』国家試験対策に秋以降の実施内容について<br>『学生募集』現在の広報活動と来年度に向けて 事務課<br>『休退学防止』現状とその対策<br>『模擬授業(授業方法改善)』小児看護学における成長発達段階を学習する   | 柳<br>柳<br>柳<br>竹村   |
|      | 医ビ校 | 『国試検定対策』観光学科における国家検定対策の取り組み<br>『学生募集』2024年度学生募集活動の中間報告及び反省と課題<br>『休退学防止』介護福祉学科の休退学防止に対する取組<br>『学生が理解しやすい授業 (授業方法改善)』医療ビジネス学科 IT コースへの AI 授業の導入例  | 森<br>柴田・三井<br>福島<br>遠藤  |
| 2月   |     | 第19回ふれあいグループ医療教育研究会<br>学生に被害をもたらす契約トラブル対策-SNS ネット利用-<br>定期試験や実習における対策-感染症対策<br>感染症対応フローチャートの活用<br>実習における学生指導のあり方について<br>実習調整の課題を明らかにする<br>理学療法士学生の自己調整学習と自己効力感の特徴<br>オンデマンド教材の作成と活用<br>確認テストの現状と課題について<br>看護基礎教育における知識・技術・態度の統合を目指したシミュレーション教育の効果<br>早期グループ討議導入経緯と経過について<br>ディスカッション わかりやすい工夫された教授法をデザインする | 矢崎<br>神保<br>津田<br>高橋<br>板橋<br>松井<br>小堀<br>柳<br>石井<br>杉山<br>古谷 |
| 1.3月 |     | ふれあいグループが目指すもの   | 大屋敷美志枝  |
|      | 看護校 | 『部門 PDC』 事務課の部門 PDC について<br>『国試対策』2学年の取り組み状況<br>『学生募集』今年度における振り返りと一般入試に向けて<br>『休退学防止』成績一覧表を用いた支援<br>『学生が理解しやすい授業 (授業方法改善)』学ぶことを動機付ける   | 矢崎<br>紺谷<br>内田<br>増田<br>田中                                    |
|      | リハ校 | 『部門 PDC』12月の ST 学科部門 PDC<br>『国試対策』本年度 ST 学科国家試験対策の現状<br>『学生募集』本年度の募集状況と次年度への課題<br>『休退学防止』手のかかる学生への個別指導<br>『学生が理解しやすい授業 (授業方法改善)』手のかかる学生にわかりやすい授業展開   | 岩淵<br>岩淵<br>久保田<br>高橋<br>米本                                   |
|      | 下田校 | 『部門 PDC』『国試対策』『学生募集』『休退学防止』2023年度の実施状況と来年度への課題<br>『学生が理解しやすい授業 (授業方法改善)』<br>老年看護「高齢者のエンドオブライフケア ～教授方略としての動画の活用～」   | 柳<br><br>三枝   |
|      | 医ビ校 | 『部門 PDC』事務課12月の部門 PDC 実施状況と課題について<br>『国試検定対策』医療ビジネス学科の検定試験対策について<br>『学生募集』2025年度募集に向けた広報戦略<br>『休退学防止』観光学科の休退学防止に対する取り組み<br>『学生が理解しやすい授業 (授業方法改善)』～国家試験合格に向けて～留学生が理解しやすい授業方法  | 菊地<br>本間<br>柴田・三井<br>川村<br>福島                                 |

### 【保育部会】

| 月    | 内容  | 発表者   |
|------|---|---|
| 4.5月 | ふれあいグループが目指すもの<br>幼児教育研修 業務改善<br>幼児教育研修 課業表<br>保育研修 園で取り組むべき児童虐待<br>保育研修 虐待防止を考える<br>保育研修 研修から学んだ保育活動や言葉かけ、関わり方の工夫<br>保育研修 保育園の一日<br>保育研修 子ども中心の保育とその実践例<br>幼児教育研修 各クラスの園児対応について<br>幼児教育研修 自己点検・自己評価の検証<br>幼児教育研修 年間行事予定の確認・検証<br>保育研修 園行事とこどもの成長 | 大屋敷美志枝<br>教職員<br>教職員<br><br>} DVD<br>DVD<br>教職員<br>教職員<br>教職員<br>DVD    |
| 6月   | 2023年度専門部会別研修会<br>安全管理対策①<br>安全管理対策②<br>チーム医療について考える (園医や地域医療との関わりについて)<br>朝礼活動内容について<br>部門 PDC<br>個人 PDC<br>業務改善について<br>6S活動を通しての安全な保育<br>専門職としてのレベルアップ<br>実習生受入と人材確保について  | 植松他<br>教員<br>教員<br>教員<br>教員<br>教員<br>教員<br>教員<br>教員<br>島山他<br>吉田他<br>森本 |

|        |   |   |
|--------|---|---|
| 7.8月   | ふれあいグループが目指すもの<br>保育研修 6S活動について<br>保育研修 業務改善と課業表<br>保育研修 事故予測への取り組みに対する改善<br>保育研修 乳幼児突然死症候群への対応策と子育て環境<br>保育研修 事故防止対策<br>保育研修 口の仕組みと働き、食の関わりについて<br>幼児教育研修 自己評価の検証<br>幼児教育研修 個人面談・保育参観の結果検証<br>幼児教育研修 各クラスの園児対応及び関わりの難しい子への対応   | 大屋敷英志枝<br>DVD<br>教職員<br>教職員<br>教職員  |
| 9.10月  | ふれあいグループが目指すもの<br>保育研修 個人PDC<br>保育研修 業務改善<br>保育研修 保育所における感染症対策改訂のポイント<br>保育研修 保育・教育現場における児童の車両送迎に係る安全管理ガイドライン<br>保育研修 行方不明・置き去り事故防止のためのチェックリスト<br>保育研修 行事等の活動の様子<br>保育研修 行事を通しての関わり方とこどもの様子<br>保育研修 子どもが楽しく取り組める保育の工夫<br>保育研修 子ども主体の保育生活について  | 大屋敷英志枝<br>DVD<br>教職員<br>教職員<br>教職員  |
| 11.12月 | ふれあいグループが目指すもの<br>保育研修 危機管理対策（園内でのヒヤリハットについて検証する）<br>保育研修 部門PDC（各園の部門PDCの振り返りを行う）<br>保育研修 6S活動（取り組みについて検証する）<br>保育研修 災害時及び不審者対策<br>保育研修 災害への対策<br>保育研修 水害への対策<br>保育研修 救命救急の流れと心肺蘇生・AEDの使用について<br>保育研修 より良い人間関係を築くために<br>保育研修 仕事を円滑に進めるためのコミュニケーション術<br>保育研修 療育セミナーに参加して   | 大屋敷英志枝<br>教職員<br>教職員<br>教職員<br>DVD<br>教職員<br>教職員<br>教職員                                 |
| 2月     | 第19回ふれあいグループ医療教育研究会<br>乳幼児の命を守る感染症対策について検証する<br>子どもの発達と事故防止について<br>行方不明・置き去り事故防止のためのチェックリスト<br>園の事故防止・園児送迎に関する対策と実践<br>チーム医療について考えるーAED研修を受け、いつでも迅速に行動できるように備えるー<br>毎日の朝礼の事例と取組を検証する<br>年間行事計画を踏まえて部門PDCを考える<br>個人PDCを作成し保育内容や業務内容が適切か、目標が達成できるように行動出来たかを検証する<br>eラーニング研修を円滑に進めるために<br>6S活動を通して日々の業務を確認・検証する<br>発達支援研修に参加して<br>食育と子どもの関わり<br>保育現場において円滑なコミュニケーションを計るには<br>実習生を受け入れる際の注意点や実習生の園の対応を考える | 教員<br>教員<br>DVD<br>森本<br>教員<br>黒川<br>教員<br>教員<br>教員<br>教員<br>豊島<br>教員<br>織田<br>山本<br>島山 |
| 1.3月   | ふれあいグループが目指すもの<br>保育研修 業務改善<br>保育研修 課業表について<br>保育研修 子育てに絵本を<br>保育研修 良い絵本とは<br>保育研修 楽器の使い方と楽器遊びについて<br>保育研修 ケロボンズ・鈴木翼夏の講習に参加して<br>保育研修 こどもの生活と遊び～架け橋期につなげたいこと～<br>保育研修 気になる子への関わり方<br>幼児教育研修 年間行事予定の確認及び検証<br>幼児教育研修 自己評価・自己点検の検証  | 大屋敷英志枝<br>教員<br>教員<br>DVD<br>教員<br>教員   |

### 3 学生の人間性を高める活動

本学園では、理念「人を尊び、命を尊び、個を敬愛す」の実践できる学生を教育するために、湘南医療大学では、「総合教育科目」の科目群、看護・医療系専門学校では、「科学的思考の基礎と人間と生活、社会の理解」の科目群において、人間形成に必要な科目を初年度に学修することで、心の成長につながってきました。また、学生の積極性、社会性を涵養する、他を知る・思いやる教育の一環として、学園全体で行うクリスマスキャロリング活動を継続しています。新型コロナウイルス等感染症の影響で、病院内での合唱やレクリエーションの実施は難しくなりましたが、その代わりに、病院の患者様、施設の利用

者様に安らぎを覚えていただけるようなメッセージカードや飾りつけの制作する活動を継続しています。

本学園では、ふれあいグループ病院施設と連携し、地域住民や医療系業種に興味のある高校生、保健医療福祉に関わる方々に参加いただけるような公開講座や研修を開催してきました。

2023年度の公開講座、出張講義の実績を以下に示します。研修の開催状況は、80ページに示すとおりです。

| 回 | 日にち       | テーマ  | 講師                                | 参加人数              |
|---|-----------|--|-----------------------------------|-------------------|
| 1 | 7月9日(土)   | 『私、今、めまい、したわ』を勉強しよう  | 喜多村 健 副学長                         | 2名                |
| 2 | 7月23日(土)  | 知っていて損のない病院と健診のつきあい方<br>音楽を聴いて体感、目で実感！～感情を数字で見よう～                    | 若山 恵 教授<br>倉橋 悠子 助教               | 6名<br>15名         |
| 3 | 8月27日(土)  | 脳機能とリハビリテーション<br>「がん」について、大切な人と話してみませんか？<br>認知症の予防改善～特に芳香療法による～      | 増田 雄亮 講師<br>岡 多恵 講師<br>塩田 清二 教授   | 3名<br>4名<br>5名    |
| 4 | 10月29日(土) | 「行動を変えたいあなたに贈る処方箋～日常生活に活かす<br>行動理論～」<br>放射線のこと～身近な放射線から医療・エネルギー利用まで～ | 小林 和彦 教授<br>加藤 英明 准教授             | 6名<br>5名          |
| 5 | 11月19日(土) | タンパク質の老化と病気<br>コロナ渦だからこそ 見直す手指衛生<br>こころの健康と作業療法                      | 高橋 央宣 教授<br>渡部 節子 教授<br>三川 年正 准教授 | 10名<br>10名<br>15名 |
| 6 | 3月25日(土)  | 脳卒中になっても歩くためのコツ<br>関節の痛みと疾患～誰でも可能性がある変形関節症～                          | 大村 優慈 講師<br>定本 清美 教授              | 0名<br>3名          |

| No. | 日程         | 学部・学科      | 教員     | 場所                | 学年           | 都道府県 | 訪問者                    | 参加者数 |
|-----|------------|------------|--------|-------------------|--------------|------|------------------------|------|
| 1   | 2023/4/11  | 看護, 理学, 作業 | 教員(看護) | 神奈川県立金沢総合高等学校     | 高校2年生        | 神奈川県 | 看護/小林紀明先生<br>理学/櫻井好美先生 | 9    |
| 2   | 2023/5/11  | 薬学         | 教員(薬)  | 川崎市立橋高等学校         | 高校1年生        | 神奈川県 | 薬/須藤通先生                | 24   |
| 3   | 2023/5/22  | 看護         | 教員(看護) | 横須賀市立横須賀総合高等学校    | 高校1年生        | 神奈川県 | 看護/塚原ゆかり先生             | 5    |
| 4   | 2023/5/29  | 作業, 理学     | 教員(理学) | 神奈川県立 カリタス女子高等学校  | 高校2年生        | 神奈川県 | 理学/斎藤琴子先生              | 7    |
| 5   | 2023/5/29  | 理学, 作業     | 教員(作業) | 横須賀市立 横須賀総合高等学校   | 高校1年生        | 神奈川県 | 作業/西野由希子先生             | 16   |
| 6   | 2023/6/22  | 薬学         | 教員(薬)  | 神奈川県立 清泉女学院高等学校   | 高校3年生, 高校2年生 | 神奈川県 | 薬/東山公男先生               | 4    |
| 7   | 2023/6/23  | 理学, 作業     | 教員(作業) | 神奈川県立 横浜学園高等学校    | 高校3年生        | 神奈川県 | 作業/増田 雄亮 先生            | 7    |
| 8   | 2023/6/27  | 看護         | 教員(看護) | 神奈川県立秦野総合高等学校     | 高校2年生        | 神奈川県 | 看護/松島泰恵先生              | 2    |
| 9   | 2023/7/18  | 理学         | 教員(理学) | 神奈川県立 上溝高等学校      | 高校2年生        | 神奈川県 | 薬/竹内尚子先生               | 15   |
| 10  | 2023/7/21  | 看護         | 教員(看護) | 神奈川県立大和南高等学校      | 高校2年生        | 神奈川県 | 看護/石川真理子先生             | 35   |
| 11  | 2023/10/13 | 理学, 作業     | 教員(作業) | 神奈川県立津久井高等学校      | 高校1年生        | 神奈川県 | 作業/西野由希子先生             | 7    |
| 12  | 2023/10/25 | 薬学         | 教員(薬)  | 私立 森村学園高等部        | 高校1年生        | 神奈川県 | 薬/細谷龍一郎先生              | 32   |
| 13  | 2023/10/25 | 看護         | 教員(看護) | 静岡県立富士宮東高等学校      | 高校2年生        | 静岡県  | 看護/小林紀明先生              | 5    |
| 14  | 2023/10/27 | 薬学         | 教員(薬)  | 神奈川県立 伊志田高等学校     | 高校2年生, 高校1年生 | 神奈川県 | 薬/佐藤淳也先生               | 35   |
| 15  | 2023/10/28 | 薬学         | 教員(薬)  | 東京都立 駒沢学園女子高等学校   | 高校1年生        | 神奈川県 | 薬/東山公男先生               | 40   |
| 16  | 2023/11/6  | 薬学         | 教員(薬)  | 神奈川県立 麻生高等学校      | 高校1年生        | 神奈川県 | 薬/小野塚真理先生              | 8    |
| 17  | 2023/11/9  | 薬学         | 教員(薬)  | 神奈川県立 旭高等学校       | 高校1年生        | 神奈川県 | 薬/細谷龍一郎先生              | 20   |
| 18  | 2023/11/9  | 看護         | 教員(看護) | 神奈川県立 上鶴間高等学校     | 高校2年生        | 神奈川県 | 看護/岡多恵先生               | 14   |
| 19  | 2023/11/10 | 看護         | 教員(看護) | 神奈川県立 光明学園相模原高等学校 | 高校1年生        | 神奈川県 | 看護/牛田貴子先生              | 9    |
| 20  | 2023/11/11 | 看護         | 教員(看護) | 私立 湘南学院高等学校       | 高校2年生        | 神奈川県 | 看護/三ツ井圭子先生             | 12   |
| 21  | 2023/11/15 | 看護         | 教員(看護) | 神奈川県立厚木高等学校       | 高校1年生        | 神奈川県 | 看護/清水奈緒美先生             | 16   |
| 22  | 2023/11/16 | 看護         | 教員(看護) | 神奈川県立 横浜桜陽高等学校    | 高校2年生        | 神奈川県 | 看護/野口京子先生              | 7    |
| 23  | 2023/11/16 | 薬学         | 教員(薬)  | 私立 向上高等学校         | 高校3年生        | 神奈川県 | 薬/加藤裕久先生               | 14   |
| 24  | 2023/11/21 | 看護         | 教員(看護) | 神奈川県立 新羽高等学校      | 高校1年生        | 神奈川県 | 看護/櫻井友子先生              | 9    |
| 25  | 2023/12/19 | 理学, 作業     | 教員(理学) | 神奈川県立茅ヶ崎高等学校      | 高校2年生, 高校1年生 | 神奈川県 | 理学/大村優慈先生              | 72   |
| 26  | 2023/12/21 | 薬学         | 教員(薬)  | 東京都立 府中東高等学校      | 高校2年生        | 東京都  | 薬/東山公男先生               | 3    |
| 27  | 2024/1/30  | 理学         | 教員(理学) | 神奈川県立大師高等学校       | 高校2年生        | 神奈川県 | 理学/山田拓実先生              | 1    |
| 28  | 2024/2/6   | 理学, 作業     | 教員(理学) | 神奈川県立 伊勢原高等学校     | 高校1年生        | 神奈川県 | 理学/中村 壽志先生             | 20   |
| 29  | 2024/2/22  | 理学, 作業     | 教員(理学) | 私立 武相高等学校         | 高校1年生        | 神奈川県 | 理学/中尾陽光先生              | 4    |
| 30  | 2024/3/4   | 薬学         | 教員(薬)  | 私立 湘南学院高等学校       | 高校1年生        | 神奈川県 | 薬/石井英俊先生               | 30   |
| 31  | 2024/3/7   | 理学, 作業     | 教員(作業) | 神奈川県立大和南高等学校      | 高校2年生        | 神奈川県 | 作業/田邊浩文先生              | 5    |
| 32  | 2024/3/13  | 理学, 作業     | 教員(理学) | 神奈川県立座間総合高等学校     | 高校2年生        | 神奈川県 | 理学/中村 壽志先生             | 3    |
| 33  | 2024/3/14  | 看護         | 教員(看護) | 神奈川県立 藤沢清流高等学校    | 高校1年生        | 神奈川県 | 看護/坂口達哉先生              | 6    |
| 34  | 2024/3/14  | 看護         | 教員(看護) | 私立 三浦学苑高等学校       | 高校2年生, 高校1年生 | 神奈川県 | 看護/渡部節子先生              | 42   |
| 35  | 2024/3/18  | 薬学         | 教員(薬)  | 横浜市立桜丘高等学校        | 高校1年生        | 神奈川県 | 薬/浦裕之先生                | 26   |
| 36  | 2024/3/18  | 理学, 作業     | 教員(理学) | 神奈川県立生田東高等学校      | 高校1年生        | 神奈川県 | 理学/森尾裕志先生              | 5    |
| 37  | 2024/3/19  | 薬学         | 教員(薬)  | 神奈川県立西湘高等学校       | 高校1年生        | 神奈川県 | 薬/尾関あゆみ先生              | 27   |
| 38  | 2024/3/21  | 薬学         | 教員(薬)  | 東京都立桜町高等学校        | 高校1年生        | 東京都  | 薬/東山公男先生               | 19   |
| 39  | 2024/3/21  | 看護         | 教員(看護) | 神奈川県立厚木西高等学校      | 高校1年生        | 神奈川県 | 看護/山崎圭子先生              | 22   |
| 合計  |            |            |        |                   |              |      |                        | 385  |

上記のような活動は、各校の学生募集活動にもつながる。

2024年4月1日現在の入学定員充足率は、湘南医療大学保健医療学部は100%以上、薬学部は47.7%、大学院は、修士課程75%、開設初年度の博士後期課程は200%となった。また、茅ヶ崎看護専門学校は85%、茅ヶ崎リハビリテーション専門学校は74.8%、湘南医療大学附属下田看護専門学校は37.5%、医療ビジネス観光福祉専門学校は72%、18歳人口の減少で、各校とも学生確保に苦慮し、専門学校は、過去に無く入学定員充足率の低さとなった。

| 2024年度学生募集       |          |             | 入学定員 | 志願者数 | 受験者数 | 合格者数 | 入学者数  | 入学定員充足率 |
|------------------|----------|-------------|------|------|------|------|-------|---------|
| 湘南医療大学           | 保健医療学部   | 看護学科        | 140  | 358  | 331  | 269  | 147   | 105.0%  |
|                  |          | リハビリテーション学科 | 80   | 187  | 172  | 136  | 84    | 105.0%  |
|                  |          | 理学療法学専攻     | 40   | 135  | 122  | 70   | 44    | 110.0%  |
|                  |          | 作業療法学専攻     | 40   | 52   | 50   | 66   | 40    | 100.0%  |
|                  | 薬学部      | 医療薬学科       | 130  | 149  | 142  | 64   | 61    | 47.7%   |
|                  |          | 編入          | -    | 2    | 2    | 1    | 1     | -       |
|                  | 大学院      | 修士課程        | 12   | 9    | 9    | 9    | 9     | 75.0%   |
|                  |          | 保健医療学研究科    | 3    | 6    | 6    | 6    | 6     | 200.0%  |
|                  | 専攻科      | 公衆衛生看護学専攻   | 20   | 86   | 85   | 24   | 20    | 100.0%  |
|                  |          | 助産学専攻       | 15   | 85   | 84   | 22   | 15    | 100.0%  |
| 茅ヶ崎看護専門学校        | 看護学科     | 80          | 79   | 75   | 71   | 68   | 85.0% |         |
| 茅ヶ崎リハビリテーション専門学校 | 理学療法学科   | 70          | 62   | 62   | 62   | 61   | 87.1% |         |
|                  | 作業療法学科   | 30          | 9    | 9    | 9    | 9    | 30.0% |         |
|                  | 言語聴覚学科   | 35          | 33   | 33   | 32   | 31   | 88.6% |         |
| 湘南医療大学附属下田看護専門学校 | 看護学科     | 40          | 26   | 26   | 26   | 15   | 37.5% |         |
| 医療ビジネス観光福祉専門学校   | 医療ビジネス学科 | 40          | 24   | 22   | 21   | 19   | 47.5% |         |
|                  | 介護福祉学科   | 60          | 74   | 73   | 54   | 53   | 88.3% |         |

※湘南医療大学作業療法学専攻の合格者数及び入学者数には、理学療法学専攻第1志望で作業療法学専攻第2志望の人数が含まれています。

#### 4 学生の将来につながる指導力の発揮

教員は、学問的指導の他、人間的指導を促すために、面談の時間を等を通じて、卒業・就職に到達できるよう生活に関する指導、アドバイスを行いました。

本学園は、ふれあいグループとの連携により、同グループによる有為な人材の育成と教育研究の振興のための「ふれあいグループ奨学金制度」の活用をしています。2023年度は、湘南医療大学105人、茅ヶ崎看護専門学校73人、茅ヶ崎リハビリテーション専門学校37人、湘南医療大学附属下田看護専門学校30人、医療ビジネス観光福祉専門学校8人 計253人が奨学金を受給し、経済的な不安なく学業を継続しました。

また、2023年度湘南医療大学卒業生の主な就職先は下表の通りでした。

| 看護学科<br>卒業生 77名       |    | リハビリテーション学科理学療法学専攻<br>卒業生 33名 |    | リハビリテーション学科作業療法学専攻<br>卒業生 29名 |    |
|-----------------------|----|-------------------------------|----|-------------------------------|----|
| ふれあいグループ              | 35 | ふれあいグループ                      | 13 | ふれあいグループ                      | 12 |
| 神奈川県内病院・クリニック・行政（保健師） | 31 | 神奈川県内病院・クリニック                 | 13 | 神奈川県内病院・クリニック                 | 13 |
| 神奈川県外病院               | 10 | 神奈川県外病院                       | 5  | 神奈川県外病院                       | 3  |
| 進学                    | 1  | その他                           | 2  | その他                           | 1  |

2023年度の各校の国家試験合格率（新卒）は、下表の通りの結果である。湘南医療大学は、看護学科（97.4%）を除いたすべての学科、専攻科、領域で100%の結果となった。茅ヶ崎看護専門学校は96.7%、茅ヶ崎リハビリテーション専門学校は理学療法学科100%、言語聴覚学科96.7%、作業療法学科90.5%、社会福祉専攻科96.3%、湘南医療大学附属下田看護専門学校は80.8%、医療ビジネス観光福祉専門学校は74.1%であった。2024年度の国家試験に向けて、各校とも全員合格させることが出来るように学修指導を充実させる方針である。

各校国家試験合格状況【令和5年度】

| 学校名              | 学科名   | 年度        | 新卒        |      |        |          | 資格名   | 回     |     |
|------------------|---|-----------|-----------|------|--------|----------|-------|-------|-----|
|                  |   |           | 受験者数      | 合格者数 | 合格率    | 全国平均(新卒) |       |       |     |
| 湘南医療大学           | 保健医療学部  | 令和5年度     | 看護学科(看護師) | 77   | 75     | 97.4%    | 93.2% | 看護師   | 113 |
|                  |   |           | 看護学科(保健師) | 8    | 8      | 100.0%   | 97.7% | 保健師   | 110 |
|                  |   |           | 理学療法学専攻   | 33   | 33     | 100.0%   | 95.2% | 理学療法士 | 59  |
|                  |   |           | 作業療法学専攻   | 29   | 29     | 100.0%   | 91.3% | 作業療法士 | 59  |
|                  | 保健医療学研究科  | 助産学領域     | 令和5年度     | 3    | 3      | 100.0%   | 99.3% | 助産師   | 107 |
|                  | 専攻科   | 公衆衛生看護学専攻 | 令和5年度     | 20   | 20     | 100.0%   | 97.7% | 保健師   | 110 |
|                  |   | 助産学専攻     | 令和5年度     | 15   | 15     | 100.0%   | 99.3% | 助産師   | 107 |
| 茅ヶ崎看護専門学校        | 看護学科  | 令和5年度     | 60        | 58   | 96.7%  | 93.2%    | 看護師   | 113   |     |
| 茅ヶ崎リハビリテーション専門学校 | 理学療法学科  | 令和5年度     | 49        | 49   | 100.0% | 95.2%    | 理学療法士 | 59    |     |
|                  | 作業療法学科  | 令和5年度     | 21        | 19   | 90.5%  | 91.3%    | 作業療法士 | 59    |     |
|                  | 言語聴覚学科  | 令和5年度     | 30        | 29   | 96.7%  | 72.4%    | 言語聴覚士 | 26    |     |
|                  | 社会福祉専攻科(通信課程)   | 令和5年度     | 54        | 52   | 96.3%  | 80.7%    | 社会福祉士 | 37    |     |
| 湘南医療大学附属下田看護専門学校 | 看護学科  | 令和5年度     | 26        | 21   | 80.8%  | 93.2%    | 看護師   | 113   |     |
| 医療ビジネス観光福祉専門学校   | 介護福祉学科  | 令和5年度     | 27        | 20   | 74.1%  | 71.5%    | 介護福祉士 | 36    |     |
|                  | <small>介護福祉士実務者研修(通信課程)実務者研修は養成校の概念と異なるため、合格率には介護全体の合格率を算入。</small> | 令和5年度     | 17        | 17   | 100.0% | 82.8%    |       | 36    |     |

なお、2023年度の各校の退学者数の状況は、以下の通りである。

大幅に改善がみられた設置校もあるが、退学率が10%を超える学校もあり、2023年度も各校目標未達成となった。成績不振者への学習支援、進路変更にみられる入学前のマッチングエラーを減少させるなど、担任やチューターが責任を持ち次年度は休退学者が0人にできるような指導体制を検討する。

| 学校名              | 退学者数(除籍含) | 2023年度 | 2022年度 | 対比  | 2023年度退学率 |
|------------------|-----------|--------|--------|-----|-----------|
| 湘南医療大学           |           | 21     | 28     | -7  | 2.3%      |
| 茅ヶ崎看護専門学校        |           | 11     | 11     | 0   | 5.0%      |
| 茅ヶ崎リハビリテーション専門学校 |           | 14     | 41     | -27 | 3.7%      |
| 湘南医療大学附属下田看護専門学校 |           | 4      | 4      | 0   | 4.3%      |
| 医療ビジネス観光福祉専門学校   |           | 14     | 10     | 4   | 10.8%     |

### III 学校法人湘南ふれあい学園中長期計画に関する報告

○組織、運営に関する目標

1) 学部等の新設

・文部科学省の認可を受け(2023年9月)て、大学院保健医療学研究科保健医療学専攻(博士後期課程)設置した。(2024年4月)

・茅ヶ崎保健医療学部(仮称)(現 健康科学部)設置(2025年4月)に向けて準備委員会を設置したものの、2026年4月の設置延期となった。

・大学院修士課程での「医療管理経営者」養成領域の設置にむけて、専任教員を配置し、2025年4月に領域を設置する準備態勢を整えた。

・大学院において、新たな分野の専門看護師・認定看護師の養成やNPナースの養成のコースを設置するために、研修や調査を開始した。

・湘南東部総合病院で指定を受けている特定行為研修を継続することになった。

## 2) 教職員の充実

・若手教員や中堅事務職員の確保が困難な状況ではあるものの、継続的に求人を公表するとともに、設置専門学校との教職員の連携（募集広報分野）を活発にした。

## 3) 組織の充実

・大学院修士課程において、現行 3 領域（健康増進・予防領域、心身機能回復領域、助産学領域）に加えて、医療マネジメント領域の設置にむけて、人材を確保し、準備を行っている。

## 4) 業務の効率化

・業務処理方法の効率化の推進を継続している。

## 5) 補助金の獲得

・経常経費補助金は、約 190 百万円で獲得増となったものの、私立大学等改革総合支援事業の採択には至らず、次年度に向けて改善活動を実施する。

## ○教育、研究の活性化に関する目標

### 1) 教育内容の改善

・国家資格合格率 100%を達成するための学修支援、CBT（実務実習前評価試験）、OSCE（薬学共用試験）の準備教育の強化を図った。

・医系科目の再編（非常勤講師中心から専任教員への転換）は、達成度 50%となり、着実に進めている。

### 2) 教育方法の改善

・DP・CP・APに基づく学修者を養成のために、その指標となるアセスメントポリシーの制定に向けて準備をすすめている。

・ポートフォリオ（教育業績記録）は導入したものの、ディプロマサプリメント（成績証明書付加情報）の導入（課程履修の状況、卒論、GPA 推移、獲得スキル、資格取得、表彰など）は、次年度の達成課題となった。

・薬学部においては、「シラバス」を保健医療学部と統一した。

・大学院生教育の一環としてティーチングアシスタント（TA）制度は、博士後期課程の設置により、その運用を検討する。

### 3) 研究の活性化

・外部研究資金の獲得は、申請者教員の半数、採択率は約 20%となり、目標達成に至っていない。

・研究不正防止教育として、研究倫理 e ラーニングシステム受講の 100%を目標として掲げたものの、90%台であった。

・研究活動に関しては、大学・グループ病院間の共同研究、大学ブランディング研究、並びにグループ病院での治験の開始準備(薬学部)を掲げたものの、大きな進歩を得ることができなかった。

## ○新規施設等の整備に関する目標

1) 湘南医療大学東戸塚キャンパス C 棟に大学院博士後期課程の院生研究室等を整備した。

茅ヶ崎保健医療学部（仮称）（現 健康科学部）の校舎整備は、設置計画の 1 年延期に伴い、整備計画も遅延となっている。

2) 薬学等附属薬用植物園の整備は温室を除き、運用できる準備態勢を整えた。

## ○教育・研究用備品等の更新・整備に関する目標

### 1) 教育・研究用機器の重点整備

・大学院博士後期課程設置に伴う、院生の研究に必要な設備の整備を行った。

・2023 年度に必要な薬学部の実験実習等に関わる機械器具の配備を行った。

## ○点検評価及び情報公開に関する目標

### 1) 授業評価に関する目標

・学生授業評価アンケート項目の見直し

### 2) 研究業績の評価に関する目標

・本学 HP において、過去年度を含めて学内外への研究者の研究活動を積極的に公表している。

### 3) 外部評価及び自己点検評価に関する目標

・令和7年の薬学教育認証評価の受審（中間）に向けて必要な情報の収集と管理、体制の整備と準備を進めた。また、令和6年度リハビリテーション教育認証評価の受審準備について情報の共有と審査項目の調査等準備を開始した。

・また、私立大学改革総合支援事業におけるIR関連項目の達成に向けて、準備を開始した。

#### 4) 情報公開に関する目標

・HPにおいて、教育、研究企画、イベント、成果等の外部公開の促進を図った。

#### ○地域連携及び社会貢献に関する目標

##### 1) 連携の強化

・ふれあいグループ病院施設との学生・教員・実習指導者との連携強化するために、実習指導者調整会議を開催するなど、実習の意義、内容、指導法について共通認識を図っている。

##### 2) 地域貢献

・地域が開催する医療、看護、リハビリテーション、薬学等に関する地域支援ネットワークの構築を戸塚区や関連団体と図っている。また、公開講座において、計画を推進した。

・毎年実施している病院施設訪問（クリスマスキャロリング）が定着している。今後はこども対象レク・イベントを開催するなど、低学年から職業意識を高められる企画を実施する。

#### ○入試、広報、学生募集の改善に関する目標

##### 1) 入試制度の改善

・薬学部の入試制度（特待生度）を導入し、入学生の確保に努めたが、定員充足率を満たすことはできなかった。同様に、年内入試に注力して、本学に入学したい学生を確保する入試体系など、学生確保の戦略をさらに進める。

##### 2) 学生募集・広報体制の改善

・ホームページ、SNSの活用（受験生、保護者、高校教員のニーズへの対応）特にYouTubeからの配信を行い、募集広報地域の範囲拡大を進めているが、薬学部の募集は苦戦した。

・高大連携事業の強化を謳ったが、連携校の増加にはつながらなかった。しかし、研究室訪問やバス見学の高等学校が増加し、本学の認知度を向上させている。

#### ○学生生活、修学及び就職等の支援強化に関する目標

##### 1) 学生生活、修学支援

・前年度に比較して、各校とも休退学者減少への取り組みにより、減少している。

・チューター制度の充実により、国家試験の成績、就職実績の向上が堅調である。

・カウンセラーは非常勤であるものの、各校に配置している。しかし、利用者は少ないため、今後は啓発活動を行い、様々な学生の問題や課題を早期に発見し、解決できるように支援する。

・学生の保護者との情報交換、大学理解のための保護者会を開催し、大学教育、本学の魅力、学生指導体制、国家試験指導体制など、理解を図っている。

##### 2) 就職・キャリア支援

・グループ就職説明会を実施して、先輩の体験・アドバイスを受ける機会を設けている。

・連携同窓会の諸活動が停滞しているため、今後は各校の代表者との連携を深めて湘南ふれあい学園の組織を強化する。

IV 2023年度各学校の事業計画の概要に関する報告

1) 湘南医療大学

2023年度 湘南医療大学 保健医療学部

| 2023年度 保健医療学部<br>事業計画         | 教育の展開   | 具体的な取組の指標  | 2023年度 指標の結果  |  | 2023年度 保健医療学部 事業計画概要  |   | 2023年度 保健医療学部 事業報告   |  |
|-------------------------------|---|--|---|--|---|---|--|--|
|                               |   |  | 看護  | リハ   | 看護学科  | リハビリテーション学科   | 看護学科   | リハビリテーション学科  |
| ①経常費補助金の獲得増及び私立大学等改革総合支援事業の採択 | 1. 教育の質向上<br>・IR機能（データ分析）の強化                    | ・入学者動向調査<br>・在学生の入試成績との相関の調査<br>・在学時の成績推移のデータ<br>・卒業時の履修状況の傾向<br>・コンピテンシー評価/社会人基礎力調査<br>・過年度比較調査 等                                   | ・入学者学籍簿に、入試方法別（総合型選抜Ⅰ期・Ⅱ期、学校推薦型選抜、一般選抜Ⅰ期・Ⅱ期、共通テスト利用選抜Ⅰ期・Ⅱ期）に記載し、成績データの紐付けを開始した。<br>・コンピテンシー評価/社会人基礎力調査（PROGテスト）を実施した。各学生自己理解とチューター指導に活用した。  | 新入生を入試方法別（総合型選抜Ⅰ期・Ⅱ期、学校推薦型選抜、一般選抜Ⅰ期・Ⅱ期、共通テスト利用選抜Ⅰ期・Ⅱ期）、一般入試選抜Ⅰ期、Ⅱ期）に記載し、成績データと入学後学力試験との紐付けを開始し、学生指導に反映できる体制とした。  | 本学の教育の質の向上に繋げるため、2022年度の国の経常費補助金（教育の質に係る客観的指標）及び私立大学等改革総合支援事業（特別補助）の交付結果を分析検討し、2023年度の交付額の拡充に向けた措置を講ずる。そのために、IR機能の強化を図り、IR等の知識を有し、データ分析を実施する専門職の配置して、各種評価項目の状況調査を行うとともに、過年度比較調査並びに調査データ（IR情報）の公開を図り、教育の質の向上に努める。  | 教育質向上のためにIRデータの集積を図り、データ分析を実施することを目指した体制構築に着手した。まず、看護学科入学生の入学試験の成績概要や入学前教育などの情報を収集し、情報の取り扱いに注意した上で、入学後の成績動向調査を開始した。さらに、2年次生以降の在学生の入試成績と各学年のGPA結果の相関調査体制を開始した。さらに、PROGテストを行い、コンピテンシー評価に基づく社会人基礎力調査結果をもとに、個人指導に役立てるような指導体制を開始した。今後、結果を蓄積し年次推移を検討する。 | 私立大学等改革総合支援事業等への取り組みは、大学学部と連動し、とくに学科としてはIR機能の具現化に向け、学科学生の入試成績、在学生成績、卒業動向等のデータ化を図り因子分析や相関関係から教学・学生指導に反映する方策についてFD、学科会議等で研鑽を実施するに留まった。   |  |
| ②授業評価等の結果を活かした授業改善、教育活動改善への活用 | 1. 教育の質向上<br>・学修成果の可視化<br>・教育評価の工夫              | ・授業評価アンケート<br>・実習評価アンケート<br>・ティーチングポートフォリオの導入・活用<br>・定期試験再試験科目数<br>・GPA平均（学修到達度検証）<br>・ディプロマサブリメント（学位証書補足資料）<br>・教員間、授業科目間の標準化「成績評価」 | ・前期授業評価アンケート結果（平均）：総合教育科目4.35、看護学科専門基礎科目4.19、看護学科専門科目4.38、看護学科統合科目4.48、看護学科公衆衛生科目4.90であった。<br>後期アンケート結果は出ていない。<br>・臨床実習においては、10科目で対象者809名、回収数664名（回収率80.0%）であった。また総合的な実習の満足度は、5点満点中4.63点と満足度は高かった。<br>・ティーチングポートフォリオは導入しているが、評価は今後検討予定。<br>・定期試験再試験科目数<br>2023年度 1年（前期）7、（後期）8<br>2022年度 2年（前期）9、（後期）13<br>2021年度 3年（前期）4、（後期）0<br>2020年度 4年（前期）0、（後期）0<br>・累積GPAの全体平均（前期・後期の平均）<br>2023年度 1年 2.86<br>2022年度 2年 2.655<br>2021年度 3年 2.58<br>2020年度 4年 2.63<br>・ディプロマサブリメント、教員間、授業科目間の標準化はデータがない。 | ・2023年前期授業改善アンケートの総合評価平均：総合教育科目4.32、専門基礎科目4.61、専門共通科目4.92でPT専攻専門科目4.68、OT専攻専門科目4.57であった。<br>・<br>・ティーチングポートフォリオについては2023年9月にリハ学科教員全員が公開導入しているが、評価は今後検討予定。<br>・定期試験再試験科目数<br>2023年度 PT：1年（前期）10、（後期）10 OT：（前期）13、（後期）8<br>2022年度 PT2年（前期）10、（後期）12 OT：（前期）13、（後期）10<br>2021年度 PT3年（前期）8、（後期）4 OT：（前期）0、（後期）3<br>2020年度 PT4年（前期）0、（後期）0 OT4年（前期）0、（後期）0<br>・累積GPAの全体平均（前期・後期の平均）<br>2023年度 1年 PT：2.73 OT：2.49<br>2022年度 2年 PT：2.81 OT:2.45<br>2021年度 3年 PT：2.65 OT：2.61<br>2020年度 4年 PT：2.51 OT:2.51<br>・ディプロマサブリメント、教員間、授業科目間の標準化はデータがない。 | 授業終了時に「学生による授業評価」を行い、学生の理解状況を教員が次の授業に生かせるようなリフレクションペーパーを作成するとともに評価の低い授業科目については、担当教員から改善計画書を提出させ、見直しを図る。また、卒業時や卒業後のアンケート調査を実施し、学生の課程全体に通じた成長実感や今後の課題等を把握し、教育活動の改善に反映させる。また、教育力を高める実践的FDとして・授業改善法、・アクチブラーニング手法・ポートフォリオ作成術などをテーマに開催し、教員全体の教育スキルを高める。特に2023年度は、上限の緩和に伴う対象学生の動向を確認することや授業や指導を記録した「教育業績ファイル」を作成を行う。 | 各科目責任者が、毎回のリフレクションペーパーの確認を行い、学生の理解度、課題を確認した。また学生による授業アンケート結果を確認し、次回の授業改善に取り組んだ。全ての授業評価アンケート結果はまだ出ていないが、結果を2024年度の教育に活用する。   | 学科専攻教員の授業評価の全科目における総合評定3.0以下は皆無で、個別指導該当教員はゼロで、長年のFDにおける相互授業参観の効果と教員の創意工夫が寄与し、各授業科目の成績評価の標準化させた。学科教員全員のティーチングポートフォリオを作成し、HPにアップした。  |  |
| ③効果的なチューター活動                  | 2. 学生の質保証（サポート体制）<br>・個別の学修・生活指導                | ・学修状況や学習方法に関するアドバイス<br>・各試験・実習にむけた精神的アドバイス<br>・大学生生活のアドバイス<br>・進路・就職のアドバイス   | 各チューターは年度初め（4～5月）、前期終了後（夏休み前）、後期始め（9～10月）、年度終り（2～3月）と年3～4回は面談を行っている。また学業に対する悩みや実習前後での不安な時期の面談、3年生は科目数が増え、21単位は必修であり（21年度入学性まで）、各論の科目数が増えるので学習の仕方など指導している。保護者会が2月にあったので成績不振の学生は保護者にも声をかけて面談を行っている。保護者会の参加者は89名であった。その前年度は71組であった。就職は4年生はふれあいグループへの就職は35名であった。  | 新入時期の1～2年次と卒業研究ゼミに入る3～4年次の2体制にてチューター指導に取り組んでおり、とくに医学系基礎科目を履修支援に力を入れており新年度初期（4～5月）は時間をかけて面談を実施し、次いで前期試験前（7月）、後期初期（9.10月）、後期試験前（1・2月）に個別面談し記録保存し、情報共有している。保護者説明会は9月24日にハイブリット形式にて開催。参加保護者66名（前年55名）で内訳はZoom47名、対面19名で学科の教育方針、履修状況や学生支援、国家試験対策等について説明し、大学・家庭・学生の三位一体を強調し高評価であった。  | 看護学科では、1人の教員が12-15名程度の学生をサポートし、履修計画から学修指導、学生生活相談などにきめ細やかに個別で対応し学生の4年間の成長をサポートし、各チューターは担当学生の国家資格獲得とともに地域医療の将来を担う人材を輩出するように努め、チューター制度の有効性（進学・進路指導など）を検証する。  | リハビリテーション学科では、各教員が1～4年生の学生10～12名程度を担当し、履修計画から学修指導、学生生活相談などにきめ細やかに個別で対応し学生の4年間の成長をサポートし、各チューターは担当学生の国家資格獲得とともに地域医療の将来を担う人材を輩出するように努め、チューター制度の有効性（進学・進路指導など）を検証する。  | 1～4年までの各学年毎にチューターグループを作り、教員一人が13～15名の学生を受け持っている。特に1年生や2年生は指導が偏らないために経験の長い教員と短い教員と（教授と助教のような組み合わせ）で2グループを二人の教員で受け持つ体制をとった。アドバイスとしては1年生は大学生生活全般、1から3年生では学習が進まない学生への学習方法の相談、試験や実習の相談、3から4年生は就職に関する相談に対応した。前期と後期の節目に面談を行い、問題のある学生は都度行った。   | 学科専攻の全学生に対して、各学年のチューター長を軸に、教員全員がチューターを担い、1教員は1～4年生の12～15名前後の学修指導や学生生活全般の指導に努めてきた。  |
| ④学修支援・国家試験対策支援                | 2. 学生の質保証（サポート体制）<br>・個別指導・弱点対策<br>・能力別補講クラスの運営 | 2.JR機能による分析<br>・国家試験模試結果分析/過年度比較<br>・学内補講受講率・補講回数<br>・国家試験合格率<br>・初年次教育の取組<br>・学科目再試験受験者数の減少   | ・国家試験合格者・合格率<br>看護師：新卒者77名中75名合格（合格率97.4%、全国合格率93.2%）、既卒者3名中1名合格（合格率は33.3%、全国30.4%）<br>保健師：8名全員合格<br>・学内模擬試験・補講回数 試験：業者+学内実力12回、補講：学内教員44コマ・業者16コマ<br>・入学前教育<br>102名中100%実施者68名（66.7%）、80～99%実施者25名（24.5%）  | PTOT国家試験模試では、理学療法士33/33名の全員合格100%（全国平均89.2%）、作業療法士29/29名の全員合格100%（全国平均84.1%）のダブル100%を達成、PTは連続3年100%、OTは2年連続100%を達成。国家試験対策として両専攻の国家試験対策委員会が年間模試14回の結果を随時分析し、低迷学生への支援強化と特別講義等を企画し、1年次からの長期学修支援を図ったことが有効であった。   | 総合教育科目は、理解できるまで行う丁寧な授業で専門科目を学ぶ上で大切な基礎学力をしっかりと身につけさせることを目的とする。そのために、入学時のプレイメントテストや入学試験成績などから（入試等の力で）基礎学力を見極め、入学前教育や個別の学修支援に役立てる。また、小テストなどの反復問題練習や国家試験の基礎的な学力問題も解かせることも行い、早期から計画的な国家試験受験対策を実施する。  | 両専攻毎に国家試験対策委員会を立ち上げ、年間計画を立案し特別講義の内容、模擬試験の頻度や時期、模擬試験の結果分析を基に低位学生の個別指導の徹底を図り、全員受験の全員合格を絶対条件として取り組んでいく。  | 1. 1年次生に関して基礎学力のアップと学修習慣を身に付ける目的で合格後新学期開始まで入学前教育（数学・理科）を実施した。1～3年次生を対象に低学年模試を実施し、不正解の問題に着目して復習を行った。<br>2. 4年次生に関して12回の模擬試験・学力テストを実施し、全体に正解率が低い科目や内容を分析し、その結果をもとに学内教員による講義（44コマ）、国家試験対策専門の講師による講義（16コマ）を実施した。模試の結果から学修低迷者へは強化対策としてチューターや担当教員による個別指導とグループ学修など学生の状況に合わせて丁寧に指導した。その結果、新卒看護師国家試験は77名受験し75名合格（合格率97.4%）で全国合格率93.2%と比較して高かった。既卒者は3名受験し、1名合格（合格率は33.3%）で全国30.4%よりやや高かった。保健師国家試験は8名受験し全員合格した。 | 第59回理学療法士作業療法士国家試験は、両専攻とも全員受験し全員合格を達成。両専攻ごとに国家試験対策委員会を立ち上げ、年間の模擬試験予定、特別講義の予定立案と実施、低迷者に対するきめ細かな指導が着実に遂行された。<br>理学療法士専攻は3年連続100%、作業療法士専攻は2年連続100%を達成し、ダブル100%を2年連続を果たした。 |

2023年度 湘南医療大学 保健医療学部

| 2023年度 保健医療学部 事業計画 | 教育の展開   | 具体的な取組の指標   | 2023年度 指標の結果   |   | 2023年度 保健医療学部 事業計画概要  |   | 2023年度 保健医療学部 事業報告  |   |  |
|--------------------|---|---|--|---|---|---|---|---|--|
|                    |   |   | 看護   | リハ  | 看護学科  | リハビリテーション学科   | 看護学科  | リハビリテーション学科   |  |
| ⑤大学院教育の向上          | 1. 教育の質向上<br>・研究成果の可視化<br>・授業参観/授業評価<br>・博士後期課程設置準備                                     | ・研究指導/修士論文指導<br>・シラバス記載項目の改善<br>・研究指導のための検討回数<br>・長期履修生への履修指導   | <b>1.研究指導/修士論文指導</b> ：修士課程の修士論文指導に関しては、院生の研究テーマに合わせた個別指導を行い、健康増進予防領域（看護領域）4名、助産学領域3名が修士論文審査を合格し、修了できた。<br><b>2.シラバス記載項目の改善</b> ：記載内容の改善に関しては、大学院事務と協働し、記載例により周知した。<br><b>3. 研究指導のための検討回数</b> ：修論発表会を3回/年実施し、研究プロセスにおける中間発表会を2回/年、ゼミ単位の発表会を毎月開催し、研究成果を学内で公表した。<br><b>4. 長期履修生への履修指導</b> ：長期履修性に対しては、ワークパンスと研究進度を毎月、確認しながら指導した。今年は、予定通り長期履修性1名を終了することができた。   | 2023年度のリハ修士課程入学者は2名。<br>2023年度のリハ修士課程修了者は6名（理学：4名、作業：2名）。<br>修士課程の教育向上として：1年次の修士題目の決定に重点をおき、先行研究と題目とのすり合わせと研究目的に関する討論会を開催し、領域の教員全員によるアドバイスを実施。1年後期には研究倫理審査申請と合わせた研究計画発表会を開催し、その結果を踏まえ指導教員による実験調査手法を深める体制をとっている。<br>論文作成指導として：2年次前期にはリハ領域によるブレ研究経過発表会を2回開催し、領域教員を交えた意見交換を実施し、研究題目に則った修士論文作成を指導教員と副指導教員が担い、10月の中間発表を経て修士論文作成を指導してきた。  | 博士後期課程の設置に向けて準備を行い、3月に申請、認可を得る。それに伴い、告知を各大学へ行い、募集活動を行う。<br>大学院生への受け入れ体制として、入試時期の見直し（早期化）を行い、定員充足を目指す。また、履修指導、研究指導体制を充実し、学生の研究・教育の遂行に資するとともに、2年次に向けた中間発表会を充実し、修士論文の審査過程の更なる標準化を図る。 |   |   | 1.修士課程の修士論文指導に関しては、院生の研究テーマに合わせた個別指導を行い、健康増進予防領域（看護領域）4名、助産学領域3名が修士論文審査を合格し、修了できた。また修論発表会を3回/年実施し、研究成果を学内で公表した。<br>2.博士後期課程の設置申請では、予定通り申請し、認可を得た。また認可後に速やかに募集活動を行い、定員を充足することができた。 | リハ領域の入学生は1名で修士課程修了生は7名と多くの修士を輩出できた背景には、2年時の修士論文作成に至る統計手法や論文作成の指導がきめ細かく実施され、中間発表会を2回、また1年次の研究計画発表会2回、中間発表会に向けた指導教員による個別指導等が功を奏した。 |
| ⑥入学定員の確保           | 3. 安定的な受験生確保対策<br>・大学のブランディング向上<br>・奨学金制度の周知<br>・本学1志望受験生の優遇策<br>・高大連携<br>・多面的・総合的評価の推進 | ・受験者倍率<br>(指定校・地域分析・競合校分析など)<br>・記述式問題の出題（特定の教科・科目）<br>・アドミッションオフィスの強化<br>・ガイダンス・出張授業の広報活動<br>・OCの内容の検証<br>・多様な学生の受入（特待生・既卒生など）<br>・高等学校との連携強化（教育・募集活動）<br>・入学者選抜の妥当性の検証<br>(英語外部試験導入の検証と入学後成績推移調査) | <b>1.受験者倍率</b> :総合型選抜Ⅰ期1.5倍・Ⅱ期1.0倍、学校推薦型選抜(4種すべて)1.0倍、一般選抜Ⅰ期1.1倍・Ⅱ期4.5倍、共通テスト利用選抜Ⅰ期1.7倍・Ⅱ期2.0倍<br><b>2. 記述式問題の出題</b> ：入試問題変更は2年前から届出申請が必要のため、今年度実施は見送った。<br><b>3. アドミッションオフィスの強化</b> ：入試事務室を他の事務職員との連携効率化のため場所を1F→4Fへ移動した。<br><b>4. ガイダンス・出張授業の広報活動</b> ：①入試ガイダンス→高校での実施；111校、特設会場での実施；33カ所 ②出張授業の実施回数；21校（目標値17校 達成127%）<br><b>5. OCの内容の検証</b> ：①保護者を対象とした入試説明会を別途実施する必要がある。②現行は午前午後の2部制で実施したが、キャンパスライフを実感してもらうため、入退場を自由にする。<br><b>6. 多様な学生の受入</b> ：看護学科では今年度は実施していない（薬学部のみ）。<br><b>7. 高等学校との連携強化</b> ：桐蔭学園高等学校の学生に、7/12～9/26の期間で8講座を開催し26名の参加があった。<br><b>8. 入学者選抜の妥当性の検証</b> ：英語外部試験利用は、一般公募型Ⅱ期が最も多く33.3%、次いで一般選抜Ⅰ期の26.9%であった。この制度を利用した65名の受験生は全員合格しており、合格の可能性が高くなると考えられ、この制度の利用を推進する。 | 1.受験者倍率:PT総合型選抜Ⅰ期3.5倍・Ⅱ期4.0倍、学校推薦型選抜(一般公募型)Ⅰ期1.5倍・Ⅱ期4.0倍、学校推薦型選抜(指定校型)1.0倍、一般選抜Ⅰ期4.2倍・Ⅱ期4.0倍、共通テスト利用選抜4.4倍によりPT入学者は43名(40名定員)。<br>OT総合型選抜Ⅰ期0.7倍・Ⅱ期1.0倍・Ⅲ期2.0倍、学校推薦型選抜(一般公募型)Ⅰ期3.0倍・Ⅱ期2.0倍、学校推薦型選抜(指定校型)1.0倍、一般選抜Ⅰ期1.4倍・Ⅱ期0倍・Ⅲ期1.0倍、共通テスト利用選抜5.5倍によりOT入学者は41名(40名定員)。<br>Ⅱ期2.0倍2. 記述式問題の出題：入試問題変更は2年前から届出申請が必要のため、今年度実施は見送った。<br>3. アドミッションオフィスの強化：入試事務室を他の事務職員との連携効率化のため場所を1F→4Fへ移動した。<br>4. ガイダンス・出張授業の広報活動：①入試ガイダンス→高校での実施；48校、②出張授業の実施回数；15校<br>5. OCの検証：OC参加数PT専攻129名(目標196名達成79%)、OT専攻306名(目標271名達成118%)<br>6. 多様な学生の受入：リハ科では今年度は実施していない（薬学部のみ）。<br>7. 高等学校との連携強化：桐蔭学園高等学校の学生に、7/12～9/26の期間で8講座を開催し26名の参加があった。<br>8. 入学者選抜の妥当性の検証：英語外部試験利用は、一般公募型Ⅱ期が最も多く33.3%、次いで一般選抜Ⅰ期の26.9%であった。この制度を利用した65名の受験生は全員合格しており、合格の可能性が高くなると考えられ、この制度の利用を推進する。 | 横浜山手校舎および専攻科開設に伴う2キャンパス体制の利点、保健師助産師看護師指定規則改正に伴うカリキュラム変更によって特色のある魅力的な教育課程をPRし、募集活動を引き続き行う。<br>入学者選抜の多角的・総合的な評価及び学生の能力を伸長するための取り組み  | 作業療法学専攻を中心に募集活動に力を入れ、定員確保を目指す。2023年度はリハビリテーション分野全体の動向解説から作業・理学療法学専攻について理解を深める説明を行い、志望動機を誘う工夫を図り、作業療法領域関心を高め学生確保に向けた取り組みに重点を置く。また、指定校推薦での出願が定員確保につながるため、早期に高校訪問を行い、大学認知を高める。 | 2キャンパス体制の利点として、「横浜山手キャンパス(1,2年生)」では、看護基礎教育を主眼とした教育、「東戸塚キャンパス(3,4年生)」では、本格的な実習による看護実践能力の育成や他学部他学科の学生が在籍する学習環境を活かし他学部学科連携教育を主眼とした教育を展開している点や、カリキュラム変更に伴う特色のある教育課程について、オープンキャンパスや高校訪問、出張講義、高校教員対象説明会などの通じて積極的に広報活動を行った。さらに、専攻科に保健師養成課程と助産師養成課程を備え、日頃の専攻科間での交流によってチーム医療に必要なお互いの職種を理解する機会が得られるというメリットをオープンキャンパスなどでPRした。今年度のオープンキャンパスの参加者は目標値561名を上回る691名(達成率123%)であった。また、受験者数は、18歳年齢人口の減少の影響もあり、昨年度目標値569名を下回る358名(達成率63%)であった。しかし、入学者選抜の取り組みとして、共通テストの実施回数の増加(1回→2回)、面接評価内容の見直しなどを行った。最終的に、看護学科の入学者数は147名で、定員を満たす結果となった。今後は、英語外部試験を導入して2年が経過しているため、その効果の検証が必要である。 | 2023年度のリハビリテーション学科PT専攻の入学生43名。作業療法学専攻41名で、定員確保は達成した。しかしながらより優秀な学生確保のためには志願者数の異なる増員を図る学生募集策を入試広報課とともに推進することが肝要である。   |  |
| ⑦休退学者減少への取り組み      | 1. 教育の質向上<br>・学生相談体制<br>・理解できる授業<br>・学習アドバイス<br>・チューター教育<br>・保護者との連携                    | ・退学者/休学者<br>・初年次教育（基礎ゼミ・学業の仕方/大学生活）<br>・授業の出席率<br>・取得単位数/率<br>・経済的困窮者数<br>・保護者会開催（修学状況報告）<br>・健康診断（医師・看護師の指導）<br>・個人面談回数  | ・退学者(入学から延べ数)<br>①23/10/1時点、②24/4/1時点<br>2023年度 1年 ①1.4、②1.4<br>2022年度 2年 ①3.5、②3.6<br>2021年度 3年 ①4.9、②6.2<br>2020年度 4年 ①6.1、②6.1*24/3/1時点<br>・授業の出席率、取得単位数/率はデータがない。  | 退学者：PT専攻 2名、OT専攻 9名<br>休学者：PT専攻 2名、OT専攻 6名<br>・退学者<br>PT①23/10/1時点、②24/4/1時点<br>2023年度 1年 ①0.0、②0.0<br>2022年度 2年 ①0.0、②2.4%<br>2021年度 3年 ①0.0、②2.4%<br>2020年度 4年 ①2.6、②2.7%<br>OT①23/10/1時点、②24/4/1時点<br>2023年度 1年 ①0.0、②2.4%<br>2022年度 2年 ①2.9、②5.9%<br>2021年度 3年 ①2.6、②5.4%<br>2020年度 4年 ①3.0、②3.0%<br>・授業の出席率、取得単位数/率はデータがない。  | チューター教員制度による個別対応を行い、経済等の生活上の問題や履修などの学修上の問題が発生した場合は複数の教員で対応し、初期対応を十分に行う。その後も継続して学生の状況を見守る。<br>加えて、ICTを活用した教育の計画、体制整備及び双方向授業や自習学習支援などを通して、わかりやすい授業に努める。                             | 各学年チューター長を軸に全チューターが一体となり、学生個々の学習理解度・学習習慣などに合致したきめ細かな学習指導と合わせ、教授する教員の講義力についてFD活動と合わせ取り組んでいく。<br>加えて、ICTを活用した教育の計画、体制整備及び双方向授業や自習学習支援などを通して、わかりやすい授業に努める。                     | 休退学者数の減少への取り組みとして、看護学科教務委員と各チューターと連携しながら学生の学修支援や生活支援に取り組んだ。結果、2023年度は6名が休学し、内2名が退学、4名が復学(内1名再度休学)をしている。復学した学生が科目履修できるように学科内教務委員が中心になり、不足の科目履修について、具体的な指導を継続した。  | 23年度の休学者は理学療法学専攻4名、作業療法学専攻9名で、退学者は理学療法学専攻3名、作業療法学専攻6名で、PDCの休退学者目標値(PT専攻：1名・1名、OT専攻：2名・2名)より多くの学生が休退学に至った背景として、学修低迷が引き金になることが多く、今後チューター機能を高め学習支援を図りたい。また退学者の中に精神面の疾患や進路変更が中心であった。  |  |

2023年度 湘南医療大学 保健医療学部

| 2023年度 保健医療学部<br>事業計画           | 教育の展開  | 具体的な取組の指標   | 2023年度 指標の結果  |   | 2023年度 保健医療学部 事業計画概要  |  | 2023年度 保健医療学部 事業報告   |   |
|---------------------------------|--|---|---|---|---|--|--|---|
|                                 |  |   | 看護  | リハ  | 看護学科  | リハビリテーション学科  | 看護学科   | リハビリテーション学科   |
| ⑧FD・SD研修の充実<br>～教学マネジメントを支える基盤～ | 4. 教職員の資質向上<br>・理念の実践<br>・コミュニケーション能力向上<br>・マネジメント能力向上<br>・教学支援力<br>・教員相互授業参観/授業評価<br>・入学志願者増加対策<br>・3Pに基づく教育課程の検証<br>・研究倫理<br>・新任教員研修<br>・授業コンサルテーション<br>・授業改善ワークショップ<br>・地域社会に貢献でき、地域医療の発展に寄与する研究ができる人材の養成 | FD研修の開催回数<br>SD研修の開催回数<br>各研修会の参加率  | FD研修の開催 3回<br>SD研修の開催 0回<br>各研修会の参加率 100%<br>・若手看護教員対象のワークショップ 100%<br>・わかりやすい省察的実践実践・学び・研究をつなぐ89%<br>・ICT基礎セミナー 85%  | FD活動<br>・相互授業参観の開催 PT:4回 OT:3回開催し、教員相互のデジュメ内容、授業進行具合、スライド内容等についての意見交換<br>・教育の質的向上の研修テーマFD:休退学者防止策、学力低迷者への支援、生成AI、チューター制に関する研修、臨床実習指導者との研修等):PT 14回 OT 17回開催   | 教員にニード調査を行い、看護学科内FD委員のメンバーによって年間計画を立案する。研修テーマに基づいたプログラムと各研修工程表を作成し、全教員協力のもと、研修会を運営する。また、継続活動として教員相互の授業参観を行うとともに、年度末は、実習評価表や授業評価を行い、リフレクションペーパーを作成する。教育方法や学生指導に関する評価を行い、自己研鑽を行う。   | 年6回のFD開催頻度で、授業参加と教授法・臨床実習の評価法・アセスメントポリシー・ポートフォリオの取り組み・国家試験対策などをテーマに開催する。   | ・教員のニード調査の結果を基に、FD研修の開催3回実施した。<br>研修会参加率は<br>・若手看護教員対象のワークショップ 100%<br>・わかりやすい省察的実践実践・学び・研究をつなぐ89%<br>・ICT基礎セミナー 85%であった。<br>それぞれの研修会参加教員の満足度は高く、若手ワークショップは81%が大変良いであった。わかりやすい省察的実践の研修会では、記述アンケート結果からリフレクションを授業や学生指導、実習指導に活かす教員の教育力の向上には役立つ事が示唆された。具体的には記述カテゴリ分類から「学びの振り返り、気づき、学びの深まり」「主体的に考える力、学びの促進、向き合う力の育成、成長」「授業方法や教育力の向上」などが抽出された。実習における学生評価はすべての科目毎に集計し、科目責任者が評価し、フィードバックして次年度の実習内容の向上につなげている。最後に、FDマップに従って、教員面談を実施しており、個々の教育力向上のため目標設定や支援を行っている。 | 学科FDとしての相互授業参観による分かりやすい講義力教を高める授業参観は、PT専攻4回、OT専攻4回実施し、参加者に授業評価表の記入と講義後に意見交換を実施し、また臨床実習に関するFDを各専攻1回、学科FDとして「生成AI活用法」に関して1回、「教育におけるDX」について開催した。                                   |
| ⑨自己点検・評価の厳格化                    | 5. 内部質保証<br>・日本高等教育評価機構項目<br>・看護、リハビリテーション評価機構項目<br>・学校教育法第113条及び学校教育法施行規則172条の2に掲げる項目の情報公開<br>・第三者評価（企業・公的機関）   | ・理念/人材育成の目標/教育研究上の目的/教育の特色/3つのポリシー/教員の有する学位・研究業績等の公開と更新<br>・教育課程の体系/シラバス/学修評価基準/卒業・修了の認定基準/修学支援（チューター制度）/生活・心身健康の支援/障害学生支援の評価および公開と更新<br>・入学者数、収容定員及び在学学生数/卒業率及び進学率<br>・卒業率、卒業後アンケート<br>・各実習施設との実習前後の意見交換 | 1. 学校教育法第113条および学校教育法施行規則第172条の2に規定された情報の最新版を、HPで公開している。また、毎年度大学評価機構の基準に則った評価を実施し、自己点検評価報告としてまとめている（2022年度分を2023年11月HP公開）<br>2. 入学者数140名、収容定員440名、在学学生数432名。<br>3. 卒業率並びに進学者数及び就職者数<br>・卒業率77名（就職者76名、進学者1名）<br>4. 資格免許実績<br>・看護師・保健師国家試験合格率はいずれも全国平均より高い。看護師：合格率97.4%、全国合格率93.2%、保健師：100%<br>5. ディプロマポリシーの評価システム（ディプロマサブリメント等）は今後の検討課題。<br>6. 実習施設との協議会は年2回実施（8月・3月）。各実習では実習前後に病棟ごとの意見交換を年4～6回程度実施 | 1. 学校教育法第113条および学校教育法施行規則第172条の2に規定された情報の最新版を、HPで公開している。また、毎年度大学評価機構の基準に則った評価を実施し、自己点検評価報告としてまとめている（2022年度分を2023年11月HP公開）<br>2. 2023年入学者数PT43名、OT収容定員41名。（1学年リハ学科定員80名、105%）<br>3. 卒業率並びに就職者数<br>・卒業率62名（就職者62名）<br>4. 資格免許実績<br>・理学療法士100%、作業療法士100%合格<br>5. アセスメントポリシーの評価システムについては今後の検討課題。<br>6. 実習施設との実習報告会は年1回実施（11月第4水曜日に開催） | 看護学教育の質の改善・向上を目指している日本看護学教育評価機構は、看護学教育プログラムの公正かつ適正な評価等を行い、教育研究活動の充実と向上を図るために看護学という専門分野の特性を踏まえた分野別評価を行っている。本学は日本看護系大学協議会に加盟している学校であるため、2023年度には日本看護学教育評価機構へ正会員として入会し、看護学分野別評価事業を通して本学科の教育課程や教育方法、教員組織、入学者選抜方法などの認証評価を受審するように取り組んでいく。 | 全国リハビリテーション学校協会による認証評価への対応<br>理学・作業療法士養成施設指導ガイドラインの改正（令和4年9月14日付 医政発0914第2号）に対応するために、2023年度には全国リハビリテーション学校協会の会員校として認証評価を受審すべくその情報収集を重ね、本学科の教育カリキュラムや学生教育、教員審査などについての認証評価を受審するよう取り組んでいく。  | ・学校教育法第113条に規定された教育研究活動の状況を、大学ホームページ内の看護学科ページに各教員の経歴・業績およびティーチングポートフォリオとして公表している。学校教育法施行規則第172条の2に規定された情報は、大学ホームページの大学紹介の中で公表し、常に最新情報に更新することにより内部質保証を行った。<br>・2023年度に日本看護学教育評価機構へ正会員として入会し、看護学分野別評価事業を通して本学科の教育課程や教育方法、教員組織、入学者選抜方法などの認証評価を受審するよう準備を進めている。特に本年度は、教員1名が本機構の評価委員となり、評価の受審方法・項目・内容の研修と他校の状況について情報収集を進めている。  | リハビリテーション教育評価機構による受審に向けた情報収集を図るとともに、学科内に評価機構の受審に向けた準備会を立ち上げ、学科長と両専攻長を軸に準備入りした。2024年4月に機構から正式に受審校と通知が届き次第準備に入る体制である。   |
| ⑩キャリア支援                         | 2. 学生の質保証（サポート体制）<br>・就職先施設・進学先機関との連携<br>・インターンシップ   | 卒業率/就職率/修士授与率/就職先/進路・就職相談の参加者/就職ガイダンスの開催数・参加者/就職説明会の開催数・参加者数/卒業時アンケート調査の実施・公表/学修成果の施設等との意見交換/教育リソースの活用  | ・就職率：ふれあいグループ施設45.5%、ふれあいグループ以外53.2%<br>・就職説明会開催数4年次生1回、参加者数77名（100%）他各学年チューター教員が1回実施した。<br>・卒業時アンケート結果は出していない。<br><br>・就職：ふれあいグループ施設への入職率 PT:14名42.4% OT:12名41.4%  | ・キャリア支援計画：<br>1回目は3年次後期末の3月に就職ガイダンス実施、2回目は臨床実習の中間である6月にふれあいグループからの求人説明と卒業生による就職活動体験談、3回目は臨床実習が終了した8月中旬にふれあいグループ病院へのエントリーについての最終説明会を開催   | 早期内定にむけ、2023年1月より3年生の就職対象者と面談を行い、グループ施設のインターンシップを実施する。グループ看護部と連携し、実習施設以外の施設の紹介、訪問、説明を通し、志望度を高めるよう支援していく。また、教員と施設の情報共有を図り、学生へ適切な支援ができるよう説明を行う。   | ふれあいリハビリテーション研究会（仮称）の発足<br>リハビリテーション学科では、グループ病院との学術的交流の一環として大学院教育をベースに各部門領域PT,OTの卒業教育を高めるよう臨床研究会を継続している。本学大学院に在籍しているセラピストを中心に（湘南東部総合病院、大和成和病院、東戸塚ホスピタル、綾瀬厚生病院の4病院）、リハ学科の指導教員との臨床研究会（現在リモート）を2週に1回の頻度で開催してきた。この臨床研究会には院生以外の各病院のPTOTも自由参加しており、将来的にはふれあいリハビリテーション研究会（仮称）を立ち上げて、地道な学術交流を図り、さらなるグループ病院の診療知識・技術を高めていきたい。<br>また、治療技術的な実務指導では、湘南東部総合病院の高次脳機能障害者に対するOTアプローチについて作業療法学専攻の教員と勉強会（現在、コロナ禍で中断している）を再開し、臨床面の学術的交流を図っていく。このように学術的、臨床的交流を進化することがリハビリテーション学科の学生のキャリアアップ、入職動機にもつながっていると考えている。 | ふれあいグループ17施設の合同就職説明会を大学内で2023年7月15日（土）1日プログラムで開催した。各施設から看護部長及び卒業生や所属看護師にも参加いただいた。各施設紹介後に各施設毎のブースを学生が参加する形で運営した。参加者は3年生全員（100%）参加した。またふれあいグループの就職試験を大学内で2回大学院教員が実施した。その結果、35名（45%）の学生がふれあいグループ施設に就職した。他施設への就職者は41名（53%）で、進学者1名であった。<br>次年度も同様の取り組みを実施し、就職率を確保する。  | ふれあいグループ入職に向けて、3年次の2月に両専攻でふれあいグループの病院説明、人事からの求人票を基にチューター長が説明し、卒業生による就職活動体験談を各専攻4名から実施し、その後、臨床実習終了後の8月に再度ふれあいグループ病院の入職ガイダンスを実施した。2023年度のグループ病院入職はPT専攻14名42.4%、OT専攻14名、48.3%であった。 |
|                                 |  |   |   |   | 早期アプローチを行い、低学年からの就職支援を行い、インターンシップ始め低学年時に実施する「学外実習」を通じて施設の魅力を伝えていく。そのために、各施設看護部長並びにリハ部会長、リハ部門責任者と連携を深め、学生にPRを行う。3年次より実施する実習を活用し、施設側よりアプローチを行ってもらう。その上で、3年後期に就職説明会を、4年時早期内定につなげていく。   | 実習時のオリエンテーション時に魅力等を各病院の看護部長より話していただくように働きかけた。3年後期に就職説明会を行い、内定に繋がる働きかけを行った。   |  |   |

2023年度 湘南医療大学 薬学部

| 2023年度 薬学部 事業計画               | 教育の展開  | 具体的な取組の指標  | 2023年度 薬学部医療薬学科 事業計画概要  | 2023年度 薬学部医療薬学科 事業報告   |
|-------------------------------|--|--|---|--|
| ①入学定員（130名）の確保                | 3. 安定的な受験生確保対策<br>・大学のブランディング向上<br>・奨学金制度の周知<br>・本学第1志望受験生の優遇策<br>・高大連携<br>・多面的・総合的評価の推進 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・受験者倍率（指定校・地域分析・競合校分析など）</li> <li>・記述式問題の出題（特定の教科・科目）</li> <li>・アドミッションオフィスの強化</li> <li>・ガイダンス・出張授業の広報活動：出張授業目標回数12回、実施回数15回（達成率125%）</li> <li>・OCの内容の検証</li> <li>・多様な学生の受入（特待生・既卒生など）</li> <li>・高等学校との連携強化（教育・募集活動）：講座・インターンシップ目標回数7回、実施回数7回（達成率100%）</li> <li>・入学者選抜の妥当性の検証（英語外部試験導入の検証と入学後成績推移調査）</li> </ul> | <p>高大連携はじめ高校との結びつきをより強化し、低学年層の取り込みから受験対象学年の囲い込みを行っていく。</p> <p>特に神奈川県下の私立高校、近隣県(山梨、静岡)の高校との結びつきを強めるため、出張授業・高校訪問を継続的に実施していく。また、本学HPをタイムリーに更新を行い、情報発信を適宜実施、志願者の情報確認をスムーズに行える体制づくりを行う。</p>  | <p>対面式で年21回のオープンキャンパスと入試説明会を実施し本学部の特色教育内容をPRした。全日程の参加者は本人338名と保護者282名、合計620名であった。これは昨年度の114%の人数であった。さらに、15回の出前講義、高大接続事業として中高生対象の講座を6回、湘南・鎌倉地区高校高校生インターンシップを1回行い、教員による高校訪問を実施した。その結果、今年度の入試は総合型選抜9名、推薦入試25名、一般入試66名、特別入試7名、大学入学共通テスト利用42名、編入学2名の受験数となった。これらの受験者に対してAPに基づく選考を行い、編入学者を含み62名の入学者（倍率2.32倍）を決定した。受験者・入学者数の減少の背景としては、昨年に比較して18歳人口が3.9万人ほど減少したことや、2024年に新規薬学部が開設されたことにより受験者が分散する原因となったと考えられる。入学定員充足率は0.5と入学定員未充足で引き続き学生募集対策を強化する必要がある。</p>   |
| ②休退学者減少への取り組み                 | 1. 教育の質向上<br>・学生相談体制<br>・理解できる授業<br>・学習アドバイス<br>・チューター教育<br>・保護者との連携                     | <ul style="list-style-type: none"> <li>・退学率3.6%、休学率2.3%</li> <li>・初年次教育（基礎ゼミ・学業の仕方/大学生活）</li> <li>・授業の出席率</li> <li>・取得単位数/率</li> <li>・経済的困窮者数</li> <li>・保護者会開催（修学状況報告）</li> <li>・健康診断（医師・看護師の指導）</li> <li>・個人面談回数</li> </ul>   | <p>2022年度学部休学率1.9%(2021年2.7%)、及び退学率4.0%(2021年5.8%)を年間1%台を維持するために、日々出席状況の管理や生活指導、経済相談、学修相談など、様々な悩みや問題をチューターや学生キャリア支援センターなどがサポートを行う。</p> <p>留年者数を減少させる対策として、教育センターの整備充実を図り、学生の学修習慣および学力の向上を目指す。</p>   | <p>2023年度は休学率2.4%、および退学率3.6%であり（1年間で休学⇒退学となった場合は、退学として計算する）、前年度と比較してほぼ横ばいの推移を示した。休学の一要因として、原級留置後の前期あるいは後期に取得する単位がないことが挙げられるが、来年度からは上級学年の科目履修が可能となるため、休学率の減少に期待したい。また、退学事例には進路変更や持病悪化による健康上の問題などが理由として挙げられた。</p> <p>教育センターの整備拡充として、専任教員の配属に加えS-プログラムの構築および一部導入が行われ、来年度からは本格的な運用開始となる。また、学習支援チーム（SAT：Study Assistance Team）も組織され、個々の学生に応じた学修課題の解決を図っている。</p>   |
| ③私立大学等改革総合支援事業の採択             | 1. 教育の質向上<br>・IR機能（データ分析）の強化   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・入学者動向調査（100%）</li> <li>・在学生の入試成績との関連の調査</li> <li>・在学時の成績推移のデータ</li> <li>・卒業時の履修状況の傾向（該当学年なし）</li> <li>・コンピテンシー評価/社会人基礎力調査</li> <li>・過年度比較調査 等</li> </ul>   | <p>本学の教育の質の向上に繋げるため、2022年度の私立大学等改革総合支援事業（特別補助）の交付結果を分析検討し、2023年度の交付額の拡充に向けた措置を講ずる。そのために、IR機能の強化を図り、IR等の知識を有し、データ分析を実施する専門職の配置して、各種評価項目の状況調査を行うとともに、過年度比較調査並びに調査データ（IR情報）の公開を図り、教育の質の向上に努める。</p>   | <p>2023年度は、大部分の担当者が交代したことから、初回の6月は、本重点項目の現状と私立大学等支援事業の内容の把握、および前年度まで進めていた科研費獲得に関する課題抽出をPとし、現状の課題と採択大学の情報を共有した。科研費獲得については、「採択率向上」と「e-ラーニングの受講率（薬学部教員、現状80%）の改善」を課題として策定した。8月は、採択を目指しているタイプ1「『Society5.0』の実現等に向けた特色ある教育の展開」に関する情報収集と課題の抽出をPとし、その内容と支援対象項目を共有し、「バイオフィーマティクスに精通した人材の養成」、「情報の扱い（情報管理）に熟練し、倫理観も備えた人材の育成」、「AIではなく人でしか分からない細かな機微を察するなどのコミュニケーション能力の向上」を課題として策定した。9月は、桐蔭学園高校の研究室シャドウイング実施と、令和6年度科研費の申請状況確認をPとし、問題なく実行することができた。12月は、入試区分と在学時の成績との関係を調査することをPとし、在学生の入試区分と2023年前期のGPA調査、および相関分析を行った。3月は、学生キャリア支援センター会議（部門委員会）と連携して、進路就職に関わる項目の調査と課題抽出をPとし、「キャリア支援委員会、教務委員会、グループ内企業（病院・薬局）で連携して、学修成果に関する意見交換の実施を試みる」、「インターンシップ実習を実施する」ことを課題として策定した。</p> |
| ④授業評価等の結果を活かした授業改善、教育活動改善への活用 | 1. 教育の質向上<br>・学修成果の可視化<br>・教育評価の工夫   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業評価アンケート（回収率50%以上）</li> <li>・実習評価アンケート（2025年度以降の開講のため設定なし）</li> <li>・ティーチングポートフォリオの導入・活用</li> <li>・定期試験再試験科目数<br/>→1年生：22科目、2年生：18科目、3年生：17科目</li> <li>・GPA平均〈学修到達度検証〉<br/>→1年生：2.29、2年生：2.21、3年生：2.27</li> <li>・ディプロマサブリメント（学位証書補足資料）</li> <li>・教員間、授業科目間の平準化「成績評価」</li> </ul>                               | <p>授業終了時に「学生による授業評価」を行い、学生の理解状況を教員が次の授業に生かせるようリフレクションペーパーを作成するとともに評価の低い授業科目については、担当教員から改善計画書を提出させ、見直しを図る。また、前・後期の定期試験結果と授業評価アンケートの結果を受けて、改善が必要な講義を抽出し、科目担当者に対して講義の改善を要請する。また、教育力を高める実践的FDとして・授業改善法、・アクティブラーニング手法・ポートフォリオ作成術（教育業績ファイル）などをテーマに開催し、教員全体の教育スキルを高める。</p> | <p>計画概要にある通り、リフレクションペーパーの改訂、授業評価アンケートの回収・結果の解析を行い、必要に応じて講義の改善を要請した。リフレクションペーパーは、質問項目のうち3番と4番を変更し、具体的な講義の変更点およびその効果を記載しなければならないようにした。変更内容は後期から反映されたため、次年度に効果を評価することとした。授業評価アンケートの結果からは、大きな問題のある講義は見られなかった。目標に到達していない科目が一部見られたが、前年度と比較して評定点は向上していたため、引き続き改善を行っていただくよう要請した。また、授業評価アンケートの結果からも、アクティブラーニングの重要性が示唆されたため、次年度に向けてアクティブラーニングに関する研修会を計画した。また、定期試験結果と授業評価アンケートの結果を受けて、評価の良かった講義やその特色を全体研修会で公開するよう企画した。さらに、GPAや模擬試験の成果を入学時からまとめた成績カルテ（S-カルテ）の作成を行うことにより学修成果の可視化し、よりきめ細やかな学修支援に役立てた。</p>  |

2023年度 湘南医療大学 薬学部

| 2023年度 薬学部<br>事業計画                   | 教育の展開  | 具体的な取組の指標   | 2023年度 薬学部医療薬学科 事業計画概要   | 2023年度 薬学部医療薬学科 事業報告   |
|--------------------------------------|--|---|--|--|
| ⑤効果的なチューター活動                         | 2. 学生の質保証（サポート体制）<br>・個別の学修・生活指導   | ・学修状況や学習方法に関するアドバイス<br>→（40件実施）<br>・各試験・実習にむけた精神的アドバイス<br>・大学生生活のアドバイス<br>→（上記2項目について合計103件実施）<br>・進路・就職のアドバイス（対象外）   | 1期(4月～7月)：学生の個性や特長を把握し、最適な履修選択や学修目標の設定を手伝う。学年間交流会の開催をし、上級生との交流を取りもって、学生同士で不安を解消する。前期（前半）をふりかえり、学修や生活習慣の悩みに応えます。定期試験に向けた学修相談に応じる。<br>2期(8月～11月)：夏季休業中の学修指導や夏季休業中の生活、課外活動に関する相談に応じる。薬学共用試験や研究室配属等、高学年での大学生生活に関するアドバイスを行います。前期の反省（課題）を共有し、後期の学修と学生生活の目標設定を手伝う。<br>3期(12月～3月)：後期（前半）を振り返り、進級に向けて必要な努力についてアドバイスを行う。定期試験に向けた冬期休業中の学修や、学生生活の相談に応じる。春季休業中の生活と新年度に向けた学修の相談に応じる。 | 1期は計画に従い、4月に行われたガイダンスの翌週と翌々週の間に、ガイダンス時に行われた実力テストの成績に基づき、各チューターが担当する学生と面談を行った。成績の良い学生は学修に対する基本的な姿勢が疑われ、また勉強法に関しても問題があることが判明したことから、定期試験に向けたフォロー計画を立案し、チューターグループごとに実施した。2期は8月5日(土)に保護者会を開催し、全学年の面談希望保護者に対してチューターが個人面談を実施した。保護者の方にとっても学生に関する相談窓口としてチューターがお力添えできる存在であることをアピールする良い機会となり、学修や学生生活に関して特にケアが必要と思われる学生の保護者と早期に接触し、協力して学生を指導する契機とできた（40件実施）。また、後期開始のタイミングで前期再試験が多かった学生や、再履修科目ができてしまった学生を優先し、チューターが個人面談を実施した（103件実施）。全臨床系教員が参加する実習科目が開講したこともあり、後期開始と同時に面談を実施できなかった学生に対しても、日常的に声掛けをするよう意識するなど工夫したチューターが多く、定期試験前までに面談の機会を設定したいと考えているチューターがほとんどであった。次年度以降も同様の課題が生じる可能性が高いため、チューターで情報共有を密にし、学年全体をフォローする体制の構築も検討が必要である。3期は、後期定期試験に向けた出席状況、学修状況のフォローアップを行った他、新年度に向けてチューターWGにより新入生の担当チューターとなる教員が選定され、薬学部全教員に周知された。また、今年度の活動について総括を行った。チューター教員の取り組みの単位取得率への影響については、チューターの受け持ち期間（3年間）を含めた長期間のデータに基づいて評価する必要がある。そのため、学生の個人成績カルテ（S-カルテ）の継続は極めて重要であると考えられる。 |
| ⑥学修支援・OSCE（臨床能力試験）・CBT（薬学共用試験）試験対策支援 | 2. 学生の質保証（サポート体制）<br>・個別指導・弱点对策<br>・能力別補講クラスの運営  | 2.IR機能による分析<br>・OSCE CBT試験模試結果分析/過年度比較<br>・特別活動（課外授業）学内補講受講率・補講回数<br>・模擬試験受験回数・受験率・合格ライン達成率<br>（1年次：目標回数1回、実施回数1回、達成率100%、2年次：目標回数1回、実施回数1回、達成率100%、3年次：目標回数2回、実施回数2回、達成率：100%）<br>・入学前教育参加受講率<br>・初年次教育の取組<br>・学科目再試験受験者数の減少 | 入学予定者を対象に、これから薬学を学ぶ上で必要な基礎学力を高め、また、薬学生として必要な学習習慣を身に付けると共に、薬学への興味・関心をさらに高めることを目的として、入学前教育を実施する。<br>在学生に対しては、薬学部特別活動を実施する。<br>1年後の薬学共用試験(CBT)および3年後の国家試験合格に向けた学習支援：学生が低学年のうちから国家試験を意識した勉強を行い、CBTと国家試験に一回で合格できるようにする。   | 入学前教育については、化学・生物・物理・英語・数学の基礎学力向上および薬学に触れる機会として、入試時期に応じて早期入学決定者に対して添削課題および外部講師による対面講習（12～1月）を実施した。全ての入学予定者に対して学内教員によるmanabaを利用した遠隔講習（2～3月）、外部講師による対面講習（3月末）を実施した。<br>薬学部特別活動については、前年度と同様に、主要科目について2回程度ずつ行った。<br>低学年のうちからCBT・国家試験に対する意識づけをさせるため、模擬試験を行って自分の全国的な位置付けを認識させた。   |
| ⑦FD・SD研修の充実～教学マネジメントを支える基盤～          | 4. 教職員の資質向上<br>・理念の実践<br>・コミュニケーション能力向上<br>・マネジメント能力向上<br>・教学支援力<br>・教員相互授業参観/授業評価<br>・入学志願者増加対策<br>・3Pに基づく教育課程の検証<br>・研究倫理<br>・新任教員研修<br>・授業コンサルテーション<br>・授業改善ワークショップ<br>・地域社会に貢献でき、地域医療の発展に寄与する研究ができる人材の養成 | FD研修の開催回数<br>→研修会を2回実施（目標達成率100%）<br>SD研修の開催回数<br>→事務側で記載ください<br>各研修会の参加率<br>→FD研修の参加率100%  | 講義の改善による学生の学力向上：講義の実施方法を見直し、改善することで講義により学力を効率的に向上させることを目的とし、全教員を対象とした研修会を10月と3月に実施する。<br>教育方法改善による学生の学力向上：9月～10月に前期の定期試験結果と授業評価アンケートの結果を受けて、改善が必要な講義を抽出し、科目担当者に対して講義の改善を要請する。改善が見られない場合は、FD委員で問題点を抽出し、具体的な改善案を提示する。<br>臨床に強い薬学教育の実践：本学の特色である臨床に強い薬学教育を実践するため、臨床現場の現状を把握することを目的とし、研修会を10月と3月に実施する。  | 2023年度は、5月にチューター支援の在り方、7月に薬学教育モデル・コア・カリキュラム、10月に薬局実務実習をテーマとしたFD研修会をそれぞれ実施した（全3回）。学生の態度教育、基礎科目を学ぶ上で重要な知識、臨床で確実に覚えるべき知識などを教員が学び、学年ごとの指導に生かした。その結果、実務実習事前学習Iでは80%以上の学生がS評価を得るなど、高い教育効果が認められた。また、薬学部1・3年生の必修科目における本試験合格率は両者ともに昨年度より0.7%上昇していた（1年：88.9→89.6%、3年：77.6→78.3%）。<br>授業評価アンケートの総合評価は平均90点（100点満点中）と全体的に学生の満足度は高かった。項目別にみると、板書・資料（94点）、図の大きさ（96点）、図の内容（96点）といった講義資料に関する項目の評価が高かった。一方、授業の進行度（86点）、授業の内容（84点）についてはやや評価が低く、次年度以降も改善の余地があると思われた。<br>そのため、2023年度のアンケート結果を踏まえた上で、2024年度は授業内容の質的向上を目的として、アクティブ・ラーニング形式の講義に関するFD研修会を計画している。また、現在教務委員会を中心に進められている休・退学者減少に向けた取り組みをより強固なものとするために、上記取り組みが薬学部全教員の共通認識となるように研修を企画・運営していく予定である。  |

2023年度 湘南医療大学 薬学部

| 2023年度 薬学部<br>事業計画 | 教育の展開   | 具体的な取組の指標   | 2023年度 薬学部医療薬学科 事業計画概要   | 2023年度 薬学部医療薬学科 事業報告  |
|--------------------|---|---|--|---|
| ⑧自己点検・評価の厳格化       | 5. 内部質保証<br>・薬学教育（6年制）第三者評価 評価基準<br>・日本高等教育評価機構項目<br>・学校教育法第113条及び学校教育法施行規則172条の2に掲げる項目の情報公開<br>・第三者評価（企業・公的機関） | 1 教育研究上の目的と三つの方針（基準3 観点7）<br>2 内部質保証（基準2 観点3）<br>3 薬学教育カリキュラム（基準7 観点17）<br>4 学生の受入れ（基準2 観点7）<br>5 教員組織・職員組織（基準2 観点12）<br>6 学生の支援（基準1 観点4）<br>7 施設設備（基準1 観点0）<br>8 社会連携・社会貢献（基準1 観点3）<br>上記評価項目1-8の情報共有を行った。（達成率100%）<br>理念/人材育成の目標/教育研究上の目的/教育の特色/教員の有する学位・研究業績/入学者数、収容定員及び在学学生数/卒業生数並びに進学者数及び就職者数/資格免許実績/留年率及び中退率/教育課程の体系/シラバス/学修評価基準/卒業・修了の認定基準/学位論文審査基準/修学支援（チューター制度）/生活・心身健康の支援/障害学生支援/3つのポリシー/新入生アンケート/学習時間調査/授業評価アンケート/学修成果/卒業時・卒業後アンケート/各実習施設との実習前後の意見交換 | 「薬学教育評価機構 認証評価」を控えているため、2021年に実施した認証評価を基本に薬学教育評価機構が必要となるデータの収集、分析を行っていく。また、基本となるデータとして学校基本調査など官公庁向け報告書を活用し、薬学教育評価機構が必要となるデータのうち、未収集データを集約できるよう取り組んでいく。 | 薬学部医療薬学科の自己点検・評価の厳格化としての取り組みは、大学の理念や目的・目標に照らして教育活動等の状況を点検し、優れている点や改善すべき点などを評価し、その結果を公表するとともに、その結果を踏まえて改善向上を行うことを目的とした。2023年度は、自己点検・評価の基本となるデータの収集・蓄積に向け、薬学教育評価機構の認証評価の評価項目を薬学部医療薬学科の教職員に周知することで、理解を深めデータの集約をスムーズに行えるように取り組んだ。薬学教育評価機構の評価8項目のうち、6項目の情報共有を行った。また他大学薬学部の評価結果の共有や、2023年3月に行った第三者評価に関するFD講演会についての情報共有を行った。薬学教育評価機構の評価8項目のうち、6項目については、すべての教職員に情報共有を行った。項目7:施設設備、8:社会連携・社会貢献については、評価書作成の担当の教員および事務職員との情報提供を行った（達成率100%）。 |
| ⑨キャリア支援            | 2. 学生の質保証（サポート体制）<br>・実習先施設との連携<br>・インターンシップ  | 就職希望調査：9月2～20日に1～3年生を対象に就職先希望調査を実施/進路・就職相談の参加/就職ガイダンスの開催数・参加者/就職説明会の開催数・参加者数/学修成果の施設等との意見交換/教育リソースの活用 / その他：2024年度インターンシップ講座開講に向けてキャリア支援委員会を7回開催  | グループ施設での実習や、また近隣の企業との教育・研究における連携を通して、良好な関係性を築き、学生のキャリア支援に対する協力体制を築く。   | 薬学部内のキャリア支援委員会を稼働させ、4年次からのインターンシップ実習講座の開講に向けた準備を行った。<br>5年次の実務実習に向けて、実務実習センターと湘南東部総合病院薬剤部との打ち合わせを定期的実施することになった。   |

湘南医療大学 研究業績

(1) 著書

| 書名   | 発行所   | 発行月             | 著者  |
|--|---|-----------------|---|
| 緊急度・重症度からみた症状別看護課程+病態関連図   | 医学書院  | 2023.11         | 西尾綾子, 喜多村 健   |
| 言語聴覚士のための聴覚障害学   | 医歯薬出版                                       | 2024.1          | 喜多村 健   |
| 訪問で役立つ在宅援助技術   | ウエルテック株式会社                                  | 2023 年 12 月     | 小林紀明  |
| 新体系看護学全書母性看護学①<br>母性看護学概論/ウィメンズヘルスト看護                            | メヂカルフレンド社                                   | 2022 年 11 月     | 編集： 渡邊浩子、板倉敦夫、松崎政代<br>分担執筆：山崎圭子他  |
| 系統看護学講座 別巻 救急看護学   | 医学書院  | 2024 年 1 月      | 山勢善江 他  |
| 体のトリセツ   | 法研  | 2024 年 1 月      | 渡邊眞理 (著者代表)、岡多恵、三堀いずみ、野口京子、原田知彦、大社里奈、谷島和美、相馬麻美、種市由香理、鈴木姿子   |
| 系統看護学講座 専門分野成人看護学[5.] 消化器  | 医学書院  | 2024 年 1 月 15 日 | 南川雅子, 正岡建洋, 宮島伸宣, 齋藤英胤, 金田 智, 塩見英佑, 渡邊千登世, 中村 威, 海老沼浩利, 河地茂行, 宮澤光男, 三ツ井圭子, 角田こずえ, 棟久恭子                        |
| 新看護学 9 成人看護1   | 医学書院  | 2024 年 2 月 1 日  | 伊関治和, 小澤秀樹, 柿崎徹, 加行淳子, 剣持 功, 齋藤英胤, 佐藤まゆみ, 高橋正光, 中村 威, 成毛聖夫, 西尾和三, 橋本千佳, 三ツ井圭子, 南川雅子, 宮澤光男, 棟久恭子, 森田南美恵, 山口千恵子 |
| 2024 年版 医学書院 看護師国家試験問題集<br>[Web 電子版付き]ー必修問題/過去問題/国試で<br>るでた BOOK | 医学書院  | 2024 年 4 月 15 日 | 共著<br>三ツ井圭子<br>[担当分]<br>成人看護学 消化器 過去<br>問題・予想問題第 112回看<br>護師国家試験問題の回答・解<br>説                                  |
| 【執筆記事】<br>ニューマンセンター開設セレモニー報告                                     | NPO ニューマン理論・<br>研究・実践研究会ニュー<br>ースレター, 第 8 号 | in press        | 倉橋悠子, 池田牧   |
| 【執筆記事】<br>プラクシスコースを受けて   | NPO ニューマン理論・<br>研究・実践研究会ニュー<br>ースレター, 第 7 号 | 6 月, 2023       | 倉橋悠子  |
| 「リハビリテーションと関連職種」. PT<br>スタートガイド 基礎理学療法概論改訂 第 2 版                 | メジカルビュー社                                    | 2023. 12        | 大森圭貢  |
| 「廃用症候群」. PT スタートガイド 基礎理学<br>療法 概論改訂 第2 版                         | メジカルビュー社                                    | 2023. 12        | 大森圭貢  |

## (2) 学術論文 (原著)

| 書名   | 発行所                           | 発行月                   | 著者                           |
|--|-------------------------------|-----------------------|------------------------------|
| 「職業倫理」. PT スタートガイド 基礎理学療法概論 改訂 第2版                                 | メジカルビュー社                      | 2023. 12              | 大森圭貢                         |
| 「救命措置（一次救命処置）」. PT スタートガイド 基礎理学療法概論改訂 第2版                          | メジカルビュー社                      | 2023. 12              | 大森圭貢                         |
| 脳卒中リハビリテーション治療・支援のFirst STEP, 苦手を克服! 画像のみかた!                       | メジカルビュー                       | pp. 2-23, 2023年9月17日  | 大村優慈 (著)<br>高橋忠志, 栗田慎也 (編)   |
| 神経障害理学療法学. 第2版, 脳画像の見方   | 羊土社                           | pp. 39-54, 2024年2月29日 | 大村優慈 (著)<br>潮見泰藏 (編)         |
| 第2部疾患等悪物治療血管炎症候群   | ネオメディカル                       | 2023年10月              | 定本清美                         |
| 第2部疾患等薬物治療成人ステイル病  | ネオメディカル                       | 2023年10月              | 定本清美                         |
| 第2部疾患と薬物治療リウマチ性多発筋痛症   | ネオメディカル                       | 2023年10月              | 2023年10月                     |
| Q&A でわかる がん疼痛緩和ケア 第2版  | じほう                           | 2023年4月               | 監修: 的場元弘, 加賀谷肇<br>分担執筆 加賀谷肇他 |
| 緩和医療薬学 改訂第2版   | 南江堂                           | 2023年4月               | 編集 日本緩和医療薬学会<br>分担執筆 加賀谷肇他   |
| 実践 小児薬用量ガイド (第4版)  | じほう                           | 2024年3月               | 監修: 甲斐純夫,<br>加賀谷肇、佐藤透        |
| 緩和医療薬学(改訂第2版)  | 南江堂                           | 2023年4月               | 国分秀也 (担当:共著)                 |
| 調剤と情報 (【薬局・在宅でのあらゆる場面を想定 管理&使い方をマスターしよう 医療用麻薬のトリセツ】第5章 がん疼痛治療を深める) | じほう                           | 2023年5月               | 国分秀也 (担当:共著)                 |
| Evidence Update 2025   | 南山堂                           | 2023年12月              | 佐藤淳也                         |
| 臨床論文吟味×アカデミック・ディテリング   | 調剤と情報 (じほう)                   | 2023年12月              | 佐藤淳也                         |
| いまさら聞けない・いまずぐ知りたい「疑問」に答える抗がん薬の支持療法                                 | じほう                           | 2023年7月               | 佐藤淳也                         |
| 進行性疾患患者の呼吸困難の緩和に関する診療ガイドライン  | 金原出版・日本緩和医療学会                 | 2023年6月               | 佐藤淳也                         |
| がん薬物療法に伴う末梢神経障害診療ガイドライン 2023年版                                     | 南江堂・日本がんサポーターケア学会             | 2023年6月               | 佐藤淳也                         |
| 医療用麻薬のトリセツ   | 調剤と情報 (じほう)                   | 2023年6月               | 佐藤淳也                         |
| 緩和医療薬学 改訂第2版   |                               | 2023年5月               | 佐藤淳也                         |
| 植物の香りのサイエンス  | NHK 出版                        | 2024年3月20日            | 塩田清二、竹ノ谷文子                   |
| 薬学生のための解剖生理学ノート パート1   | アドスリー                         | 2023年4月10日            | 塩田清二 (監修)                    |
| 薬学生のための解剖生理学ノート パート2   | アドスリー                         | 2023年10月10日           | 塩田清二 (監修)                    |
| 新スタンダード薬学シリーズ第2巻 社会と薬学   | 東京化学同人                        | 2024年3月               | 竹内尚子 他51名                    |
| 薬のエキスパートに学ぶ 見逃されやすい副作用・相互作用  | 救急医学                          | 2023年4月               | 細谷龍一郎, 北島健士                  |
| 学校におけるメンタルヘルス教育の普及啓発活動に取り組む親の行動体験と心理の過程                            | 日本アディクション看護学会誌第20巻2号 (P11-22) | 令和5年9月                | 上松太郎, 松下年子,<br>片山典子          |
| 運動介入が物質関連障害者の自尊感情や自己効力感を高める効果: スコーピングレビュー                          | 日本アディクション看護学会誌第21巻1号          | in press              | 小野寺悠斗, 佐々木博之<br>片山典子         |
| 射乳反射の自覚がある母親の産後1か月までの母乳不足感の体験                                      | 母性衛生、64(4), 485-492           | 2024年1月               | 堀田江理、松岡あやか、<br>山崎圭子、金子政時     |

| 論文タイトル  | 掲載誌・発行元  | 掲載月                          | 著者  |
|---|--|------------------------------|---|
| 正規雇用就労女性の就労と妊娠出産育児に関する主体的体験   | 母性衛生, 65(2),<br>in press   | 2024 年 7 月 予<br>定            | 宮地友里、 <u>山崎圭子</u> 、<br>福島富士子  |
| Effect of Domestic Violence on the Health-related Quality of Life of Pregnant Women during the COVID-19 Pandemic  | Journal of<br>Japan Health<br>Medicine<br>Association,<br>in press | 2024 年未定                     | Tsuda, Honoka; Kaneko,<br>Masatoki; <u>Yamazaki,<br/>Keiko</u> ; Tsuruta, urumi;<br>Tanabe, Ayako; Yoshinaga,<br>Saori; Taniguchi,<br>Mitsuyo; Fujii oshinobu |
| 治療中止と同時に療養の場を選択する進行がん患者とその家族へのがん看護専門看護師による相談支援の実際   | 日本がん看護学会誌<br>37 巻  | 2023 年 10 月                  | 三堀いづみ、林めぐり子、<br>菅野雄介、玉井奈緒、 <u>渡<br/>邊真理</u> 、赤瀬智子   |
| Lifestyle Behavior of refraining from sugary drinks and rice accompaniments in type 2 diabetes patients within 3 months of diagnosis leads to a decrease in BMI after 12 months                         | Diabetology<br>International                                       | 2023 年 8 月                   | 徳永友里、青盛真紀、<br>渡部節子  |
| Association of obesity with health literacy and weight perception among woman   | Literacy and practice  | 2023 年 12 月<br>アクセプト         | 碓井瑠衣、青盛真紀、<br>金森将吾、渡部節子   |
| Implementation of a multimodel hand-hygiene education program at a geriatric-healthservices facility: Analysis of changes in health workers' hand-hygiene compliance and residents' infection morbidity | Japanese society for<br>infection prevention<br>and control        | 2024 年 2 月                   | 高橋幸子、落合亮太、<br>渡部節子  |
| 就学前の子どもを育てる35 歳以上の母親の心身の不調に影響する要因～育児ストレスと月経状態の影響（査読あり）  | 日本母性看護学会   | 2023. 3                      | 野井恵加、坂梨薫、<br>勝川由美   |
| シルバーカーと歩行車の方向転換動作分析～補助車と体幹の動きの関係、上肢の動きに着目して～  | 日本リハビリテーション<br>工学協会誌 38 (3), 181-<br>187,                          | 2023/11/1                    | 山中 梨央、石井 慎<br>一郎、櫻井 好美、<br>山本 澄子  |
| 着地動作の柔らかさによる大腿四頭筋とハムストリングスの共収縮の違い-共収縮と衝撃吸収能の関係  | バイオメカニズム学会<br>誌Vol. 47, No. 4                                      | 2023/11/1                    | 小松 佳路, 石井 慎<br>一郎, 櫻井 好美,<br>山本 澄子  |
| 理学療法学科学生の長期臨床実習における義肢装具の経験に関する調査  | 日本義肢装具学会誌  | 40:53-63, 2024               | 島袋公史, <u>大村優慈</u> , 立<br>田統, 砂田宏典, 浅見豊子   |
| 介護老人保健施設入所者における食堂の座席での反復起立テストと日常歩行, バランス機能, 歩行耐久性の関係  | The Japanese Journal<br>of Rehabilitation Medicine                 | accepted                     | <u>大村優慈</u> , 脇島克介, 酒<br>向正春, 小笠原尚和   |
| Construction of a support system for people requiring special care at evacuation shelters using Geographical Information System (GIS)   | Japanese Journal<br>of Disaster Medicine                           | 2023 年 4 月                   | Eiji Shimoda  |
| 炭酸入浴剤による炭酸温水足浴が身体的バランス能力に及ぼす影響  | 人工炭酸泉研究会雑誌   | 2024 年 3 月投稿<br>(査読中)        | 中村 壽志   |
| 令和五年度 老人保健事業推進費補助金 老人保健健康増進等事業 リハビリテーション・機能訓練, 口腔, 栄養の一体的取り組みに関する調査研究事業報告.  | 一般社団法人日本健<br>康・栄養システム学会  | 2024 年 3 月                   | 三浦公嗣, 仲井培雄,<br><u>土田将之</u> , 杉山みち子,<br>他  |
| Changes in acceleration and deceleration factors associated with active gait speed adjustment   | Journal of Physical<br>Therapy Science                             | vol36, No. 5,<br>pp1-8, 2024 | Tomoya Kokue, Yuma<br>Takenaka, <u>Masayuki<br/>Tsuchida</u> , Tomotaka<br>Suzuki, Kenichi Sugawara   |

| 論文タイトル   | 掲載誌・発行元  | 掲載月         | 著者   |
|--|--|-------------|--|
| 1 手指用ピストンデバイス PDFin による痙縮減弱の即時効果の検証 (査読付)  | 日本機械学会ロボティクス論文 1P1- D26, 1-2.  | 2023 年 6 月  | 水野蒼麻, 森田良文, 田邊浩文, Nguyen Thi Kieu Chinh, 姚潤宏                   |
| 2 Comparing Effectiveness of Pist on Device for Finger and Stretchi ng for Hand Spasticity in Stroke Patients (脳卒中患者の麻痺手痙縮に対する指ピストンデバイスとストレッチングとの効果の比較) (査読付)      | International Convention on Rehabilitation Engineering and Assistive Technology, P02.1                         | 2023 年 8 月  | Runhong Yao, 水野蒼麻, 芝坂亮太, 森田良文, 田邊浩文,                           |
| 3 Spasticity reduction effect of pa ssive repetitive joint motion by pi ston finger device (ピストンフィンガーデバイスによる他動的反復関節運動の痙縮軽減効果) (査読付)                                | 生体医工学シンポジウム論文集D-3 2  | 2023 年 8 月  | 水野蒼麻, 芝坂亮太, 田邊浩文, Runhong Yao, 森田良文                            |
| 4 自主歩行トレーニング支援ロボットの腰部装着による歩行動作への影響に関する考察 (査読付)   | 電気電子情報関係学会論文集  | 2023 年 8 月  | 奥畑大輝, 森田良文, 田邊浩文   |
| 5 再生医療への作業療法士の役割と期待  | 第 57 回日本作業療法学会企画セミナー論文集  | 2023 年 11 月 | 田邊浩文, 宮本直也, 奥田正作, 高田雄一   |
| 6 維持期脳卒中重度片麻痺に対する間葉系幹細胞投与後の集中リハビリテーションの実践報告〜シングルケーススタディ〜 (査読付)   | 第 57 回日本作業療法学会抄録集  | 2023 年 11 月 | 田邊浩司, 田邊浩文   |
| 7 生活期脳卒中片麻痺者に対する modified CI セラピーの適応効果の検証 (査読付)  | 第 57 回日本作業療法学会抄録集  | 2023 年 12 月 | 藪崎さや子, 石丸敦彦, 渡邊慎一, 高岡徹, 田邊浩文                                   |
| 8 The actual situation of rehabilitation sites in Japan (日本におけるリハビリテーションの実態) (招聘講演)  | Japan-Poland International Worksh op on Technologies supporting rehabilitation and medical services in POZUNAN | 2023 年 12 月 | 田邊浩文   |
| 9 Tanabe Therapy, a brain restruc turing approach for central nervou s system diseases (中枢神経疾患に対する脳再構築アプローチ「タナベセラピー」) (招聘講演)                                       | Japan-Poland International Worksh op on Technologies supporting reh abilitation and medical services in LODZ   | 2024 年 2 月  | 田邊浩文   |
| 10 手指伸筋促通トレーニングデバイス iPARKO の手指伸展の即時効果検証  | 電気学会論文誌 Vol.143, pp.1099- 1105 (DOI:10.1541/ieej.iss.143.1099)   | 2023 年 12 月 | 水野蒼麻, 森田良文, 田邊浩文, Nguyen Thi Kieu Chinh, 姚潤宏                   |
| 11 Verification of Immediate Effe ct of Finger Extension Using a Fi nger Extensor Facilitation Training Device "iPARKO" (指伸展促通訓練デバイス「iPARKO」を用いた指伸展の即時効果の検証) (査読付) | IEEJ Transactions on Electronics, Information and Systems, vol. 14 3, issue 12, pp. 1099-1105                  | 2023 年 12 月 | 水野蒼麻, 芝坂亮太, 田邊浩文, Runhong Yao, 森田良文                            |
| Career Support for Persons wi th Visual Impairment: A Litera ture Review on the Issues Rel ated to the Employment of Pe rsons wi th Disabilities in Japa n (査読付)   | International Journal of Humanities and Social Science 13(5): 11-17  | 2023 年 12 月 | Kenichi Hokari, Yukiko Goto <u>Yusuke Masuda</u> , Jun Yaedad: |
| 弱視学生が必要とするICT 環境に対する大学教員の支援自己効力感に及ぼす個人要因の影響(査読付)   | 高等教育と障害 6(1):1-18  | 2024 年 1 月  | 相羽大輔, 増田雄亮 丹野傑史, 鈴木祥隆  |

| 論文タイトル  | 掲載誌・発行元                                | 掲載月                    | 著者   |
|---|--|------------------------|--|
| エビデンスに基づく実践の促進要因に関する探索的研究～急性期リハビリテーション専門職を対象とした予備調査結果～（査読付）   | 作業療法<br>43(1):141-146                  | 2024年2月                | 佐藤雅哉, <u>増田雄亮</u>  |
| 作業中心の Evidence-based practice を支援する臨床教育の有用性－探索的事例検討－（査読付）   | 作業療法<br>43(2):ページ未定                    | 2024年4月                | 廣瀬卓哉, 丸山祥 <u>増田雄亮</u> , 久保大輔京極真  |
| How to Perceive Rehabilitation at the Onset of Cerebrovascular Disorder Sequelae                              | Open Journal of Depression 12(3)       | 2023/8/28              | Toshimasa Mikawa , Hirofumi Tanabe   |
| 車椅子座位上肢機能検査（Wheel Chair Seating Arm Function Test, WS-AFT）短縮版の開発。（査読付）  | 車椅子シーティング研究 8:11-19.                   | 2023年11月               | <u>岡本絵里加</u> , 亀ヶ谷忠彦   |
| Feasibility of Child-Resistant and Senior-Friendly Press Through Packages: Potential of Different Material    | Pharmaceutics                          | 15(3)2023.4            | Kiyomi Sadamoto  |
| 手指機能と医薬品利用や日常動作への影響   | 人間工学                                   | suppl592023.9          | 定本清美、浦裕之   |
| Structural Impact Assessment of Cytochrome P450 2A13 Polymorphisms Using Molecular Dynamics Simulations       | Biological and Pharmaceutical Bulletin | 62(11):1679-1688, 2024 | Koichi Kato, Tomoki Nakayoshi, Yuki Kitamura, Eiji Kurimoto, Akifumi Oda, <u>Yoshinobu Ishikawa</u>  |
| Identification of the Most Impactful Asparagine Residues for $\gamma$ S-Crystallin Aggregation by Deamidation | Biochemistry                           | 47(3):620-628, 2023    | Koichi Kato, Tomoki Nakayoshi, Sho Hioki, Masahiro Hiratsuka, <u>Yoshinobu Ishikawa</u> , Eiji Kurimoto, Akifumi Oda   |
| Phytochemical investigation of Scutellaria scordifolia and its trypanocidal activity                          | Phytochemistry                         | 209:113615, 2023       | StipanNurbyek, uyanmandakh Buyankhishig, Keisuke Suganuma, <u>Yoshinobu Ishikawa</u> , Mika Kutsuma, Marie Abe, Kenroh Sasaki, Bekh-Ochir Davaapurev, Javzan Batkhuy, Toshihiro Murata |
| Interaction of Host Proteins with Cell Surface Molecules of the Pathogenic Yeast Trichosporon asahii（査読付）     | Med Mycol J.<br>2023;64(2):29-36.      | 2023年4月                | Ichikawa T, Okumura M, Mizumura T, Hayashi M, Watanabe M, Ikeda R, Ishibashi Y.  |
| The Association between Molecular Initiating Events and Drug-Induced Hiccups(査読付)                             | Pharmaceutics<br>巻：17号：379<br>頁：1-15   | 2024年3月                | Ryuichiro Hosoya, Reiko Ishii- Nozawa, Tomoko Terajima, <u>Ha jime Kagaya</u> , <u>Yoshihiro Uesawa</u>  |
| 「ダメ。ゼッタイ。」普及運動は医療用麻薬の適正使用に影響しているか？<br><br>（査読付）   | 日本緩和医療薬学会<br>雑誌巻：17<br>号：1<br>頁：17-24  | 2024年3月                | 鈴木勉、長谷川真司、 <u>加賀谷肇</u>   |

| 論文タイトル   | 掲載誌・発行元                            | 掲載月   | 著者   |
|--|------------------------------------|---|--|
| Effectiveness and safety of primary prophylaxis with G-CSF after induction therapy for acute myeloid leukemia: a systematic review and meta-analysis of the clinical practice guidelines for the use of G-CSF 2022 from the Japan society of clinical oncology | Int J Clin Oncol                   | 2024 Mar 18<br>doi:<br>10.1007/s10147-023-02465-0 | aeda T, Najima Y, <u>Kato Y</u> , et al.   |
| Effectiveness and safety of primary prophylaxis of granulocyte colony-stimulating factor during dose-dense chemotherapy for urothelial cancer: Clinical Practice Guidelines for the Use of G-CSF 2022  | Int J Clin Oncol                   | 2024 Mar 22<br>doi:<br>10.1007/s10147-024-02491-6 | Uchino K, Tamura S, <u>Kato Y</u> , et al.   |
| Effectiveness and safety of primary prophylaxis of G-CSF during chemotherapy for prostate cancer, Japanese clinical guideline for appropriate use of G-CSF: clinical practice guidelines for the use of G-CSF 2022   | Int J Clin Oncol                   | 2024 Mar 28<br>doi:0.1007/s10147-024-02501-7      | Kimura S, Shigeta K, <u>Kato Y</u> , et al.  |
| Optimal timing of prophylactic pegylated G-CSF after chemotherapy administration for patients with cancer: a systematic review and meta-analysis from Clinical Practice Guidelines for the use of G-CSF 2022   | Int J Clin Oncol                   | 2024 Mar 25<br>doi:0.1007/s10147-024-02499-y      | Ozaki Y, Yokoe T, <u>Kato Y</u> , et al.   |
| Protective effect of teriparatide against vancomycin-induced cytotoxicity in osteoblasts.  | J Orthopae Sci                     | 2023 年 11 月                                       | Tsuji K, <u>Kimura S</u> , Tateda K, Takahashi H   |
| Whole-genome sequencing analysis of molecular epidemiology and silent transmissions causing methicillin-resistant Staphylococcus aureus bloodstream infections in a university hospital  | J Hosp Infect                      | 2023 年 6 月  | Sato T, Yamaguchi T, Aoki K, Kajiwara C, <u>Kimura S</u> , Maeda T, Yoshizawa S, Sasaki M, Murakami H, Hisatsune J, Sugai M, Ishii Y, Tateda K, Urita Y.   |
| Comparison of Analgesic Efficacy and Safety of Low-Dose Transdermal Fentanyl and Oral Oxycodone in Opioid-Naive Patients with Cancer Pain  | Biological Pharmaceutical Bulletin | and 46:1444-1450, 2023                            | Mariko Kawana, Akime Miyasato, Miyui Funato, Keigo Nagatanii, Norifumi Suzuki, Chiharu Onoda, Hidenori Fujimoto, Rintaro Ohno, Ayuko Kusakabe, Mio Kiribayashi, Kazuyo Nakamura, Masayoshi Kondo, Ayumi Ozeki, Kosuke Okamoto, Hideya <u>Kokubun</u> |
| 緩和医療における点滴ルートマネジメント確立に向けた医療用麻薬注射薬の配合変化試験組合せ要望に関する全国調査  | 日本緩和医療薬学雑誌                         | 16:23-30, 2023                                    | 近藤 匡慶, 宗像 千恵, 龍 恵美, 吉田 真人, 高瀬 久光, <u>国分 秀也</u>   |

| 論文タイトル   | 掲載誌・発行元                          | 掲載月                           | 著者  |
|--|----------------------------------|-------------------------------|---|
| 薬局薬剤師に対する緩和ケアの相談支援体制の必要性と実行可能性の調査  | 日本緩和医療薬学雑誌                       | 16:55-63, 2023                | 土井 真喜, 佐藤 由美, 飛鷹範明, 文 靖子, 岡本晃典, <u>国分 秀也</u>  |
| A Multicenter Retrospective Observational Study Analyzing the Effect of Polypharmacy on Oxycodone Tolerability   | J Pain Palliat Care Pharmacother | 2024 Mar;38(1):3-12.          | Makihara K, Yamamoto Y, Miyazaki M, Taguchi M, <u>Sato J</u> , Takase H, Uezono Y.  |
| Transient Worsening of Pain After Administration of Immune Checkpoint Inhibitors - A Case Series   | In Vivo                          | 2024 Mar-Apr;38(2):944-948.   | Saito Y, <u>Sato J</u> , Takeshima T, Kase H.   |
| Efficacy of combined use of Suvorexant and Ramelteon in preventing postoperative delirium: a retrospective comparative study   | J Pharm Health Care Sci          | 2023 Dec 1;9(1):42.           | Ikeuchi S, Tanaka R, Sugiura T, Shinsato K, Wakabayashi A, <u>Sato J</u> , Suzuki K, Shino M.   |
| Efficacy and safety of bone management agents administered at 12 weeks vs. 4 weeks in patients with bone metastases: A systematic review   | J Oncol Pharm Pract              | 2023 Oct 9:10781552231203720. | <u>Sato J</u> , Kodaira M, Harada H, Iguchi H, Yoshida T, Shibata H   |
| Effects of Opioids, Steroids, Benzodiazepines, Anticholinergics, and Antihistamines on the Efficacy of Antipsychotics for Treating Delirium in End-of-Life Adult Patients Undergoing Palliative Care | J Pain Palliat Care Pharmacother | 2023 Dec;37(4):298-307.       | <u>Sato J</u> , Tanaka R.   |
| Relationship Between SGLT2 Inhibitors and Hemoglobin Levels: A Retrospective Observational Study   | In Vivo                          | 2023 Sep-Oct;37(5):2327-2333. | Yoshida Y, Takahashi K, Hashimoto R, Oya T, <u>Sato J</u> .   |
| Opioids for the Management of Dyspnea in Cancer Patients: A Systematic Review and Meta-analysis  | Int J Clin Oncol                 | 2023 Aug;28(8):999-1010.      | Takagi Y, <u>Sato J</u> , Yamamoto Y, Matsunuma R, Watanabe H, Mori M, Hasegawa T, Matsuda Y, Kako J, Kasahara Y, Goya S, Kohara H, Nakayama T, Yamaguchi T.  |
| せん妄患者に対する院内製剤ペロスピロン坐薬の作成と使用経験  | 日本緩和医療薬学雑誌                       | 16(2) 47-51<br>2023年6月        | <u>佐藤 淳也</u> , 藤本泰輔, 梅田鈴香, 塚越真由美, 田中 怜  |
| Effect of Intracerebroventricular Administration of Galanin-Like Peptide on Hepatokines in C57BL/6 J Mice.   | J Mol Neurosci                   | 2024/2/22                     | Satoshi Hirako, Nobuhiro Wada, Yuzuru Iizuka, Takahiro Hirabayashi, Haruaki Kageyama, Hyounju Kim, Naoko Kaibara, Naoko Yanagisawa, Fumiko Takenoya, <u>Seiji Shioda</u>  |
| The NERP-4-SNAT2 axis regulates pancreatic $\beta$ -cell maintenance and function.   | Nature Commun                    | 2023/12/9                     | Weidong Zhang, Ayako Miura, Md Moin Abu Saleh, Koichiro Shimizu, Yuichiro Mita, Ryota Tanida, Satoshi Hirako, <u>Seiji Shioda</u> , Valery Gmyr, Julie Kerr-Conte, Francois Pattou, Chunhuan Jin, Yoshikatsu Kanai, Kazuki Sasaki, Naoto Minamoto, Hideyuki Sakoda & Masamitsu Nakazato |

| 論文タイトル  | 掲載誌・発行元                                     | 掲載月         | 著者   |
|---|---|-------------|--|
| Transcriptomic (DNA Microarray) and Metabolome (LC-TOF-MS) Analyses of the Liver in High-Fat Diet Mice after Intranasal Administration of GALP (Galanin-like Peptide).                      | Int J Mol Sci                               | 2023/10/31  | Fumiko Takenoya, Junko Shibamoto, Michio Yamashita, Ai Kimura, Satoshi Hirako, Yoshihiko Chiba, Naoko Nonaka, <u>Seiji Shioda</u> , Randeep Rakwal   |
| Docosapentaenoic acid-rich oil lowers plasma glucose and lipids in a mouse model of diabetes and mild obesity.  | Nutrition Res                               | 2023/8/16   | Satoshi Hirako, Takahiro Hirabayashi, Junko Shibato, Ai Kimura, Michio Yamashita, Yuzuru Iizuka, Nobuhiro Wada, Naoko Kaibara, Fumiko Takenoya, <u>Seiji Shioda</u>  |
| さくらセルエキスストラクトの美白効果  | 日本アロマセラピー学会誌                                | 2023/11/1   | 柴藤淳子、竹ノ谷文子、山下道生、 <u>塩田清二</u>   |
| 海外の大麻規制変遷から考える国内の大麻規制再構築の意義.  | 医薬品医療機器レギュラトリーサイエンス, 54: 36-42, 2023.       | 4月          | <u>船田正彦</u>  |
| 薬剤師への相談ニーズから見た妊産婦特性と薬局使用経験との関連性評価   | 日本ファーマシューティカルコミュニケーション学会会誌                  | 2023年4月     | 池下 暁人 相良 篤信<br>畦地 拓哉 前田 絢子<br>里 香世子 小湊 英範<br>鳥越 一宏 佐野 元彦<br>堀内 正子 里 史明 有田 悦子 <u>湯本 哲郎</u> 濃沼 政美  |
| Survey on sharing information about health products/medicines between obstetricians and pregnant/postpartum women toward supporting pregnant/postpartum women by family pharmacy/pharmacist | Japanese Journal of Community Pharmacy      | 2023年6月     | Ikeshita A, Sagara A, <u>Azech</u><br>i T, Maeda-Minami A, Sato K, Koinuma M, Kominato H, Torigoe K, Sano M, Horiuchi M, Sato F, <u>Yumoto T</u>   |
| Development of a novel drug information provision system for Kampo medicine using natural language processing technology  | BMC Medical Informatics and Decision Making | 2023年7月13日  | Ayako Maeda-Minami<br>Tetsuhiro Yoshino<br><u>Tetsuro Yumoto</u> Ka yoko<br>Sato Atsunobu Sagara Kenjiro Inaba Hidenori Kominato Takao Kimura Tetsuya Takishita Gen Watanabe Tomonori Nakamura Yasunari Mano Yuk Horiba Kenji Watanabe Junz Kameio |
| Potential risk of driving performance under combined conditions of taking second-generation antihistamines and attending calls using a hands-free function.                                 | Traffic injury prevention                   | 2023年10月10日 | Atsunobu Sagara, Akihito Nagahama, Hayato Aki, Hiroki Yoshimura, Makoto Hiraide, Takatsune Shimizu, Motohiko Sano, Tetsuro Yumoto, Tomoo Hosoe, Kenji Tanaka   |
| Association between baseline blood pressure and the incidence of lenvatinib-induced hypertension in patients with thyroid cancer  | Cancer Medicine                             | 2023年10月30日 | Yuma Shibutani Kazuko Tajiri Shinya Suzuki Tomohiro Enokida Atsunobu Sagara Susumu Okano Takao Fujisawa Fumiaki Sato Tetsuro Yumoto Motohiko Sano Toshikatsu Kawasaki Makoto Tahara  |

| 論文タイトル  | 掲載誌・発行元                              | 掲載月                  | 著者   |
|---|--------------------------------------|----------------------|--|
| Proteomic analysis of adult T-cell leukemia/lymphoma: A biomarker identification strategy based on preparation and in-solution digestion methods of total proteins. | Leuk Res.                            | 3月                   | Sudo H, Tonoyama Y, Ikebe E, Hasegawa H, Iha H, Ishida YI  |
| Interaction of Host Proteins with Cell Surface Molecules of the Pathogenic Yeast <i>Trichosporon asahii</i>   | Med Mycol J                          | 2023年4月              | Ichikawa T, Okumura M, Mizumura T, Hayashi M, Watanabe M, Ikeda R, Ishibashi Y.  |
| 薬剤師への相談ニーズから見た妊産婦特性と薬局使用経験との関連性評価   | 日本ファーマシューティカルコミュニケーション学会誌            | 21(1) 6-13<br>2023.4 | 池下 暁人 相良 篤信<br>畦地 拓哉 前田 絢子 里香<br>世子 小湊 英範 鳥越<br>一宏 佐野元彦 堀内 正子<br>里 史明 有田 悦子 湯本<br>哲郎 濃沼 政美   |
| The Association between Molecular Initiating Events and Drug-Induced Hiccups(査読付)   | Pharmaceuticals<br>巻:17号:379頁:1-15   | 2024年3月              | Ryuichiro Hosoya, Reiko Ishii- Nozawa, Tomoko Terajima, Hajime Kagaya, Yoshihiro Uesawa  |
| Molecular, functional, and histopathological classification of the pituitary neuroendocrine neoplasms   | Brain Tumor Pathology                | 38:183-188, 2021     | Inomoto C, Tahara S, Oyama K, Kimura M, Matsuno A, Teramoto A, Osamura RY  |
| Sirtuin 3 Mediated by Spinal cMyc-Enhancer of Zeste Homology 2 Pathway Plays an Important Role in Human Immunodeficiency Virus-Related Neuropathic Pain Model(査読付)  | ANESTHESIA&ANALGESIA                 | 2024年3月              | Zhu X, Yi H, Gu J, Liu S, Hayashi K, Ikegami D, Pardo M, Toborek M, Roy S, Li H, Levitt RC, Hao S  |
| Artificial helix supramolecule by doubly pyridyl bridged bis (ZnII-cyclen) (cyclen = 1,4,7,10-tetraazacyclododecane)  | Inorganic Chemistry Communications   | 2023/05              | Yoshimi Ichimaru Koichi<br>Kato Kirara Sugiura Risa<br>Isomura Haruto Fujioka<br>Tohru Koike Sayuri<br>Fujii-Kishida Masaaki<br>Kurihara Yoshihiro<br>Yamaguchi Wanchun Jin<br>Masanori Imai Hiromasa<br>Kurosaki        |
| Aqua{μ-1,4-bis[(1,4,7,10-tetraazacyclododecan-1-yl)methyl]benzene}(nitrate-κO)dicopper(II) tris(nitrate) trihydrate   | IUCrData                             | 2023/06              | Yoshimi Ichimaru, Koichi Kato, Kirara Sugiura, Sarina Ogasawa, Wanchun Jin, Masaaki Kurihara, Yoshihiro Yamaguchi, Masanori Imai, Hiromasa Kurosaki  |
| Effects of tramadol via a μ-opioid receptor on pancreatic ductal adenocarcinoma in vitro and in vivo  | Regional Anesthesia & Pain Medicine  | 2023/06              | Tomoya Kuramochi Makoto<br>Sano Ichie Kajiwara<br>Yukino Oshima Tomoaki<br>Itaya Jinsuk Kim<br>Yoshimi Ichimaru Osamu Kitajima Atsushi Masamune<br>Hideaki Ijichi Takahiro Suzuki  |
| Structural Characterization of Zinc(II)/Cobalt(II) Complexes of Chiral N-(Anthracen-9-yl)methyl-N,N-bis(2-picoly)amine and Evaluation of DNA Photocleavage Activity | Chemical and Pharmaceutical Bulletin | 2023/07              | Yoshimi Ichimaru Koichi<br>Kato Rina Nakatani Risa<br>Isomura Kirara Sugiura<br>Yoshihiro Yamaguchi<br>Wanchun Jin Hideki Mizutani Masanori Imai<br>Masaaki Kurihara Mikako<br>Fujita Masami Otsuka<br>Hiromasa Kurosaki |

| 論文タイトル   | 掲載誌・発行元   | 掲載月                       | 著者   |
|--|---|---------------------------|--|
| Artificial helix supramolecule by doubly p-xylyl bridged bis (ZnII-cyclen) (cyclen = 1,4,7,10-tetraazacyclododecane)   | Inorganic Chemistry Communications                              | 5                         | 市丸嘉、加藤紘一、杉浦雲母、磯村莉沙、藤岡晴人、小池透、藤井早由利、栗原正明、山口佳宏、金万春、今井幹典、黒崎博雅  |
| Identification of the Most Impactful Asparagine Residues for $\gamma$ Crystallin Aggregation by Deamidation  | Biochemistry  | 5                         | 加藤紘一、仲吉朝希、北村祐貴、栗本英治、小田彰史、石川吉伸  |
| Structural Characterization of Zinc(II)/Cobalt(II) Complexes of Chiral N-(Anthracen-9-yl)methyl-N,N-bis(2-picolyl)amine and Evaluation of DNA Photocleavage Activity                                 | Chemical and Pharmaceutical Bulletin                            | 5                         | 市丸嘉、加藤紘一、中谷莉菜、磯村莉沙、杉浦雲母、山口佳宏、金万春、水谷秀樹、今井幹典、栗原正明、藤田美歌子、大塚雅巳、黒崎博雅  |
| Three-dimensional structure prediction of [GADS]-proteins as tentative primitive proteins.   | Chemistry Letters   | 1                         | 仲吉朝希、加藤紘一、栗本英治、小田彰史  |
| Structural Impact Assessment of Cytochrome P450 2A13 Polymorphisms Using Molecular Dynamics Simulations  | Biological & pharmaceutical bulletin                            | 2                         | 加藤紘一、仲吉朝希、日置翔、平塚真弘、石川吉伸、栗本英治、小田彰史  |
| Proteomic analysis of adult T-cell leukemia/lymphoma: A biomarker identification strategy based on preparation and in-solution digestion methods of total proteins                                   | Leukemia Research   | 2024年3月                   | Haruka Sudo, Yasuhiro Tonoyama, Emi Ikebe, Hiroo Hasegawa, Hidekatsu Iha, and Yo-ichi Ishida                                 |
| The Association between Molecular Initiating Events and Drug-Induced Hiccups   | Pharmaceuticals   | 2024年3月                   | Ryuichiro Hosoya, Reiko Ishii- Nozawa, Tomoko Terajima, Hajime Kagaya, Yoshihiro Uesawa                                      |
| A case-control study showing low creatinine clearance and high magnesium intake as risk factors for hypermagnesemia in older individuals   | Magnesium Research  | 2023 Jun 1; 36(2): 23-30. | Hidetoshi Ishii, Risa Sawada, Megumi Shiomi, Kiyoshi Shibuya   |
| 吸入デバイス使用時の問題点—手指機能に関連する課題—   | 人間工学  | 2023、 Suppl 59、S1C6-03    | 浦 裕之、定本清美、久保田清、森尾裕志  |
| Proteomic analysis of adult T-cell leukemia/lymphoma: A biomarker identification strategy based on preparation and in-solution digestion methods of total proteins                                   | Leukemia Research   | 138:107454, 2024          | Haruka Sudo, Yasuhiro Tonoyama, Emi Ikebe, Hiroo Hasegawa, Hidekatsu Iha, Yo-ichi Ishida                                     |
| Effects of Opioids, Steroids, Benzodiazepines, Anticholinergics, and Antihistamines on the Efficacy of Antipsychotics for Treating Delirium in End-of-Life Adult Patients Undergoing Palliative Care | Journal of Pain & Palliative Care Pharmacotherapy 37(4) 298-307 | 2023/11/1                 | Junya Sato, Rei Tanaka   |
| Japanese Nationwide Comparative Survey of Medication Guidance provided by Certified and Non-certified Palliative Care Pharmacists  | The Journal of Nippon Medical School 90(6) 449-459              | 2023/12/1                 | Rei Tanaka, Yumi Satoh, Yuki o Suga, Junichi Nakagawa, M asayuki Miyazaki, Ryoichi Hagiwara, Mayako Uchida, Hisamitsu Takase |
| Efficacy of Combined Use of Suvorexant and Ramelteon in Preventing Postoperative Delirium: A Retrospective Comparative Study   | Journal of Pharmaceutical Health Care and Sciences 9(42) 1-8    | 2023/12/1                 | Shoya Ikeuchi, Rei Tanaka, Teiichi Sugiura, Kaori Shinsato, Akane Wakabayashi, Junya Sato, Keiko Suzuki, Michihiro Shino     |

| 論文タイトル   | 掲載誌・発行元   | 掲載月         | 著者  |
|--|---|-------------|---|
| 1 宿泊型産後ケアにおいて助産師が提供すべきケアの構成要素の明確化 (査読付)                      | 日本母性看護学会誌, 24(1). 15-22, 2023                         | 12 月        | 青島恵美子、島袋香子  |
| シミュレーション教育に関する日本語版学習指導における学生の満足度と自信尺度(SCLS)の信頼性・妥当性の検証(原著論文) | 日本看護シミュレーションラーニング学会誌 (2758-5476)1 巻 Page12-20 (2023.) | 2023. 9. 27 | 鈴木 良美, 阿部 幸恵, 伊藤綾子, 藤野 ユリ子, 澤井 美奈子, 石田 千絵, 井口 理, 神庭純子 |

(3) その他の学術論文

| 論文タイトル   | 掲載誌・発行元   | 掲載月                        | 著者  |
|--|---|----------------------------|---|
| 日本耳科学会設立について会員に託されたメッセージ   | Otology Japa33(4):iv  | 2023, 12                   | 喜多村 健   |
| 就学前の子どもを育てる 35 歳以上の母親の心身の不調と月経状態の関連 (査読あり)   | 日本女性医学学会  | 2023. 7                    | 野井恵加, 坂梨薫, 勝川由美   |
| 更年期症状に影響を与える育児に関する要因の文献検討(査読あり)  | 関東学院大学看護学会誌   | 2024. 3                    | 野井恵加, 坂梨薫, 勝川由美   |
| Differences in lower extremity kinematics during single-leg lateral drop landing of healthy individuals, injured but asymptomatic patients, and patients with chronic ankle instability- a cross-sectional observational study | PLOS ONE  | 21-Mar-24                  | Yuki Sagawa, Takumi Yamada, Takehiro Ohmi, Yoshinao Moriyama, Junpei Kato |
| 腰椎の肢位による横隔膜の Magnetic Resonance Imaging (MRI) 上での運動の違い   | 理学療法学   | 2023年 50巻 6号 p. 233-238    | 黒石 涼太, 山田 拓実, 平川峻也, 睦 凱洪  |
| 脳画像の基礎知識と理学療法での活用の実例   | 理学療法京都  | 53:28-33, 2024             | 大村優慈  |
| 理学療法士から見る指定福祉 避難所の現状と展望  | 福祉介護テクノプラス  | 2024 年 3 月                 | 下田栄次  |
| Packaging Study from the world-more we know more we can  | Journal of packaging science& technology Japan  | vol132.no4August 2013      | Kiyomi Sadamoto   |
| Feasibility of CRSF (Child Resistance & Senior Friendly) drug packages and its needs   | FUTURE OF BIOLOGICS AND BIOSIMILARS MEDICAL CHEMISTRY & PHARMACOLOGY Joint Euro-Global Summit | 06-07November              | Kiyomi Sadamoto   |
| 先行研究調査の心得  | 日本包装学会誌   | vol132.no5 373-3802023. 11 | 定本清美、浦裕之  |
| 和食に秘められた力 ~感染症との接点~  | 生物工学会誌  | 2023 年 4 月                 | 進藤綾大、木村聡一郎  |
| ティートリー精油の成分と抗菌・抗ウイルス作用   | 日本アロマセラピー学会誌  | 2023/11/1                  | 平林敬浩、木村愛、柴藤淳子、山下道生、竹ノ谷文子、 <u>塩田清二</u>                                     |
| 臨床現場におけるメディカルア   | 日本アロマセラピー学会誌  | 2023/11/1                  | 山下道生、柴藤淳子、平林敬   |
| ロマセラピーの研究動向と課題   |   |                            | 浩、千葉義彦、 <u>塩田清二</u> 、竹ノ谷文子  |

| 論文タイトル  | 掲載誌・発行元   | 掲載月                    | 著者   |   |
|---|---|------------------------|--|---|
| 花粉症とアロマセラピー   | 日本アロマセラピー学会誌  | 2023/11/1              | 千葉義彦、山下道生、塩田清二、竹ノ谷文子   |   |
| 関節リウマチ患者に発症したバラコキシジオイデス症の1例   | 診断病理  | 40: 280-284, 2023      | 熱海恵理子、知花賢治、星野浩延、河崎英範、川畑勉、若山 恵、澁谷和俊   |   |
| 精神障害にも対応した地域包括ケアシステムにおける薬剤師の役割  | ファルマシア  | 2023年11月               | 竹内尚子   |   |
| 特集「地域包括ケア」1. 特集にあたって  | 日本精神薬学雑誌  | 2023年9月                | 竹内尚子   |   |
| Tumor angiogenesis in pituitary adenomas  | IntechOpen(DOI:http://dx.doi.org/10.5772/intechopen.102377)             | Open Access Books(WEB) | Yoshida D& Teramoto A  |   |
| Comparison of Analgesic Efficacy and Safety of Low-Dose Transdermal Fentanyl and Oral Oxycodone in Opioid-Naïve Patients with Cancer Pain | Biological and Pharmaceutical Bulletin                                  | 2023年9月                | Mariko Kawana, Akime Miyasato, Miyui Funato, Keigo Nagatani, Norifumi Suzuki, Chiharu Onoda, Hidenori Fujimoto, Rintaro Ohno, Ayuko Kusakabe, Mio Kiribayashi, Kazuyo Nakamura, Masayoshi Kondo, Ayumi Ozeki, Kousuke Okamoto and Hideya Kokubun |   |
| 先行研究調査の心得   | 日本包装学会誌   | 2023、32巻、373-380       | 浦 裕之、定本清美  |   |
| 神奈川県における環境水中薬剤師性菌の存在実態  | 神奈川県公衆衛生学会誌   | 2023年12月               | 曾川甲子郎、加藤英明   |   |
| 神奈川県における飲酒状況と肝機能の年次推移に関する解析   | 神奈川県公衆衛生学会誌   | 2023年12月               | 加藤英明、曾川甲子郎、鈴木勉   |   |
| modified FOLFIRINOX に対する day 2 以降のステロイドスベアリングの有用性に関する検討   | 日本臨床腫瘍薬学会雑誌 29  | 19-25                  | 2023/4/1   | 増島 広幸、田中 愼、後藤真実、倉田 陽加、金谷 有紗、石川 寛、野津 昭文、戸高 明子、篠 道弘 |
| せん妄患者に対する院内製剤ペロスピロン坐薬の作成と使用経験   | 日本緩和医療薬学雑誌 16(2)  | 47-51                  | 2023/6/1   | 佐藤 淳也、藤本 泰輔、梅田鈴香、塚越 真由美、田中愼                       |
| 内蔵神経ブロックによる夜間痛や突出痛の消失が審判な電話相談や時間外受診の解消につながった膵臓がんの2症例  | 日本緩和医療薬学雑誌 16(4)  | 101-104                | 2023/12/1  | 佐藤 哲観、川村 泰一、佐藤 哲、田中 愼、天田 斉子、賀茂佳子、鈴木 知美、臼井 比奈子     |
| Influence of Pharmacists' Adherence Support System "Follow Navi" in Capecitabine Therapy  | Japanese Journal of Clinical Pharmacology and Therapeutics 55 (1) 11-18 | 2024/1/1               | Rei Tanaka, Tatsunori Suzuki, Shumpei Harigai, Shu Sekiya, Akiyoshi Saitoh, Seiichi Kato, Tomokazu Tanaka, Konosuke Shimono, Yoshiaki Shikamura  |   |

## (4) 報告書

| 論文タイトル  | 掲載誌・発行元  | 掲載月                | 著者  |
|---|--|--------------------|---|
| Cisplatin-induced Hair Cell Damage in Mouse Cochlea Largely Depends on the Presence of Sensory Mechano-electrical Transduction Channels Both ex vivo and in vivo. | Collegium Oto-Rhino-Laryngologicum Amicitiae Sacrum  | 2023. 8            | Maruyama A, Kawashima Y, Fukunaga Y, Kitamura K, Tsutsumi T |
| アブミ骨手術における KTP レーザーと CO2 レーザーの比較  | 第 124 回日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会総会・学術講演会  | 2023. 5            | 溝口平恵、藤川太郎、川島慶之、伊藤卓、本田圭司、竹田貴策、野口佳裕、喜多村健、堤剛                   |
| 当科における弛緩部型真珠腫新鮮症例の検討  | 第 33 回日本耳科学会総会学術講演会  | 2023. 11           | 峯川 明、山崎有朋、喜多村健、石田 克紀  |
| 内視鏡下人工内耳手術—蝸蝸牛窓小窩の蝸牛窓小窩の視認が困難な場合の対処法—   | 第 33 回日本耳科学会総会学術講演会  | 2023. 11           | 石田 克紀、山崎有朋、家坂辰弥、峯川 明、喜多村 健                                  |
| 当院における慢性中耳炎に対する Endoscopic inlay butterfly cartilage tympanoplasty (EIBCT) の検討  | 第 33 回日本耳科学会総会学術講演会  | 2023. 11           | 山崎有朋、家坂辰弥、石田 克紀、峯川 明、喜多村 健                                  |
| 交流セッション「看護教員と臨床看護師の相乗効果を高めあうしかけ-教員からの発信-」   | 第 33 回日本看護学教育学会学術集会  | 2023 年 8 月         | 牛田貴子、梅原里実、飯室淳子、中澤美弥   |
| 看護師の身体抑制に関連する感情—文献による質的検討—  | 第 33 回日本看護学教育学会学術集会  | 2023 年 8 月         | 小野伴江、小泉由香里、牛田貴子   |
| 精神疾患を抱える女性の妊娠・分娩・産褥期の経験   | 第 37 回日本助産学会学術集会   | 2023 年 10 月        | 佐藤菜緒、中澤未来、松丸菜央、牛田貴子   |
| 高齢者住宅(有料老人ホーム・サービス付き高齢者住宅)に入居している高齢者のフレイルの現状と入居期間との関連   | 第 10 回フレイル・サルコペニア学会大会  | 2023 年 11 月        | 山田艶子、牛田貴子   |
| 実施状況報告書<br>臨界期にある統合失調症を訪問する訪問看護師の自律性を高める教育プログラムの開発  | 科学研究費助成事業データベース<br><a href="https://kaken.nii.ac.jp/report/KA_KENHI-PROJECT-20K19113/20K191132022hokoku/">https://kaken.nii.ac.jp/report/KA_KENHI-PROJECT-20K19113/20K191132022hokoku/</a> | 令和 5 年 12 月 25 日公開 | 片山典子  |
| 実施状況報告書<br>若者のインターネット依存傾向におけるメンタルヘルスリテラシー教育プログラムの開発   | 科学研究費助成事業データベース<br><a href="https://kaken.nii.ac.jp/report/KA_KENHI-PROJECT-22K10858/22K108582022hokoku/">https://kaken.nii.ac.jp/report/KA_KENHI-PROJECT-22K10858/22K108582022hokoku/</a> | 令和 5 年 12 月 25 日公開 | 大胡晴香、片山典子   |
| 研究成果報告書<br>若年性認知症者が居場所を獲得するまでの支援プロセス  | 日本精神保健看護協会   | —                  | 小原良之、片山典子   |
| 文部科学省令和 5 年度大学における医療人材養成のあり方に関する調査研究委託事業<br>学士課程における看護学教育の質保証に関する調査研究委託事業—保健師の質向上のための調査研究—  |  | 2024 年 3 月提出       | 代表 荒木田美香子 他 43 名  |
| 2023 年度日本運動器看護学会<br>認定運動器看護師制度 概況   | 日本運動器看護学会誌, vol. 19, 2024  | 令和 6 年 3 月         | 櫻井友子  |
| 緩和ケア薬剤師の先駆け   | 薬事日報 薬学生新聞   | 2024 年 1 月         | 加賀谷 肇   |
| アロマセラピー   | 臨床産婦人科産科   | 2023/6/1           | 竹ノ谷文子、塩田清二  |

## (5) 学会発表

| 演題  | 学会名                        | 発表月              | 氏名  |
|---|----------------------------|------------------|---|
| 臨界期にある統合失調症者を訪問する訪問看護師の自律性を高める教育プログラムの検討                      | 第 21 回日本アディクション看護学会学術集会    | 令和 5 年 9 月 9 日   | 片山典子  |
| COVID-19 の影響に係る新人看護職のメンタルヘルスに関する支援プログラムの効果の検討                 | 第 21 回日本アディクション看護学会学術集会    | 令和 5 年 9 月 9 日   | 片山典子, 陶山克洋, 渡部李菜, 大胡晴香  |
| COVID-19 拡大に伴う自粛生活による 1 型糖尿病患者の心身への影響                         | 第 21 回日本アディクション看護学会学術集会    | 令和 5 年 9 月 9 日   | 陶山克洋, 片山典子  |
| 新人看護職の SOC (Sense of Coherence) に関する文献レビュー                    | 第 21 回日本アディクション看護学会学術集会    | 令和 5 年 9 月 9 日   | 渡部李菜, 片山典子  |
| 青年期におけるインターネット依存と精神的健康に焦点を当てた文献レビュー                           | 第 21 回日本アディクション看護学会学術集会    | 令和 5 年 9 月 9 日   | 大胡晴香, 片山典子  |
| 精神科訪問看護に求められるもの—あらためて精神科訪問看護の質を考える                            | 第 30 回日本精神科看護専門学術集会        | 令和 5 年 11 月 22 日 | 片山典子, 浅見幸子, 吉岡康文, 大島江理芳   |
| 介護支援専門員が認識する協働的能力の特徴および構成要素の検討                                | 第 28 回日本在宅ケア学会学術集会         | 2023 年 11 月 12 日 | 小林紀明  |
| 介護支援専門員における協働的能力における協働的能力の構成概念妥当性の検証                          | 第 43 回日本看護科学学会学術集会         | 2023 年 12 月 10 日 | 小林紀明  |
| シンポジウム<br>「若者を支えるためにどのようにつながるか」                               | 第 22 回日本母子看護学会学術集会プログラム    | 2023 年 8 月       | 山崎圭子 (座長)   |
| 職場の環境が子どもをもつ既婚女性労働者の次子希望と健康度に与える影響に関する質問紙調査                   | 第 64 回日本母性衛生学会総会学術集会 愛育賞受賞 | 2023 年 10 月      | 白川美歩, 金子政時, 山崎圭子, 松岡あやか   |
| 子育て中の女性の子どもの持つことに対する価値観と健康関連 Quality of Life の実態              | 第 64 回日本母性衛生学会総会学術集会       | 2023 年 10 月      | 深井茉那, 金子政時, 山崎圭子  |
| 一般演題発表  | 第 21 回日本生殖心理学会・学術集会        | 2024 年 2 月       | 山崎圭子 (座長)   |
| ICU 看護  | 第 19 回 日本クリティカルケア看護学会      | 2023 年 7 月       | 山勢善江 (座長)   |
| 看護における次世代育成の探求  | 第 49 回 日本看護研究学会            | 2023 年 8 月       | 山勢善江 (シンポジスト)   |
| 救急医療現場で求められる ACP  | 第 41 回 福岡救急医学会             | 2023 年 9 月       | 山勢善江 (教育講演)   |
| 家族看護の原点に立ち返り、改めてそのあり方を探る                                      | 第 25 回 日本救急看護学会            | 2023 年 11 月      | 山勢善江 (座長)   |
| 継続的に開催している自主的な緩和ケア研究会の評価—多職種によるトリガービデオを用いた高齢がん患者の意思決定支援研修の評価— | 第 38 回日本がん看護学会学術集会         | 2024 年 2 月       | 渡邊眞理, 小笠原利枝, 山内桂子, 清水奈緒美, 岡多恵, 三堀いずみ, 井上智香, 日塔裕子, 古矢尚子, 谷島和美, 武見綾子, 齋藤幸枝, 谷村美希, 横川史穂子, 小川朝生 |
| 多職種による 高齢がん患者の意思決定支援 (意思の推定) 研修会の評価—グループワーク感想の質的分析—           | 第 38 回日本がん看護学会学術集会         | 2024 年 2 月       | 岡多恵, 渡邊眞理, 清水奈緒美, 三堀いずみ, 小川朝生   |

| 演題   | 学会名   | 発表月                       | 氏名                                       |
|--|---|---------------------------|--|
| 多職種による高齢がん患者の意思決定支援（意思の推定）研修会の評価—意思決定支援の取り組みと今後の課題の質的分析—                 | 第 38 回日本がん看護学会学術集会  | 2024 年 2 月                | 清水奈緒美、渡邊眞理、三堀いずみ、小川朝生                    |
| 多職種による高齢がん患者の意思決定支援（意思の推定）研修会の評価   | 第 38 回日本がん看護学会学術集会  | 2024 年 2 月                | 渡邊眞理、清水奈緒美、三堀いずみ、小川朝生                    |
| 交流集会： 高齢がん患者の意思決定（意思の推定）   | 第 38 回日本がん看護学会学術集会  | 2024 年 2 月                | 渡邊眞理（企画・運営代表者）                           |
| 接触予防策が講じられた患者に対して倫理調整を必要と感じた場面とその対応について                                  | 日本環境感染学会<br>第 38 回学術集会  | 2023 年 7 月                | 遠藤真理子、落合亮太、青盛真紀、野口京子、渡部節子                |
| 専門外来の受診とたんばく質制限の実施は糖尿病性腎症患者の血液透析導入までの保存期の機関と関連する                         | 日本腎不全看護学会第 26 回学術集会   | 2023 年 11 月               | 竹山志津子、徳永友里、岩崎和子、大木美紀、石田由美子、岡本幸子、金井絆、渡部節子 |
| 多職種による高齢がん患者の意思決定支援（意思の推定）研修会の評価   | 第 38 回日本がん看護学会学術集会  | 2024 年 2 月                | 渡邊眞理、清水奈緒美、岡多恵、三堀いずみ他                    |
| 多職種による高齢がん患者の意思決定支援（意思の推定）研修会の評価<br>グループワークの感想の質的分析                      | 第 38 回日本がん看護学会学術集会  | 2024 年 2 月                | 清水奈緒美、渡邊眞理、岡多恵、三堀いずみ他                    |
| 多職種による高齢がん患者の意思決定支援（意思の推定）研修会の評価—意思決定支援の取り組みと今後の課題認識の質的分析—               | 第 38 回日本がん看護学会学術集会  | 2024 年 2 月                | 岡多恵、渡邊眞理、清水奈緒美、三堀いずみ他                    |
| 看護職のための神奈川緩和ケア研究会 多職種によるトリガービデオを用いた高齢がん患者の意思決定支援研修の評価                    | 第 38 回日本がん看護学会学術集会  | 2024 年 2 月                | 渡邊眞理、小笠原利枝、山内桂子、清水奈緒美他                   |
| シンポジウム 2「コロナ禍で教育を受けた看護師たちのその後」 コロナ禍における臨地実習の変容がもたらした影響                   | 日本看護学教育学会第 3 回学術集会  | 令和 5 年 8 月                | 櫻井友子                                     |
| コロナ発生後における地域活動への参加交流に対する都市在住高齢者の意識<第 1 報>                                | 第 28 回日本在宅ケア学会学術集会  | 2023 年 11 月 11 日、<br>12 日 | 塚原ゆかり、菊池有紀                               |
| コロナ禍の都市在住高齢者の主観的満足感と社会的サポート・ネットワークとの関連<第 2 報>                            | 第 28 回日本在宅ケア学会学術集会  | 2023 年 11 月 11 日、<br>12 日 | 菊池有紀、塚原ゆかり                               |
| Caring partnership with nurse and HEC praxis                             | Dr. Margaret A. Newman Center for Nursing Theory Inaugural Dedication and Dialogue Event, University of Tennessee Health Sciences, College of Nursing Memphis, Tennessee, | May 30-31, 2023           | Yuko Kurahashi                           |
| 精神科看護における音楽療法と音楽活動に焦点を当てた文献レビュー  | The Japanese Journal of Rehabilitation Medicine(1881-3526)<br>60 巻特別号 Page4-P-5-3   | 2023.05                   | 大胡 晴香, 斉藤 琴子, 山崎 真帆, 倉橋 悠子               |
| M. ニューマン理論に基づく、部下との関わりに困難感を抱く看護師長とのケアリング・パートナーシップの過程                     | 一般社団法人 日本看護学教育学会<br>第 33 回学術集会  | 8 月, 2023                 | 倉橋悠子                                     |
| ニューマンセンター開設式で発表した看護実践研究の報告 Caring partnership with nurse and HEC praxis. | NPO 法人ニューマン理論・研究・実践研究会 2023 年度学習会   | 10 月, 2023                | 倉橋悠子                                     |

| 演題   | 学会名  | 発表月                 | 氏名  |
|--|--|---------------------|---|
| 【招待講演】<br>生成 AI (ChatGPT) を用いたケアの伝承、クリ<br>ンルームで治療する白血病患者のストレス<br>を軽減するための音楽プログラムの開発 進<br>捗報告   | LIP. 横浜オープンイノベーションカン<br>ファレンスIX “クロスイノベー<br>ション Breaking Barriers<br>異なる領域の融合が導く新たな世界”   | 2 月, 2024           | 倉橋悠子  |
| ゲーム形式 ACP 普及ツール人<br>生トランプの高齢者支援専門職による評価  | 第 82 回日本公衆衛生学会総会   | 2023 年 11 月         | 榎本晃子、田口 (袴田) 理<br>恵、荒木亜紀、久保善子、<br>高橋美保  |
| 新人看護職の SOC (Sense of Coherence)<br>に関する文献レビュー  | 第 21 回日本アディクション看護学<br>会学術集会 (石川)   | 9 月                 | 渡部李菜, 片山典子  |
| COVID-19 の影響に係る新人看護職のメンタル<br>ヘルスに関する支援プログラムの効果の検討  | 第 21 回日本アディクション看護学<br>会学術集会  | 9 月                 | 片山典子, 陶山克洋, 渡部<br>李菜, 大胡晴香  |
| ジェネラリストとスペシャリスについて<br>これからの理学療法士に期待すること  | 高知県理学療法士会<br>福祉部合同研修会: 教育講演  | 令和 5 年 11 月 19<br>日 | 鶴見隆正  |
| 自覚的強度を指標とした非最大努力による握<br>力および膝伸筋力の特徴  | 第 10 回日本予防理学療法学会学術大<br>会   | 2023. 10            | 大森圭貢, 森尾裕志, 中尾<br>陽光, 坂上昇, 大森みかよ  |
| 非利き手での箸操作練習による動作獲得と<br>自己効力感との関係   | 日本リハビリテーション連携科学学<br>会第 25 回大会  | 2024. 03            | 大森圭貢, 森尾裕志, 櫻井<br>好美, 関根悟, 大森みか<br>よ, 山本淳一  |
| リウマチ性疾患患者における PT P 包装開<br>封とピンチ力との関係について   | 日本リハビリテーション連携科学学<br>会第 25 回大会  | 2024. 03            | 森尾裕志, 定本清美, 大森<br>圭貢, 浦裕之, 久保田清   |
| Intervention for Non-Dominant Hand<br>Chopstick Manipulation in<br>Rehabilitation and Possible<br>Collaboration with Robotics  | International Symposium on C<br>ommunity-centric Systems and<br>Robots 2024 (CcSR 2024)  | 2024. 02            | Omori Y, Morio Y, Sakurai<br>Y, Saekine S, Omori M,<br>Ya mamoto J                  |
| The Effectiveness of Home-based Step<br>Training on lower limb and<br>cardiopulmonary function in older<br>adults: A Potential Collaboration<br>with Mechanical Device and ICT               | International Symposium on C<br>ommunity-centric Systems and<br>Robots 2024 (CcSR 2024)  | 2024. 02            | Morio Y, Omori Y, Sakurai<br>Y, Yamamoto J  |
| 橈骨遠位端骨折術後患者の炎<br>症症状と痛みの経時的変化  | 第 57 回日本作業療法学会   | 2023. 11            | 大野博子, 大森みかよ, 寺内<br>昂, 大森圭貢, 仁木久照  |
| 理学療法士のストレス対処能力とバーンアウ<br>トの関連   | 日本理学療法管理学会・日本精<br>神・心理領域理学療法研究<br>会・合同学術大会 2023 年  | 2023. 11            | 山本真広, 大森圭貢, 森尾<br>裕志, 川越潤一  |
| 自覚的強度を指標とした非最大努力による握<br>力および膝伸筋<br>力の特徴  | 第 10 回日本予防理学療法学会学術大<br>会   | 2023. 10            | 大森圭貢, 森尾裕志,<br>中尾陽光, 坂上昇, 大森み<br>かよ   |
| 高齢者における新たな動作獲得の可能性:<br>非利き手箸操作の計測とリハビリテーショ<br>ン: Possibility of acquiring new<br>movements in older people: measurement<br>of non-dominant hand chopstick<br>manipulation and rehabilitation | 第 31 回インテリジェント・システ<br>ム・シンポジウム<br>FAN 2023 in Fukuoka<br>The 31st Symposium on Fuzz y,<br>Artificial Intelligence, Neura l<br>Networks and Computational<br>Intelligence | 2023. 09            | 大森圭貢, 森尾裕志, 大森<br>みかよ, 関根悟, Adnan<br>Rachmat Anom Besari, 大<br>保武慶, 久保田直行, 山本<br>淳一 |
| 手指機能と医薬品利用や日常動作への影響;<br>関節リウマチ症例の握力、ピンチ力とペッ<br>ト<br>ボ<br>トル開封の関係   | 人間工学会第 64 回  | 2023. 09            | 森尾裕志, 定本清美, 大森<br>圭貢, 浦裕之, 久保田清   |
| Effects of actual eating practice<br>using chopsticks with a non<br>-dominant hand in daily life on fine<br>motor skills in older people   | Association for Behavior Anal<br>ysis International's 49th Annu<br>al Convention   | 2023. 05            | Omori Y, Morio Y, Saekine<br>S, Omori M, Yamamoto J                                 |

| 演題  | 学会名   | 発表月      | 氏名   |
|---|---|----------|--|
| Improving Chopstick Use by Non-Dominant Hand in Mealtime for Elderly Persons: Home-Based Intervention with Self-Recording   | 49th Annual Convention, Association for Behavior Analysis International 2023, Denver  | 2023年05月 | Yamamoto J, Sekine S, <b>Morio Y</b> , Omori M, Omori Y                        |
| 循環器理学療法の評価の標準化～急性期のミニマムスタンダードの作成～: 循環器理学療法における評価の標準化～ミニマムスタンダードの作成目的と作成までの道のり～  | 第7回日本循環器理学療法学会学術大会(東京)  | 2023年09月 | 加藤倫卓, 井澤和夫, 阿部義史, 大西伸悟, 北村匡大, 鬼頭和也, <b>森尾裕志</b> , 柳英利, 山崎一史, 山本智史              |
| 循環器理学療法の評価の標準化～急性期のミニマムスタンダードの作成～: 急性期における循環器理学療法の評価の標準化～病態把握ならびに循環器理学療法の効果判定の指標～   | 第7回日本循環器理学療法学会学術大会(東京)  | 2023年09月 | 大西伸悟, 阿部義史, 井澤和夫, 鬼頭和也, <b>森尾裕志</b> , 加藤倫卓                                     |
| 循環器理学療法の評価の標準化～急性期のミニマムスタンダードの作成～: 急性期における循環器理学療法に関する理学療法士が測定または調査し得る指標～  | 第7回日本循環器理学療法学会学術大会(東京)  | 2023年09月 | 阿部義史, 井澤和夫, 大西伸悟, 加藤倫卓, 鬼頭和也, <b>森尾裕志</b>                                      |
| 高齢者における新たな動作獲得の可能性: 非利き手箸操作の計測とリハビリテーション (Possibility of acquiring new movements in older people: measurement of non-dominant hand chopstick manipulation and rehabilitation) | 第31回インテリジェント・システム・シンポジウム FAN 2023 in Fukuoka The 31st Symposium on Fuzzy, Artificial Intelligence, Neural Networks and Computational Intelligence | 2023年09月 | 大森圭貢, <b>森尾裕志</b> , 大森みかよ, 関根 悟, Adnan Rachm at Anom Besari, 大保武慶, 久保田直行, 山本淳一 |
| 手指機能と医薬品利用や日常動作への影響   | 人間工学会第64回(千葉)   | 2023年09月 | 定本清美, 浦裕之, <b>森尾裕志</b> , 久保田清  |
| 手指機能と医薬品利用や日常動作への影響: 吸入デバイス使用時の問題点 -手指機能に関連する課題-  | 人間工学会第64回(千葉)   | 2023年09月 | 浦 裕之, 定本清美, 久保田清, <b>森尾裕志</b>  |
| 手指機能と医薬品利用や日常動作への影響: 関節リウマチ症例の握力、ピンチ力とペットボトル開封の関係   | 人間工学会第64回(千葉)   | 2023年09月 | <b>森尾裕志</b> , 定本清美, 大森圭貢, 浦 裕之, 久保田清   |
| 自覚的強度を指標とした非最大努力による握力および膝伸筋力の特徴   | 第10回日本予防理学療法学会学術大会  | 2023年10月 | 大森圭貢, <b>森尾裕志</b> , 中尾陽光, 坂上 昇, 大森みかよ  |
| 理学療法士のストレス対処能力とバーンアウトの関連  | 日本理学療法管理学会・日本精神・心理領域理学療法研究会・合同学術大会2023年   | 2023年11月 | 山本真広, 大森圭貢, <b>森尾裕志</b> , 川越潤一   |
| Intervention for Non-Dominant Hand Chopstick Manipulation in Rehabilitation and Possible Collaboration with Robotics  | International Symposium on Community-centric Systems and Robots 2024, Hachijyo Island   | 2024年02月 | Omori Y, <b>Morio Y</b> , Sakurai Y, Sekine S, Omori M, Yamamoto J             |
| The Effectiveness of Home-based Step Training on lower limb and cardiopulmonary function in older adults: A Potential Collaboration with Mechanical Device and ICT            | International Symposium on Community-centric Systems and Robots 2024, Hachijyo Island   | 2024年02月 | <b>Morio Y</b> , Omori Y, Sakurai Y, Yamamoto J                                |
| 非利き手での箸操作練習による動作獲得と自己効力感との関係  | 日本リハビリテーション連携科学学会第25回大会(オンライン)  | 2024年03月 | 大森圭貢, <b>森尾裕志</b> , 櫻井好美, 関根悟, 大森みかよ, 山本淳一                                     |
| リウマチ性疾患患者における PTP 包装開封とピンチ力との関係について   | 日本リハビリテーション連携科学学会第25回大会(オンライン)  | 2024年03月 | <b>森尾裕志</b> , 定本清美, 大森圭貢, 浦裕之, 久保田清  |
| 人工膝関節再置換術後患者を対象とした患者立脚型アウトカムの臨末的に意味のある閾値  | 日本運動器理学療法学会   | 2023年10月 | 田澤 智央, 山田 拓実, 古谷英孝, 山本 尚史, 島根 幸依, 八木 勇太, 田中友也, 杉本和隆                            |

| 演題   | 学会名  | 発表月             | 氏名  |
|--|--|-----------------|---|
| 内側楔状開大式高位脛骨骨切り術後早期にテニスが可能となった高齢者の1症例   | 日本運動器理学療法学会  | 2023年10月        | 浪越 啓史, 木村 亮太, 菅原貴之, 松田 哲也, 山田拓実, 白土 貴史  |
| COVID-19 禍における臨床見学実習の取り組み  | 全国大学理学療法学会   | 2024年2月         | 儀間 裕貴, 池田 由美, 伴佳生, 浅田 実徳, 勝又 瑞葵, 弓長 成徹, 山田 拓実   |
| 虚弱高齢者の歩行速度に関連する要因の検討   | 日本リハビリテーション連携科学学会  | 2024年3月         | 万行 里佳, 山田 拓実  |
| 妊婦体験ジャケット着用時の歩行中の動的安定性と下肢筋力の関係   | 第9回日本ウィメンズヘルス・メンズヘルス理学療法研究会学術大会  | 2023.11         | 櫻井好美  |
| 妊娠前からの生活習慣が産に与える影響ー母児予後良好の出産例を対象とした調査ー   | 第9回日本ウィメンズヘルス・メンズヘルス理学療法研究会学術大会  | 2023.11         | 白井有紀 櫻井好美   |
| 非利き手での箸操作練習による動作獲得と自己効力感との関係   | 日本リハビリテーション連携科学学会第25回大会  | 2024.03         | 大森圭貢, 森尾裕志, 櫻井好美, 関根悟, 大森みかよ, 山本淳一  |
| Intervention for Non-Dominant Hand Chopstick Manipulation in Rehabilitation and Possible Collaboration with Robotics | International Symposium on Community-centric Systems and Robots 2024 (CcSR 2024) | 2024.02         | Yoshitsugu OMORI, Yuji MORIO, Yoshimi SAKURAI, Satoru SEKINE, Mikayo OMO RI, Junichi YAMAMOTO |
| 自覚的強度を指標とした非最大努力による握力および膝伸筋力の特徴  | 第10回日本予理理学療法学会学術大会   | 2023年10月        | 大森圭貢, 森尾裕志, 中尾陽光, 坂上昇, 大森みかよ  |
| 招待講演「高次脳機能障害をとらえるための脳画像の読み方」   | 山口県理学療法士会主催定期理学療法研修会   | 2023年5月14日      | 大村優慈  |
| 教育講演「高次脳機能障害に関連する脳領域の画像形態」   | 第21回日本神経理学療法学会学術大会   | 2023年9月28日-29日  | 大村優慈  |
| 教育講演「脳画像の基礎知識と理学療法での活用の実例」   | 第33回京都府理学療法学会学術大会  | 2023年11月19日     | 大村優慈  |
| 招待講演「脳画像を”正しく”読影するためのポイント」   | 第31回全道理学療法士学術研修大会・第3回道北支部学術研修大会  | 2023年12月2日      | 大村優慈  |
| 教育講演「脳卒中装具療法に役立つ脳画像の読み方」   | 第12回効果をあげる理学療法技術としての義肢装具療法を考えるフォーラム  | 2024年3月10日      | 大村優慈  |
| 口演7「脳機能・画像解析」  | 第21回日本神経理学療法学会学術大会   | 2023年9月28日-29日  | 内田 学, 大村優慈 (座長)   |
| 優秀演題1 (調査研究部門)   | 第12回日本支援工理学療法学会学術大会  | 2023年12月16日-17日 | 高木治雄, 大村優慈 (座長)   |
| 特別企画「義肢装具を生活の中でより良く使うための工夫」  | 第12回効果をあげる理学療法技術としての義肢装具療法を考えるフォーラム  | 2024年3月10日      | 大村優慈 (司会)   |
| 脳血管疾患患者の回復期リハビリテーション病棟退院時の30秒椅子立ち上がりテストと歩行自立の関係  | 第60回日本リハビリテーション医学会学術集会   | 2023年6月29日-7月2日 | 樋口明伸, 大村優慈  |
| 回復期リハビリテーション病棟においてCOVID-19 クラスター中にリハビリテーション介入を止めなかった効果   | 第60回日本リハビリテーション医学会学術集会   | 2023年6月29日-7月2日 | 二瓶太志, 中尾恒司, 新井健, 大村優慈, 酒向正春   |
| 回復期病棟で発生したCOVID-19 クラスター下の感染防御における言語聴覚士の役割   | 第60回日本リハビリテーション医学会学術集会   | 2023年6月29日-7月2日 | グラハム亮子, 大村優慈, 二瓶太志, 岸下垂希子, 酒向正春   |

| 演題  | 学会名  | 発表月                         | 氏名  |
|---|--|-----------------------------|---|
| 回復期リハビリテーション病棟における 9 単位 / 日を超えるリハビリテーション介入の効果           | 第 60 回日本リハビリテーション医学会学術集会                           | 2023 年 6 月 29 日 - 7 月 2 日   | 二瓶太志, <u>大村優慈</u> , 酒向正春                                |
| 介護老人保健施設に入所している車いす使用者の移乗自立と連続起立回数の関係                    | 第 60 回日本リハビリテーション医学会学術集会                           | 2023 年 6 月 29 日 - 7 月 2 日   | 脇島克介, <u>大村優慈</u> , 酒向正春, 小笠原尚和                         |
| 神経解剖学と脳画像評価に対するセラピストの意識調査                               | 第 21 回日本神経理学療法学会学術大会                               | 2023 年 9 月 28 日 - 29 日      | <u>大村優慈</u> , 小林英司                                      |
| 介護老人保健施設入所者における食堂の座席で起立運動を反復できる回数とフロア内歩行の関係             | 第 10 回日本予防理学療法学会学術大会                               | 2023 年 10 月 28 日 - 29 日     | <u>大村優慈</u> , 脇島克介, 酒向正春, 小笠原尚和                         |
| 回復期リハビリテーション病棟入院患者における COVID-19 クラスター前後でのバランス機能と歩行能力の変化 | 第 10 回日本予防理学療法学会学術大会                               | 2023 年 10 月 28 日 - 29 日     | 岸下亜希子, 遠藤春菜, 奥川裕介, 松本夢奈, 二瓶太志, <u>大村優慈</u>              |
| 個別避難計画の重要性と DWAT について                                   | 神奈川県理学療法士会災害対策キャラバン                                | 2024 年 2 月                  | 下田栄次  |
| 災害と理学療法士との関わりについて                                       | 神奈川県理学療法士会災害対策研修会                                  | 2024 年 1 月                  | 下田栄次  |
| 第 6 回日本産業理学療法研究会学術大会一般演題 (口述) (労働災害) 座長                 | 日本産業理学療法研究会 日本予防理学療法学会                             | 2023 年 10 月                 | 下田栄次  |
| 災害時のリハビリテーション専門職の対応                                     | 令和 5 年度訪問リハビリテーション実務者研修会 中央 WEB 研修会                | 2023 年 8 月                  | 下田栄次  |
| 人工炭酸温水による足浴が下肢筋力向上と転倒予防への可能性について                        | 第 26 回人工炭酸泉研究会                                     | 2023 年 12 月 1 日             | 中村壽志, 前田眞治  |
| 認知負荷を伴う変速歩行制御が注意需要と歩行パターンに及ぼす影響                         | 第 42 回関東甲信越ブロック理学療法士学会                             | 2023 年 10 月                 | 廣田 耕二郎, 竹中 悠真, 小久江 智耶, <u>土田 将之</u> , 甲斐義弘, 菅原 憲一, 鈴木智高 |
| 能動的な歩行速度調整に関わる運動学的要因                                    | 第 28 回日本基礎理学療法学会学術大会                               | 2023 年 12 月                 | 柳瀬 美空, 安武 快, 小久江智耶, 竹中 悠真, <u>土田 将之</u> , 菅原 憲一         |
| 生活期の脳卒中後上肢麻痺に対し複数のニューロリハビリテーションを併用した一事例                 | リハビリテーション・ケア合同研究大会 (広島)                            | 2023 年 10 月                 | 小齋奈央, <u>増田雄亮</u> , 川上途行, 沢田宏美清水彩可, 高野莉歩, 松永玄, 近藤国嗣     |
| 生活期脳卒中患者に対する自主訓練型上肢機能訓練の効果                              | 第 57 回日本作業療法学会 (沖縄)                                | 2023 年 11 月                 | 沢田宏美, <u>増田雄亮</u> , 新藤恵一郎, 近藤国嗣                         |
| 急性期リハビリテーション専門職を対象としたエビデンスに基づく実践の促進要因に関する検討             | 第 57 回日本作業療法学会 (沖縄)                                | 2023 年 11 月                 | 佐藤雅哉, <u>増田雄亮</u>                                       |
| 作業療法士の基本属性および臨床・教育・研究の経験と EBPSA との関連                    | 第 57 回日本作業療法学会 (沖縄)                                | 2023 年 11 月                 | <u>増田雄亮</u> , 八重田淳會田玉美                                  |
| エビデンスに基づくリハビリテーション実践のための卒前・卒後教育に関する研究                   | 日本リハビリテーション連携科学学会 研究推進委員会・国際研究推進委員会主催定例研究会 (オンライン) | 2023 年 11 月                 | <u>増田雄亮</u> , 八重田淳會田玉美                                  |
| Evidence-Based Practice 遂行尺度の開発と信頼性・妥当性の検討              | 日本リハビリテーション連携科学学会 第 25 回大会 (オンライン)                 | 2024 年 3 月                  | <u>増田雄亮</u> , 八重田淳廣瀬卓哉, 會田玉美                            |
| 脳血管障害患者における疾患後の抑うつ状態の捉え方について                            | 第 57 回日本作業療法学会                                     | 令和 5 年 11 月 10 日~12 日(2023) | 三川年正, 田邊浩文  |
| 回復期病棟における精神的問題の疑いがある患者への対応について ~リハビリテーション専門職に対する質的調査~   | 第 57 回日本作業療法学会                                     | 令和 5 年 11 月 10 日~12 日(2023) | 阿原千尋, 三川年正  |
| ジョン・デューイの日常性と芸術性の連続性 -作業療法における「作業」との関連から                | 第 8 2 回日本哲学会大会                                     | 2023. 5. 20                 | 西野由希子   |

| 演題  | 学会名   | 発表月                  | 氏名  |
|---|---|----------------------|---|
| Feasibility of CRSF (Child Resistance & Senior Friendly) drug packages and its needs  | FUTURE OF BIOLOGICS AND BIOSIMILARS MEDICINAL CHEMISTRY & PHARMACOLOGY Joint Euro-Global Summit | November 06-07, 2023 | Kiyomi Sadamoto   |
| Feasibility of CRSF (child Resistance & Senior Friendly) drug packages and its potential effectiveness.                               | 9th International Conference on Physical Health, Public Health & Health Management              | July 15-16 2023      | Kiyomi Sadamoto   |
| 手指機能と医薬品利用や日常動作への影響   | 日本人間工学会第64回シンポジウム   | 2023年9月              | 定本清美、浦裕之  |
| 吸入デバイス使用時の問題点、手指機能に関する課題  | 日本人間工学会第64回シンポジウム   | 2023年9月              | 浦裕之、定本清美  |
| 関節リウマチ患者におけるPTP包装開封とピンチ力の関係について   | 日本リハビリテーション連携科学学会第25回大会   | 2024年3月              | 森尾裕志、定本清美   |
| クロロフィン-1タンパク質細胞内局在を操る経皮吸収促進技術の開発  | 日本薬学会第144年会(横浜)   | 令和6年3月28日-31日        | 内田美里、吉野雄太、遠藤智史、石川吉伸、五十里彰  |
| アスパラギン残基の脱アミド化による $\gamma$ Sクリスタリンの構造変化と凝集の関係   | 日本薬学会第144年会(横浜)   | 令和6年3月28日-31日        | 加藤紘一、仲吉朝希、栗本英治、小田彰史、石川吉伸  |
| メイラード反応初期段階におけるシッフ塩基形成反応の量子化学計算による解析  | 第51回構造活性相関シンポジウム(東京)  | 令和5年11月20-21日        | 加藤紘一、仲吉朝希、篠原康郎、栗本英治、小田彰史、石川吉伸   |
| Computational study of the Ring Opening Process in Nonenzymatic Peptide Bond Cleavage at the C-Terminal Side of an Asparagine Residue | 34th IUPAP Conference on Computational Physics (Kobe)   | 令和5年8月7日             | Koichi Kato, Tomoki Nakayoshi, Eiji Kurimoto, Akifumi Oda, <u>Yoshinobu Ishikawa</u>    |
| $\gamma$ S-クリスタリンにおける全アスパラギン残基の脱アミド化による凝集促進   | 第23回日本蛋白質科学会年会(名古屋)   | 令和5年7月5日             | 加藤紘一、仲吉朝希、栗本英治、小田彰史、石川吉伸  |
| 受容体データベース BindingDB の有用性の検討   | 第9回日本医薬品安全性学会学術大会(東京)   | 2023年7月17日           | 細谷龍一郎、寺島朝子、野澤(石井)玲子、加賀谷肇、植沢芳広   |
| 基礎と臨床をつなぐ取り組みとしての生物系基礎科目；1年次前期「生物系基礎科学」の例   | 第8回日本薬学教育学会(熊本)   | 2023年8月20日           | 殿山泰弘、須藤遥、寺島朝子、加賀谷肇、定本清美、石田洋一  |
| 薬学教育における実習教材としてのメダカの有用性   | 第8回日本薬学教育学会(熊本)   | 2023年8月20日           | 須藤遥、殿山泰弘、寺島朝子、加賀谷肇、定本清美、石田洋一  |
| チーム医療の実践力を育む2年次学生向け演習の薬学教育モデル・コアカリキュラム(令和4年度改訂版)への対応状況と今後の課題  | 第8回日本薬学教育学会(熊本)   | 2023年8月20日           | 寺島朝子、細谷龍一郎、小野塚真理、佐野和美、市丸嘉、加藤紘一、加藤裕久、定本清美、塩田清二、進藤綾大、須藤遥、殿山泰弘、古屋博行、山崎泰広、若山恵、石橋芳雄、加賀谷肇、鈴木勉 |
| 薬剤誘発性吃逆とドパミンD2受容体の関係  | 第33回日本医療薬学会年会(仙台)   | 2023年11月4日           | 細谷龍一郎、寺島朝子、野澤(石井)玲子、植沢芳広、加賀谷肇   |
| 薬剤性吃逆(しゃっくり)と関連する核内受容体の検討   | 2024年緩和医療薬学会(神戸)  | 2024年1月11日           | 細谷龍一郎、寺島朝子、野澤(石井)玲子、植沢芳広、加賀谷肇   |
| 「ダメ。ゼッタイ。」普及運動は医療用麻薬の適正使用に影響しているか?  | 日本薬学会144年会(横浜)  | 2024年3月31日           | 鈴木勉、長谷川真司、加賀谷肇  |

| 演題   | 学会名                                      | 発表月         | 氏名   |
|--|--|-------------|--|
| シンポジウム 60：がん薬物療法・緩和医療において、薬剤師が効果的に持続可能な貢献をするための方策とは？<br>効果的で持続可能な貢献が期待される薬剤師を輩出するには？                                 | 日本薬学会第 144 回年会                           | 3 月 31 日    | 加藤裕久 (シンポジスト)  |
| 一般演題5  | 第 58 回緑膿菌感染症研究会                          | 2024 年 1 月  | 木村聡一郎 (座長)   |
| 一般演題・基礎2   | 第 72 回日本感染症学会東日本地方会学術集会                  | 2023 年 10 月 | 木村聡一郎 (座長)   |
| プロバイオティクス大腸菌由来外膜小胞を使った肺炎球菌ワクチンの投与ルートとの検討   | 第 53 回 レンサ球菌研究会                          | 2023 年 10 月 | 中尾龍馬、安倍公博、山口雄大、木村聡一郎、明田幸宏  |
| 血漿中の単球由来 microvesicles を用いた COVID-19 重症化評価の可能性   | 第 71 回日本化学療法学会総会                         | 2023 年 4 月  | 青柳哲史、梶原千晶、木村聡一郎、山口哲央、吉澤定子、石井良和、舘田一博  |
| 肺炎球菌性肺炎における疾患感受性遺伝子を起点とした病態増悪機構の研究   | 第 71 回日本化学療法学会総会                         | 2023 年 4 月  | 進藤綾大、舘田一博、木村聡一郎  |
| シンポジウム 5「緩和医療推進のための日本緩和医療薬学会会員主導臨床研究」  | 第 16 回日本緩和医療薬学会年会                        | 5 月 28 日    | 国分秀也 (座長)  |
| シンポジウム 4「臨床研究の推進と研究結果を投稿するまで」  | 第 16 回日本緩和医療薬学会年会                        | 5 月 27 日    | 国分秀也   |
| 当院におけるがん性疼痛に対するケタミン投与症例の調査と有効性の検討  | 第 16 回日本緩和医療薬学会年会                        | 5 月 27 日    | 小林慎、久保暉、高木洋明、鬼窪利英、国分秀也   |
| オピオイド naïve のがん疼痛患者における低用量フェンタニル貼付剤と経口オキシコドン徐放製剤の鎮痛効果および安全性に関する比較検討  | 第 144 回日本薬学会年会                           | 3 月 30 日    | 川名真理子、宮里明芽、船渡三結、長谷圭悟、鈴木訓史、小野田千晴、藤本英哲、大野凜太郎、日下部鮎子、桐林美緒、中村和代、近藤 匡慶、尾関あゆみ、岡本晃典、国分秀也 |
| 抗がん剤を安全に投与する～デバイス選択、血管外漏出・静脈炎に取り組む～  | 第 21 回日本臨床腫瘍学会学術集会                       | 2024 年 2 月  | 佐藤享也   |
| 皮膚障害とアピランスケア～世界の潮流と課題～   | 第 21 回日本臨床腫瘍学会学術集会                       | 2024 年 2 月  | 佐藤享也   |
| Efficacy and Safety of Bone Management Agents Administered at 12 vs. 4 Weeks in Bone Metastases: A Systematic Review | 第 21 回日本臨床腫瘍学会学術集会                       | 2024 年 2 月  | 佐藤享也   |
| 後進の育成と新しい自分の見つけ方 ～がん指導薬剤師、52歳男性の事例～  | 第 10 回がん専門薬剤師アドバンスト研修会                   | 2024 年 2 月  | 佐藤享也   |
| 『どうする!骨転移? がん患者のウェルビーイングを目指して』薬物療法 (2)   | 秋田大学次世代がん医療プロフェッショナル養成プラン                | 2024 年 2 月  | 佐藤享也   |
| がん薬物療法の末梢神経障害最新エビデンスから薬剤師ができること  | 第 45 回日本病院薬剤師会近畿学術大会                     | 2024 年 1 月  | 佐藤享也   |
| 臨床現場の未解決な問題・疑問解決をテーマに臨床研究を行う実際テーマの発見、背景調査、文献検索、研究計画の立案を中心に   | 日本緩和医療薬学会 第 1 回臨床研究 Web セミナー             | 2023 年 12 月 | 佐藤享也   |
| がん、非がん、有害事象のエビデンス  | 日本アカデミック・ディテレーリング研究会 第 2 回ディテレーラー養成プログラム | 2023 年 11 月 | 佐藤享也   |

| 演題   | 学会名   | 発表月             | 氏名   |
|--|---|-----------------|--|
| 誰がやる？ 薬剤師でしょ 抗がん剤の皮膚障害対策   | 第 53 回日本病院薬剤師会<br>関東ブロック学術大会                  | 2023 年 8 月      | 佐藤淳也   |
| ガイドラインから非ステロイド性鎮痛薬を知る がん   | 日本アカデミック・ディテールン<br>研究会 第 1 回ディテールー養<br>成プログラム | 2023 年 8 月      | 佐藤淳也   |
| 呼吸器症状緩和に対する薬物療法の Evidence Update   | 第 6 回栃木県緩和と支持療法研<br>究会                        | 2023 年 7 月      | 佐藤淳也   |
| 入院中のオピオイド自己管理へ向けた取り組み  | 第 28 回日本緩和医療学会                                | 2023 年 6 月      | 佐藤淳也   |
| 緩和ケア施行患者のせん妄に対するペロスピ<br>ロン坐薬の調製と使用経験   | 第 8 回日本がんサポーターケア学<br>会学術集会                    | 2023 年 6 月      | 佐藤淳也, 藤本泰輔, 梅田<br>鈴香, 塚越真由美, 田中 怜  |
| 緩和ケア施行患者に使用するオピオイド、<br>ステロイド、ベンゾジアゼピン、抗コリン<br>薬、抗ヒスタミン薬は、せん妄治療薬の効果<br>に影響するのか？ | 第 16 回日本緩和医療薬学会                               | 2023 年 5 月      | 佐藤淳也, 梅田鈴香, 塚越<br>真由美, 田中 怜  |
| 「緩和医療薬学研究における S DGs を考える<br>～研究成果を投稿し、持続可能な緩和医療の<br>発展を目指そう～」                  | 第 16 回日本緩和医療薬学会                               | 2023 年 5 月      | 佐藤淳也   |
| チーム医療の実践力を育む2年次学生向け演習<br>の薬学教育モデル・コアカリキュラム (令和<br>4 年度改訂版 への対応状況と今後の課題         | 日本教育学会 第 82 回大会                               | 2023 年 8 月      | 寺島朝子、細谷龍一郎、小<br>野塚真理、佐野和美、市丸嘉<br>加藤紘一、加藤裕久、定本清<br>美、塩田清二、進藤綾大、須藤<br>遥、殿山泰弘、古屋博行、<br>山崎泰広、若山恵、石橋芳<br>雄、加賀谷肇、鈴木勉 |
| 芳香療法による運動疲労の回復効果   | 日本薬学会   | 2024/3/28       | 原 香織、山下 道生、柴藤<br>淳子、Rakwal Randeep、千<br>葉 義彦、塩田 清二、竹ノ谷<br>文子   |
| スギ花粉誘発過敏性鼻粘膜組織における H3 受<br>容体遺伝子H rh3 発現の増加                                    | 日本薬学会   | 2024/3/28       | 野田 葉、山下 道生、安藤<br>祐介、竹ノ谷 文子、渡辺 知<br>恵、塩田 清二、酒田 寛泰、<br>花崎元彦、千葉 義彦  |
| PACAP 受容体欠損マウスの行動異常とその<br>原因遺伝子の探索   | 日本薬学会   | 2024/3/28       | 野原 朋輝、山下 道生、柴藤<br>淳子、Rakwal Randeep、平<br>林敬浩、塩田 清二、竹ノ谷<br>文子   |
| PACAP 受容体ノックアウトマウス<br>を用いた PACAP の老化抑制作用                                       | 日本薬学会   | 2024/3/28       | 山浦 紘人、山下 道生、柴<br>藤淳子、Rakwal Randeep、平<br>林敬浩、塩田 清二、竹ノ谷<br>文子   |
| PAC1R KO マウスを用いた PA CAP による汗分<br>泌促進機構のトランスクリプトーム解析                            | 日本薬学会   | 2024/3/28       | 山下 道生、柴藤 淳子、<br>Rakwal Randeep、平林 敬<br>浩、千葉義彦、塩田 清二、<br>竹ノ谷 文子   |
| リン酸水素イオンの触媒作用による 5-フェニ<br>ルヒダントインのラセミ化機構：DFT 計算<br>からの新知見                      | 第 17 回 D-アミノ酸学会学術講演<br>会                      | 2023 年 9 月 7 日  | 高橋央宜   |
| 一般公演③10～13 (4題)  | 第 17 回 D-アミノ酸学会学術講演<br>会                      | 2023 年 9 月 7 日  | 定金豊、高橋央宜 (座長)  |
| タンパク質中に生成したスクシンイミド中<br>間体のラセミ化：リン酸水素イオンによる触媒<br>作用の可能性の計算化学的研究                 | 日本薬学会第 144 年会                                 | 2024 年 3 月 30 日 | 高橋央宜   |

| 演題  | 学会名                             | 発表月                 | 氏名   |
|---|---------------------------------|---------------------|--|
| 宮城県産フキノトウ (Petasites japonicus) から単離した新規セスキテルペノイドの構造と PTP1B阻害活性 | 日本薬学会第 144 年会                   | 2024 年 3 月 30 日     | 山崎寛之、高橋央宜、内田龍児   |
| フェンタニル由来のオピオイド $\mu$ 受容体アンタゴニストの創製                              | 第 86 回関東支部シンポジウム                | 2023 年 5 月          | 富澤 幸 1、菊川 俊太郎 1、有田 浩暢 1、坂田 遥佳 1、中村佳代 1、牧野 宏章 2、田畑 英嗣 3、忍足 鉄太 3、夏莉 英昭 4、船田 正彦 5、高橋 秀依 1 |
| 危険ドラッグにおける乱用・流通規制の現状と研究の最前線                                     | 第 53 回日本神経精神薬理学会年会              | 2023 年 10 月         | 船田正彦   |
| 新規 $\mu$ オピオイド受容体拮抗薬の創製   | 第 40 回メディシナルケミストリーシンポジウム-231113 | 2023 年 11 月         | 有田浩暢1)、菊川俊太郎1)、富澤幸1)、中村佳代1)、田畑英嗣2)、忍足鉄太 2)、夏莉英昭 3)、船田正彦 4)、高橋秀依                        |
| 合成カンナビノイドの薬理学と毒性評価  | 日本ヘンプ協会 第 3 回 学術講演会             | 2023 年 12 月         | 船田正彦   |
| オピオイド $\mu$ 受容体アンタゴニストの合成と構造活性相関                                | 日本薬学会第 144 年会                   | 2024 年 3 月          | 富澤幸 1、菊川俊太郎 1、有田浩暢 1、中村佳代 1、牧野宏章 2、田畑英嗣 3、忍足鉄太 3、夏莉英昭4、船田正彦 5、高橋秀依1                    |
| フェンタニル誘導体の構造活性相関  | 日本薬学会第 144 年会                   | 2024 年 3 月          | 坂田 遥佳 1、有田 浩暢 1、菊川 俊太郎 1、富澤 幸 1、船田 正彦 2、富山健一 3、田畑 英嗣 4、中村 佳代 1、忍足 鉄太 4、夏莉 英昭 5、高橋 秀依 1 |
| 米国における大麻規制の変化とその社会的影響について                                       | 日本薬学会第 144 年会                   | 2024 年 3 月          | 船田正彦、池上大悟、富山健一   |
| 飲酒が肝機能に及ぼす影響-神奈川県年次推移に関する解析-                                    | 日本薬学会第 144 年会                   | 2024 年 3 月          | 加藤英明、曾川甲子郎、浅野哲、池上大悟、船田正彦、鈴木勉   |
| CBD の発生毒性予測に関する研究：ヒト iPS 細胞を用いた検討                               | 日本薬学会第 144 年会                   | 2024 年 3 月          | 曾川甲子郎、池上大悟、加藤英明、船田正彦   |
| 根拠に基づいたコミュニケーションスキルの醸成-新モデルコアカリキュラムを志向した教育・研究・実務について-           | 第 8 回日本薬学教育学会大会シンポジウム 4         | 2023 年 8 月 19 日 (土) | 湯本哲郎 (オーガナイザー)   |
| 真菌感染症の病理 -酵母と糸状菌はココが違う-   | 第 203 回酵母細胞研究会例会                | 7 月 14 日            | 若山 恵   |
| 基礎と臨床をつなぐ取り組みとしての生物系基礎科目；1年前期「生物系基礎科学」の例                        | 第 8 回日本薬学教育学会大会                 | 8 月                 | 須藤遥、殿山泰弘、寺島朝子、加賀谷肇、定本清美、石田洋一   |
| 薬学教育における実習材料としてのメダカの有用性   | 第 8 回日本薬学教育学会大会                 | 8 月                 | 殿山泰弘、須藤遥、寺島朝子、加賀谷肇、定本清美、石田洋一   |
| 閉塞性睡眠時無呼吸症候群における過酸化型 Prx2 のバイオマーカーとしての可能性                       | 第 41 回日本ヒト細胞学会学術集会              | 8 月                 | 須藤遥、小池伸、上山雅子、田中良明、木村弘、小笠原裕樹、石田洋一   |
| 閉塞性睡眠時無呼吸症候群における赤血球中 Peroxiredoxin 2 の酸化状態の解析                   | 第 45 回日本睡眠学会学術集会                | 9 月                 | 上山雅子、小池伸、須藤遥、田中良明、石田洋一、木村弘、小笠原裕樹   |
| 閉塞性睡眠時無呼吸症候群における過酸化型 Prx2 のバイオマーカーの解析                           | 日本薬学会 144 年会                    | 3 月                 | 須藤遥、小池伸、上山雅子、田中良明、木村弘、小笠原裕樹、石田洋一   |
| 病原性酵母の菌体表層分子に結合するヒト分子の探索  | 第 67 回日本薬学会関東支部大会               | 2023 年 9 月 16 日     | 市川智恵、石橋芳雄  |

| 演題  | 学会名                       | 発表月             | 氏名  |
|---|---------------------------|-----------------|---|
| グリコサミノグリカンに結合する Tichosporon asahii 菌体表層タンパク質の探索                   | 第 67 回 医真菌学会総会            | 2023, 10 月 6 日  | 市川智恵, 石橋芳雄  |
| チーム医療の実践力を育む 2年次学生向け演習の薬学教育モデル・コアカリキュラム (令和 4 年度改訂版) への対応状況と今後の課題 | 第 8 回 日本薬学教育学会大会          | 2023 年 8 月 20 日 | 寺島朝子、細谷龍一郎、小野塚真理、佐野和美、他   |
| 核内受容体 NR4A2/RXR を介した T 細胞分化制御活性を持つ天然化合物の解析                        | 日本生薬学会第 69 回年会            | 2023 年 9 月 9 日  | 小谷 仁司, 片川 和明, 井上誠, 原田 守   |
| 受容体データベース BindingDB の有用性の検討                                       | 第 9 回 日本医薬品安全性学会学術大会 (東京) | 2023 年 7 月 17 日 | 細谷龍一郎、寺島朝子、野澤(石井)玲子、加賀谷肇、植沢芳広   |
| 基礎と臨床をつなぐ取り組みとしての生物系基礎科目 ; 1 年次前期「生物系基礎科学」の例                      | 第 8 回 日本薬学教育学会 (熊本)       | 2023 年 8 月 20 日 | 殿山泰弘、須藤遙、寺島朝子、加賀谷肇、定本清美、石田洋一  |
| 薬学教育における実習教材としてのメダカの有用性   | 第 8 回 日本薬学教育学会 (熊本)       | 2023 年 8 月 20 日 | 須藤遙、殿山泰弘、寺島朝子、加賀谷肇、定本清美、石田洋一  |
| チーム医療の実践力を育む 2年次学生向け演習の薬学教育モデル・コアカリキュラム (令和 4 年度改訂版) への対応状況と今後の課題 | 第 8 回 日本薬学教育学会 (熊本)       | 2023 年 8 月 20 日 | 寺島朝子、細谷龍一郎、小野塚真理、佐野和美、市丸嘉、加藤紘一、加藤裕久、定本清美、塩田清二、進藤綾大、須藤遙、殿山泰弘、古屋博行、山崎泰広、若山恵、石橋芳雄、加賀谷肇、鈴木勉 |
| Yahoo! 知恵袋を用いた緊急避妊薬に係る質問内容の抽出と緊急避妊薬使用者に対する説明書の提案                  | 第 8 回 日本薬学教育学会 (熊本)       | 2023 年 8 月 20 日 | 中村洋、杉浦真理子、寺島朝子、石崎幸  |
| 薬剤誘発性吃逆とドパミン D2受容体の関係   | 第 33 回 日本医療薬学会年会 (仙台)     | 2023 年 11 月 4 日 | 細谷龍一郎、寺島朝子、野澤(石井)玲子、植沢 芳広、加賀谷肇  |
| 薬剤性吃逆 (しゃっくり) と関連する核内受容体の検討                                       | 2024 年緩和医療薬学会 (神戸)        | 2024 年 1 月 11 日 | 細谷龍一郎、寺島朝子、野澤(石井)玲子、植沢芳広、加賀谷肇   |
| OTC 化に向けた緊急避妊薬に関する一般消費者の情報ニーズおよび「性と生殖に関する健康と権利」に関する意識調査           | 日本薬学会 144 年会 (横浜)         | 2024 年 3 月 29 日 | 寺島朝子、中村洋、竹平理恵子  |
| シンポジウム 5 「高齢者の両立支援」   | 第 69 回 日本職業・災害医学会         | 11 月 27 日       | 寺本 明 (座長)   |
| シンポジウム 13 「脳室内腫瘍に対する手術戦略」   | 第 26 回 日本脳腫瘍の外科学会         | 9 月 10 日        | 寺本 明 (座長)   |
| 先端巨大症と間脳下垂体疾患の手術アップデート  | 第 94 回 日本内分泌学会            | 2021 年 4 月 23 日 | 大山健一、寺本 明、松野 彰  |
| 片頭痛の慢性化における性差メカニズム  | 日本薬学会第 144 年会             | 2024 年 3 月      | 池上 大悟、Navratilova Edita、Yue Xu、Kopruszinski Caroline、船田 正彦、Porreca Frank                |
| 米国における大麻規制の変化とその社会的影響について   | 日本薬学会第 144 年会             | 2024 年 3 月      | 船田 正彦、池上 大悟、富山健一  |
| CBD の発生毒性予測に関する研究: ヒト iPS 細胞を用いた検討                                | 日本薬学会第 144 年会             | 2024 年 3 月      | 曾川 甲子郎、池上 大悟、加藤 英明、船田 正彦  |
| 飲酒が肝機能に及ぼす影響—神奈川県年次推移に関する解析—                                      | 日本薬学会第 144 年会             | 2024 年 3 月      | 加藤 英明、曾川 甲子郎、浅野 哲、池上 大悟、船田 正彦、鈴木 勉  |
| アントラセンを導入した Bis(2-picoly)amine 誘導体—亜鉛錯体の DNA 光切断活性                | 第 67 回 日本薬学会関東支部会         | 2023/09         | 市丸嘉、加藤紘一、栗原正明、黒崎博雅  |

| 演題  | 学会名   | 発表月        | 氏名  |
|---|---|------------|---|
| 大環状ポリアミン-亜鉛錯体の単結晶 X 線結晶構造解析   | 日本薬学会年会要旨集 144 年会                                     | 2024/03    | 市丸嘉, 加藤紘一, 黒崎博雅, 栗原正明   |
| Experience switching from no n-PEG-G-CSF formulae to PEGylated G-CSF body pots  | 第 21 回日本臨床腫瘍学会学術集会                                    | 2024 年 2 月 | Ayumi Ozaki, Yusuke Fujiwara, Muneo Okamoto and JunyaSato                               |
| $\beta$ -アミノ酸はなぜタンパク質構成アミノ酸になれなかったのか? : 計算化学的研究   | 第 87 回日本生化学会中部支部例会 (長久手・オンライン)                        | 5          | 仲吉朝希、加藤紘一、藪万有香、栗本英治、小田彰史  |
| $\gamma$ S-クリスタリンにおける全アスパラギン残基の脱アミド化による凝集促進   | 第 23 回日本蛋白質科学会年会 (名古屋)                                | 5          | 加藤紘一、仲吉朝希、栗本英治、小田彰史、石川吉伸  |
| Virtual alanine scan による SARS-CoV-2 メインプロテアーゼ阻害剤エンシトレルビル の耐性発現に関する残基の予測   | 第 69 回日本薬学会東海支部総会・大会 (名古屋)                            | 7          | 水野文人、仲吉朝希、加藤紘一、栗本英治、小田彰史  |
| 一残基の脱アミド化がウシ膵臓リボヌクレアーゼ A の立体構造に与える影響の分子動力学シミュレーションによる解析   | 第 69 回日本薬学会東海支部総会・大会 (名古屋)                            | 7          | 中野真緒、仲吉朝希、加藤紘一、栗本英治、小田彰史  |
| 分子動力学シミュレーションを用いた CYP3A4 変異体の立体構造推定   | 第 69 回日本薬学会東海支部総会・大会 (名古屋)                            | 7          | 水谷衣美、仲吉朝希、加藤紘一、菱沼英史、平塚真弘、栗本英治、小田彰史  |
| 野生型及び変異型ジヒドロピリミジナーゼの立体構造の分子動力学シミュレーションによる解析   | 第 69 回日本薬学会東海支部総会・大会 (名古屋)                            | 7          | 竹内真南恵、加藤紘一、仲吉朝希、菱沼英史、平塚真弘、栗本英治、小田彰史   |
| Computational study of the Ring Opening Process in Nonenzymatic Peptide Bond Cleavage at the C-Terminal Side of an Asparagine Residue | 34th IUPAP Conference on Computational Physics (Kobe) | 8          | Koichi Kato, Tomoki Nakayoshi, Eiji Kurimoto, Akifumi Oda, Yoshinobu Ishikawa           |
| Molecular Dynamics Simulations of Computationally Predicted Protein-Ligand Complex Structures to Evaluate the Structural Validity     | 34th IUPAP Conference on Computational Physics (Kobe) | 8          | Koichi Kato, Tomoki Nakayoshi, Yuna Moritsuki, Saki Maki no, Eiji Kurimoto, Akifumi Oda |
| SARS-CoV-2 メインプロテアーゼとエンシトレルビルの複合体に対する virtual alanine scan による 1 残基の変異が立体構造に与える影響の予測  | 第 51 回構造活性相関シンポジウム (東京)                               | 11         | 水野文人、仲吉朝希、加藤紘一、栗本英治、小田彰史  |
| メイラード反応初期段階における Schiff 塩基形成反応の量子化学計算による解析   | 第 51 回構造活性相関シンポジウム (東京)                               | 11         | 加藤紘一、仲吉朝希、篠原康郎、栗本英治、小田彰史、石川吉伸   |
| Asn 残基の非酵素的脱アミド化における隣接する Phe 残基の影響についての量子化学計算による解析  | 第 51 回構造活性相関シンポジウム (東京)                               | 11         | 浅井遥、加藤紘一、仲吉朝希、栗本英治、小田彰史、福石信之  |
| 分子動力学計算による遺伝子多型が CYP2C8 の立体構造に与える影響の推定  | 第 10 回 CBI 学会個別化医療研究会 (岐阜)                            | 2          | 仲吉朝希、加藤紘一、栗本英治、平塚真弘、鷹野優、小田彰史  |
| 原始タンパク質構成要素としてのセリンの役割の計算化学的解明   | 日本物理学会2024 年春季大会 (オンライン)                              | 3          | 仲吉朝希、加藤紘一、栗本英治、小田彰史   |
| $\beta$ -アスパラギン酸を含む原始タンパク質候補の立体構造形成に関する分子動力学シミュレーション  | 第 48 回生命の起原および進化学会学術講演会 (横浜)                          | 3          | 仲吉朝希、加藤紘一、栗本英治、小田彰史   |
| アスパラギン残基の脱アミド化による $\gamma$ S-クリスタリンの構造変化と凝集の関係  | 日本薬学会第 144 年会 (横浜)                                    | 3          | 加藤紘一、仲吉朝希、栗本英治、小田彰史、石川吉伸  |
| 分子動力学シミュレーションによる SARS-CoV-2 メインプロテアーゼ-ニルマトレルビル複合体の構造的特徴の解析  | 日本薬学会第 144 年会 (横浜)                                    | 3          | 清井義、仲吉朝希、加藤紘一、栗本英治、小田彰史   |

| 演題  | 学会名                     | 発表月             | 氏名   |
|---|-------------------------|-----------------|--|
| CYP3A4 変異体の立体構造解析および酵素活性への影響の推定のための分子動力学シミュレーション                  | 日本薬学会第 144 年会 (横浜)      | 3               | 矢崎望歩、仲吉朝希、加藤紘一、水谷衣美、菱沼英史、平塚真弘、栗本英治、小田彰史                |
| Asp 残基の立体反転が 4 量体アミロイド β1-42 の立体構造に与える影響                          | 日本薬学会第 144 年会 (横浜)      | 3               | 新垣あゆみ、仲吉朝希、加藤紘一、栗本英治、小田彰史                              |
| 薬学教育における実習教材としてのメダカの有用性   | 第 8 回 日本薬学教育学会大会        | 2023 年 8 月      | 殿山 泰弘、須藤 遥、寺島朝子、加賀谷 肇、定本 清美、石田 洋一                      |
| メダカを用いた脂肪組織の定量的評価法の確立と PPARγ アゴニスト経口摂取のメダカ脂肪組織形成への影響              | 第 9 回 ゼブラフィッシュ・メダカ創薬研究会 | 2023 年 11 月     | 殿山 泰弘、塚田匡輝、今井良政、河内浩行、杉浦省三                              |
| 共融混合物への塩酸塩添加による膜透過性の変化  | 日本薬剤学会第 38 年会           | 令和 5 年 5 月 18 日 | 杉野雅浩、鈴木志保、宍戸玲奈、中橋奨、渡邊哲也                                |
| JADER 研究の事始   | 第 1 回緩和医療薬学会臨床研究セミナー    | 2023 年 12 月     | 細谷龍一郎  |
| 薬剤誘発性吃逆とドパミン D2 受容体の関係  | 第 33 回日本医療薬学会年会         | 2023 年 11 月     | 細谷龍一郎、寺島朝子、野澤玲子、加賀谷肇、植沢 芳広                             |
| 受容体データベース BindingDB の有用性の検討                                       | 第 9 回日本医薬品安全性学会         | 2023 年 7 月      | 細谷龍一郎、寺島朝子、野澤玲子、加賀谷肇、植沢 芳広                             |
| 受容体データベース BindingDB と副作用データベースとの併用の検討                             | 第 16 回緩和医療薬学会           | 2023 年 5 月      | 細谷龍一郎、寺島朝子、野澤玲子、加賀谷肇、植沢 芳広                             |
| 後期高齢者を対象とした酸化マグネシウム製剤による高マグネシウム血症のリスク因子の検討                        | 第 16 回 緩和医療薬学会年会        | 2023 年 5 月 27 日 | 石井英俊、塩見めぐみ、渋谷清、国分秀也                                    |
| 基礎と臨床をつなぐ取り組みとしての生物系基礎科目；1 年次前期「生物系基礎科学」の例                        | 第 8 回日本薬学教育学会大会         | 8 月 20 日        | 須藤 遥、殿山 泰弘、寺島朝子、加賀谷 肇、定本 清美、石田 洋一                      |
| 閉塞性睡眠時無呼吸症候群における過酸化型 Prx2 のバイオマーカーとしての可能性                         | 第 41 回日本ヒト細胞学会学術大会      | 8 月 26 日        | 須藤 遥、小池 伸、上山雅子、田中 良明、木村弘、小笠原 裕樹、石田 洋一                  |
| 閉塞性睡眠時無呼吸症候群における過酸化型 Prx2 の解析                                     | 日本薬学会第 144 年会           | 2024 年 3 月 31 日 | 須藤 遥、小池 伸、上山雅子、田中 良明、木村弘、小笠原 裕樹、石田 洋一                  |
| 神奈川県の下水処理施設近傍の水域を対象とした薬剤耐性菌の実態調査                                  | 第 67 回日本薬学会関東支部         | 2023 年 9 月      | 曾川甲子郎、加藤英明   |
| 飲酒が肝機能に及ぼす影響-神奈川県年次推移に関する解析-                                      | 日本薬学会第 144 年会           | 2024 年 3 月      | 加藤英明、曾川甲子郎、浅野哲、池上大悟、船田正彦、鈴木勉                           |
| CBD の発生毒性予測に関する研究：ヒト iPS 細胞を用いた検討                                 | 日本薬学会第 144 年会           | 2024 年 3 月      | 曾川甲子郎、池上大悟、加藤英明、船田正彦                                   |
| 緩和ケア施行患者に使用するオピオイド、ステロイド、ベンゾジアゼピン、抗コリン薬、抗ヒスタミン薬は、せん妄治療薬の効果に影響するの？ | 第 16 回日本緩和医療薬学会年会       | 2023 年 5 月 27 日 | 佐藤 淳也、梅田 鈴香、塚越真 由美、田中 怜                                |
| がん患者におけるルビプロストンの悪心発現に関与する因子の検討                                    | 第 16 回日本緩和医療薬学会年会       | 2023 年 5 月 27 日 | 倉田 陽加、田中 怜、賀茂 佳  |
| がん疼痛治療におけるオキシコドン徐放錠とタペンタドール徐放錠の併用効果に関する検討                         | 第 16 回日本緩和医療薬学会年会       | 2023 年 5 月 27 日 | 賀茂 佳子、田中 怜、磯岡 奈未、天田 斉子、佐藤 哲、佐藤哲観、佐藤 淳也、篠 道弘            |
| がん疼痛制御におけるオキシコドン徐放錠-トラマドール徐放錠併用によるオピオイド増量率への影響                    | 第 16 回日本緩和医療薬学会年会       | 2023 年 5 月 27 日 | 磯岡 奈未、田中 怜、賀茂 佳子、森本 重輝、鴨志田 武、石川寛、佐藤 哲、佐藤 哲観、佐藤 淳也、篠 道弘 |

| 演題  | 学会名                                      | 発表月             | 氏名   |
|---|--|-----------------|--|
| がん性痛に対するオピオイド導入薬としての<br>μ オピオイド注射薬+トラマドール注射薬配<br>合薬の使用経験  | 第 16 回日本緩和医療薬学会年会                        | 2023 年 5 月 27 日 | 佐藤 哲観, 佐藤 哲, 田中<br>怜, 賀茂 佳子, 天田 斉子,<br>磯岡奈未, 伊藤 和磨   |
| 傾向スコアマッチングを用いたオピオイド内<br>服薬におけるせん妄発現率の比較検討   | 日本医療薬学会 第6回 フレッシ<br>ャーズ・カンファランス          | 2023 年 6 月 11 日 | 田中 怜, 田中 大智, 橋爪<br>孝弘, 石川 寛, 佐藤<br>哲, 佐藤哲観, 斎藤 顕宜,<br>佐藤 淳也, 高橋 千恵子, 篠<br>道弘   |
| 本邦初がん薬物療法における支持療法アカ<br>デミック・ディテリング普及に向けて～<br>NSAIDs適正使用に向けた資料開発～  | 第 8 回日本がんサポーターブケア<br>学会学術集会              | 2023 年 6 月 22 日 | 尾関 理恵, 斎藤 顕宜, 佐<br>藤 淳也, 清水 忠, 田中<br>怜, 田村溪, 西森 久和,<br>宮嶋 篤志, 小茂田 昌代, 関<br>根 郁夫  |
| 緩和ケア施行患者のせん妄に対するペロスピ<br>ロン坐薬の調製と使用経験  | 第 8 回日本がんサポーターブケア<br>学会学術集会              | 2023 年 6 月 22 日 | 佐藤 淳也, 藤本 泰輔, 梅<br>田鈴香, 塚越 真由美, 田中<br>怜  |
| The efficacy and safety profile of<br>methadone for intractable cancer pain<br>in advanced lung cancer patients | MASCC/JASCC/ISOO 2023 A<br>nnual Meeting | 2023 年 6 月 22 日 | Yuko Iida, Tateaki Naito,<br>Mei ko Morita, Motoki<br>Sekikawa, Kosei Doshita,<br>Keita Miura, Hiroaki<br>Kodama, Noboru Morik awa,<br>Nobuaki Mamesaya, Har uki<br>Kobayashi, Ryo Ko, Kazu<br>shige Wakuda, Akira Ono,<br>Ha ruyasu Murakami, Tetsu<br>Sato, Rei Tanaka, Yoshiko<br>Kamo, S eiko Amada,<br>Tetsumi Sato, To<br>shiaki Takahashi |
| 終末期を痛みの増強なく快適に過ごしてい<br>た<br>だくための神経ブロック療法～最近の内臓神<br>経ブロック自験例から～   | 第 28 回日本緩和医療学会学術大会                       | 2023 年 6 月 22 日 | 佐藤 哲観, 杉本 達哉, 佐<br>藤 哲, 田中 怜, 賀茂 佳<br>子, 鈴木知美, 大野 茂樹,<br>川村 泰一, 川上 恭平  |
| 内臓神経ブロック施行時の輸液方法に関する検<br>討  | 日本ペインクリニック学会第 57<br>回学術集会                | 2023 年 7 月 14 日 | 佐藤 哲観, 佐藤 哲, 田中<br>怜, 賀茂 佳子, 天田 斉子,<br>鈴木知美, 奈良 亮謙   |
| がん疼痛治療におけるオキシコドン徐放錠/ト<br>ラマドール徐放錠併用療法とオキシコドン徐<br>放錠/タペンタドール徐放錠併用療法におけ<br>る併用効果に関する後方視的比較検討                      | 第 42 回鎮痛薬・オピオイドペプチ<br>ドシンポジウム            | 2023 年 9 月 3 日  | 賀茂 佳子, 田中 怜, 磯<br>岡 奈未, 佐藤 哲, 佐藤<br>哲観, 佐藤 淳也, 篠 道弘  |
| 当院緩和ケアチームにおける 6<br>32 症例に対するオピオイド使用状況の検討  | 第 42 回鎮痛薬・オピオイドペプチ<br>ドシンポジウム            | 2023 年 9 月 3 日  | 佐藤 哲観, 佐藤 哲, 賀茂<br>佳子, 田中 怜  |
| 薬学生の実務実習教材としても利用可能な睡眠<br>薬アカデミック・ディテリング資料の作成  | 日本アカデミック・ディテリング<br>研究会第 2 回学術大会          | 2023 年 9 月 3 日  | 田中 怜, 大矢 智則, 近江<br>一太, 佐藤 淳也   |
| 日本アカデミック・ディテリング研究会 臨<br>床エビデンス部会の活動と今後の展望   | 日本アカデミック・ディテリング<br>研究会第 2 回学術大会          | 2023 年 9 月 3 日  | 鈴木 貴之, 大矢 智則, 諸<br>橋賢人, 川島 紀明, 竹<br>田 馨, 佐々木 優, 藤田<br>早織, 佐野慶行, 大島 良<br>康, 田中 怜, 佐藤 淳也   |
| 薬剤選択ディシジョンツリーを取り入れた薬<br>学部実務実習生の処方提案の傾向分析   | 日本アカデミック・ディテリング<br>研究会第 2 回学術大会          | 2023 年 9 月 3 日  | 近江 一太, 大矢 智則, 田<br>中 怜, 佐藤 淳也  |
| 第 2 期における基礎薬学部の活動報告   | 日本アカデミック・ディテリング<br>研究会第 2 回学術大会          | 2023 年 9 月 3 日  | 清水 忠, 斎藤 顕宜, 西川<br>元也, 伊藤 俊将, 宮嶋 篤<br>志, 水野 美麗, 田中 怜,<br>黒原 崇, 田代 祐也, 上田<br>昌宏, 高橋伸幸, 奥 龍一   |

| 演題  | 学会名   | 発表月             | 氏名   |
|---|---|-----------------|--|
| 膵がんに対するナノリポソームイリノテカン+フルオロウラシル/レボホリナート並列投与の安全性   | 第 33 回日本医療薬学会年会                               | 2023 年 11 月 4 日 | 若林 茜, 川上 武志, 田中 愴, 福室 友里絵, 盛 啓太, 石川寛, 篠 道弘                                     |
| 緩和薬物療法認定薬剤師によるがん患者への介入指導の実態調査および非認定薬剤師との比較検討  | 第 33 回日本医療薬学会年会                               | 2023 年 11 月 4 日 | 中川 隼一, 田中 愴, 菅 幸生, 宮崎 雅之, 佐藤 由美, 萩原諒一, 内田 まやこ, 高瀬 久光                           |
| がん患者を対象としたバンコマイシンの新規予測モデルの後方視的検討  | 第 33 回日本医療薬学会年会                               | 2023 年 11 月 4 日 | 伊藤 和磨, 田中 愴, 相川 祐貴, 森本 重輝, 鴨志田 武, 石川 寛, 佐古 兼一, 篠 道弘                            |
| 持続皮下注射投与時の皮膚障害発現率に関するヒドロモルフォン注とモルヒネ注の比較検討   | 第 34 回静岡県病院薬剤師会学術大会                           | 2024 年 2 月 12 日 | 久永 直志, 橋爪 孝弘, 田中 愴, 佐藤 哲観, 賀茂 佳子, 佐藤 淳也, 森本 重輝, 鴨志田 武, 石川 寛, 佐藤 哲, 天田 芥子, 篠 道弘 |
| 薬局薬剤師による服薬フォローアップ事例に関する全国調査   | 日本薬学会第 144 年会                                 | 2024 年 3 月 30 日 | 関谷 秀, 田中 愴, 飯嶋 久志, 中野 義雄, 宮崎 智, 豊見 敦, 橋場 元, 長津 雅則, 鹿村 恵明                       |
| Panitumumab 由来のざ瘡様皮疹に対する非ステロイド性抗炎症薬の内服による予防効果   | 日本薬学会第 144 年会                                 | 2024 年 3 月 31 日 | 田中 愴, 石川 寛, 佐藤 淳也, 青山 隆夫, 鹿村 恵明, 篠道弘   |
| 宿泊型産後ケアにおける助産師のケアの質指標の開発—専門家会議による適切性の検証—  | 第 64 回日本母性衛生学会学術集会                            | 2023/10/13 日    | 青島恵美子、島袋香子   |
| 宿泊型産後ケアにおける助産師のケアの質指標の開発助産師による合意形成  | 第 64 回日本母性衛生学会学術集会                            | 2023/10/13 日    | 青島恵美子、島袋香子   |
| 更年期女性の更年期症状への関連因子についての横断調査  | 日本更年期と加齢のヘルスケア学会                              | 2023 年 11 月     | 今野和穂   |
| メノポーズカウンセラーワークショップ「更年期女性のウェルビーイングを支える」  | 日本更年期と加齢のヘルスケア学会                              | 2023 年 11 月     | 今野和穂 (座長)  |
| Concept Analysis of Menopausal Symptoms from the Perspective of Japanese Women Experiencing Menopause | East Asian Forum of Nursing Scholars (EAFONS) | 2024 年 3 月      | Kazuho Konno   |
| 奄美群島の特徴と保健師の関わり—奄美群島の保健師へのインタビューより  | 第 12 回日本公衆衛生看護学会学術集会                          | 2024. 1         | 阿部利香、山崎真帆、澤井美奈子  |

(6) 研究補助金等外部資金の受入れ状況 (科研費・外部資金等)

【看護学科】

| 代表者名            | 研究課題   | 助成元             |
|-----------------|--|-----------------|
| 片山典子            | 臨界期にある統合失調症者を訪問する訪問看護師の自律性を高める教育プログラムの開発 (研究代表者) | 科研費補助金：若手研究     |
| 片山典子            | 臨界期統合失調症者に対する訪問看護師の家族支援における強化プログラムの開発 (研究代表者)    | 科研費補助金：基盤研究 (C) |
| 大胡晴香 (分担者：片山典子) | 若者のインターネット依存傾向におけるメンタルヘルスリテラシー教育プログラムの開発 (研究分担者) | 科研費補助金：基盤研究 (C) |

| 代表者名                                 | 研究課題   | 助成元                             |
|--------------------------------------|--|---------------------------------|
| 小原良之<br>(分担者：片山典子)                   | 若年性認知症者が居場所を獲得するまでの支援プロセス<br>(研究分担者)                 | 日本精神保健看護学会研究助成金                 |
| 石井淳子<br>(分担者：片山典子)                   | 未就学児をもつ養育者のインターネット使用と養育態度との関連<br>(研究分担者)             | 日本アディクション看護学会研究助成金              |
| 山崎圭子                                 | マインドフルネスとファミリスキルトレーニングによる産後うつ病の予防効果の検討               | 科学研究費助成金 基盤研究 C                 |
| 青島恵美子                                | 宿泊型産後ケアの質向上を図るための助産師研修プログラムの開発 科研番号 23K10144         | 令和 5 (2023) 年科学研究費助成事業 (基盤研究 C) |
| 小川朝生 (分担者：渡邊眞理)                      | 科学的根拠に基づくサバイバーシップガイドライン提言に関する研究                      | 国立がん研究センター研究開発費                 |
| 小川朝生 (分担者：渡邊眞理)                      | 高齢がん患者に対する意思決定支援を実装することを目指した多職種教育プログラムの普及を目指したプロジェクト | ファイザー研究助成金                      |
| 渡部節子                                 | 感染看護を専門に携わる看護師による地域感染予防活動支援システムの構築                   | 科学研究費 基盤研究 C                    |
| 荒木田美香子 (分担者：渡部節子)                    | 学士課程における看護学教育の質保証に関する調査研究委託事業—保健師の質向上のための調査研究—       | 文部科学省委託事業                       |
| 研究代表者：菊池有紀<br>(研究分担者：塚原ゆかり、葉袋淳子、寺本明) | 都市在住高齢者が新時代を生きるための介護予防と地域参加                          | 科学研究費補助金(基盤研究 C 21K11062)       |
| 蔭山正子 (大阪大学)<br>(分担者：日下桃子)            | 精神障がい者の性と生殖に関する支援プログラムの開発                            | 科研費 基盤 (B)                      |

#### 【リハビリテーション学科理学療法専攻】

| 代表者名 | 研究課題                                     | 助成元               |
|------|--|-------------------|
| 小林和彦 | 応用行動分析学による e-Learning を用いた認知症者に対する介護職員指導 | 日本学術振興会           |
| 山田拓実 | TKA インプラント CR 型、PS 型、MP 型タイプ別の筋骨格モデルの開発  | 科研費               |
| 大村優慈 | 脳卒中後の半側空間無視における無視空間の三次元的推移と脳損傷部位の関係性の解明  | 科学研究費助成事業         |
| 下田栄次 | 自然災害発生時における要配慮者の支援ニーズに合致した避難所と福祉避難所の連携構築 | 科研費 2023 年-2027 年 |

#### 【リハビリテーション学科作業療法専攻】

| 代表者名  | 研究課題                                 | 助成元  |
|-------|--------------------------------------|--|
| 西野由希子 | 「フォトボイス」の手法による脳卒中障害者の働く場における探索的ニーズ調査 | 2023 年度科学研究費助成事業 (基盤研究 (C))<br>課題番号：23K01920 |

#### 【薬学部】

| 代表者名            | 研究課題                                  | 助成元           |
|-----------------|---------------------------------------|---------------|
| 香崎正宙 (分担者：石川吉伸) | DNA 修復特性を用いたがん治療耐性に対する制御機構の解明         | 科学研究費基盤研究 (B) |
| 安藤隆幸 (分担者：石川吉伸) | 新規抗がん剤開発を目指す tRNA 修飾酵素と阻害化合物の構造活性相関解明 | 科学研究費基盤研究 (C) |
| 木村聡一郎           | 自然免疫記憶誘導能を搭載したワクチンプラットフォームの創出         | 日本学術振興会 (科研費) |

| 代表者名              | 研究課題  | 助成元                              |
|-------------------|---|----------------------------------|
| 木村聡一郎             | 自然免疫活性化作用を有する新規肺炎球菌ワクチンの創出                                  | 三井住友海上福祉財団                       |
| 塩田清二              | PACAP による神経細胞死防御の実態解明と神経再生・新生の基盤研究                          | 日本学術振興会                          |
| 平子哲史 (分担者: 塩田清二)  | 摂食調節ペプチド GALP による糖代謝調節とその生理的役割の解明                           | 日本学術振興会                          |
| 竹ノ谷文子 (分担者: 塩田清二) | 新規運動療法の開発を目指した運動と香りの併用による抗肥満作用の分子基盤                         | 日本学術振興会                          |
| 高橋央宜              | リン酸によるタンパク質老化促進の可能性に関する計算化学的研究                              | 日本学術振興会                          |
| 船田正彦              | 危険ドラッグと関連代謝物の有害作用評価と乱用実態把握に関する研究 (21KC1003)                 | 厚生労働省                            |
| 船田正彦              | 精神活性物質の化学構造に基づく乱用危険性予測に関する研究 (23KC1002)                     | 厚生労働省                            |
| 鈴木勉 (分担者: 船田正彦)   | 若年者を対象としたより効果的な薬物乱用予防啓発活動の実施等に関する研究 (23KC0501)              | 厚生労働省                            |
| 鈴木勉 (分担者: 船田正彦)   | 指定薬物の指定に係る試験法の評価検証に資する研究 (22KC1005)                         | 厚生労働省                            |
| 石田洋一              | Prx2 の 2 つの過酸化型の定量による慢性閉塞性肺疾患 COPD 診断法の開発                   | 科学研究費助成事業 (学術研究助成基金助成金) 基盤研究 (C) |
| 市川智恵              | コロニー形態変化で新たに獲得する真菌病原因子と共生-感染のスイッチング                         | 科研費, 基盤研究 (C)                    |
| 寺島朝子              | 緊急避妊薬の OTC 化を見据えた使用者向け提供情報・資料に対するニーズ調査                      | 公益財団法人一般用医薬品セルフメデイケーション振興財団      |
| 須藤 遥              | 酸化ストレスによって生じる翻訳後修飾に注目した COPD 重篤化バイオマーカーの同定(2022 年度~2024 年度) | 日本学術振興会                          |
| 曾川甲子郎             | 神奈川県における環境水中薬剤耐性菌の存在実態                                      | 神奈川県公衆衛生協会                       |

### 【専攻科】

| 代表者名 | 研究課題                           | 助成元         |
|------|--------------------------------|-------------|
| 今野和穂 | 閉経移行期症状のセルフアセスメントシートの作成と妥当性の検証 | 科研 基盤研究 (C) |

## 2) 茅ヶ崎看護専門学校

### ①国家試験結果

国家試験全員合格を目指し取り組んできたのだが、結果としては、2023 年度看護師国家試験合格率 96.7% 必修問題学内平均 42.3 点、一般・状況学内平均 187.0 点 (全国平均 87.8% (新卒 93.2%。必修 40 点/49 点満点、一般状況 158 点/249 点) と全国平均を上回る結果にはなったが 100%達成とはならなかった。

### ②休退学防止

今年度は原級留置き者を出さないことを目標に取り組んだ。結果として退学者 11 名 (1 年 7 名、2 年 4 名、3 年 0 名)、主な理由は以下 3 点であった。

(1)進路変更(2)適応障害を含む疾病による退学(3)人間関係による退学

### ③志願者・入学者の確保

社会人の出願者数の増加と辞退者数の減少は達成できたが、ふれあいグループ勤務者と関係者を対象にした「ふれあい特別推薦入試」からの出願者獲得が昨年 3 名出願に対し 1 名の出願者確保に留まってしまったため、今後

も引き続きふれあいグループ医療関係者として資格取得希望者など潜在的にいる対象者に募集活動を行っていく。

AO入試のエントリーが昨年の31名から18名、指定校推薦が10名から15名と変動があり、年度毎の傾向が異なってきてはいるが、進路決定の早期化が進む中で最終的に79名(昨年98名)の出願となった原因としてAO入試第1回の出願者数減少が最大の要因として入学生の定員確保ができなかった。

以上の状況から、本校においても入学試験科目の早期情報開示が必要であり、今年度の学生募集においては、AO入試への出願者獲得を最重要課題とし、資料請求者の増加、来校者の増加、出願者の増加に繋がるよう丁寧な情報提供と出願意欲が高められる工夫された募集活動を行っていく。

#### ④ふれあいグループへの就職促進

ふれあいグループ就職者は、80名定員のうち、60名を目標としたが、卒業生61名中、49名(80.3%)が就職した。ふれあい奨学金受給者が少ない学年であったが、受給外の24名が就職した。

今後は、受給者・就職者共に増加するように支援していく。

### 3) 茅ヶ崎リハビリテーション専門学校

#### ①休・退学防止

今年度の理学療法学科と言語聴覚学科の当該学年および作業療法学科1年生の退学者は大幅に減少した。様々な取り組みがプラスの影響を与えていると考えられるが、一方で、真の学力を身に付けさせることが出来たか否かについては、状況に応じて適切な対応を行う準備が必要であると考ええる。

#### ②国家試験合格率

理学療法学科は14年ぶりに100%、作業療法学科も90%超え、言語聴覚学科は安定の90%台後半と、3学科とも最低目標である全国平均以上の数字を残すことができた。合格率の低い留年経験者が少なかったこともあるが、各科の国家試験対策が毎年改良を重ねて取り組んでいることが功を奏したと考える。また、理学療法学科では、4年次のいわゆる卒業試験(国家試験範囲)の評価(合否)をより適正に行えたことも背景にある。

#### ③学生募集の強化

|         |   |
|---------|---|
| コンタクト者数 | 前年を若干上回っているものの、結果的には来校者が大幅に減少した。  |
| 来校者数    | 大学の設置を案内するために高校訪問を開始すると同時に来校者数は激減した。医療系全体の人気の翳りをはじめ、予測できなかった要件がいくつかある。                  |
| 出願者数    | 前年と比較して、理学療法学科-13名、作業療法学科-10名、言語聴覚学科-5名、合計では-27名となっている。前年度とそれ以前が-22名だったので、2年間連続の減少は大きい。 |
| 出願率     | 学校説明会に来てくれさえすれば、高い出願率の自信があったが、来校しない限りは歩留まりに結びつかない。大幅な来校者の減少が結果として出願率の大きなマイナスにつながった。     |

#### ④就職指導(グループへの就職希望者の増大、グループとの連携強化)

令和5年度は67名(67%)の学生をグループに入職させることができた。

グループ施設での臨床実習で卒業生による熱心な指導・活躍する現場を体験しグループの理念に共感し就職を希望する学生は年々増えている一方で入職予定者の中には問題(成績不良・実習にての対人能力が低い等)を抱え、将来の国試合格・臨床現場への適応が懸念される学生もいる。今後は職場への順応・離職防止策として人事課・学校・配属先がこのような学生の情報・対応方法等の共有を効率よくできるシステムをより充実させていく必要が

ある。

言語聴覚学科は、就職説明会・就職面談にて入職の利点をしっかり周知すると共に優秀な人材には早期から積極的に働きかける必要がある。さらに、社会人経験や既婚者の多い学科であることを考慮し、希望勤務地に入職できる工夫をすることも改善策の1つであると考えている。

#### 4) 湘南医療大学附属下田看護専門学校

##### ① 入学試験状況

| 年度  | 結果   | 入学者数 | 充足率   | 出願者 |
|-----|------|------|-------|-----|
| R 6 | 定員未達 | 15   | 37.5% | 26  |

定員未達となった主な要因は、近年で最も少ない新卒者数、大学進学化、そして高校生の志望校選定の主な理由の3つのうち2つ「①学費および諸費用が少ない学校、②自宅から通える学校」が適応していない為と考える。

##### ② 実習施設との連携

臨地実習指導者会議を活用し、学生のレジネスを共有化し、実習目標の確認・指導要領の確認ができた。同時に、前年度の実習評価から発生した課題への指導方法の確認をすることで、連続性と統一性をもって実習の指導が実施できた。

##### ③ 国家試験の合格率向上(90%以上)を目指す

目標達成は未達となった。例年同様に教材の十分な活用と学内模試試験を活用したが、合格に至らない学生が5名いた。准看護師の試験は、合格した。

##### ④ 休退学の防止

休退学を未然に防ぎ、全員卒業を目指していたが、令和5年度は、退学者4名が発生し、目標達成は未達となった。うち2名は、試験中不正行為を行い懲戒処分の対象となったところ、懲戒処分を避けるために退学した。こうした学校始まって以来の集団による不正行為を行った事実は、教職員に衝撃を与えた。

##### ⑤ ふれあいグループへの就職の促進

今年度は、22名/26(86%)がふれあいグループへの入職となった。ふれあいグループへの就職率は、目標達成できた。次年度以降、奨学金の利用者の減少は、ふれあい就職に影響が見込まれる。

#### 5) 医療ビジネス観光福祉専門学校

##### ① ふれあいグループに有益な人材の供給

介護福祉学科・医療ビジネス学科からグループへ人材を供給することができた。観光学科の留学生クラスを除く61名のうち19名がグループに入職しており、就職希望者に対して31.1%となった。

##### ② 休学者・退学者の撲滅

休退学者を出さないために入学前から卒業まで「進学相談」「生活指導」「学習指導」「キャリア指導」を継続的かつタイムリに実施したが、完全な撲滅には至らなかった。

##### ③ 魅力ある学校づくり～国家試験、民間資格取得に向けた取り組み

2020年度から引き続き、合格率向上を目標として、ゼミ授業や検定対策及び日々の補習授業や資格直前対策期間を

設け、集中的に授業を実施した。その結果、各学科・コースの一人あたりの平均資格取得数と介護福祉試験結果は以下の通りとなった。

#### 学科別平均資格取得数

医療ビジネス学科では、昨年度診療報酬請求事務能力認定試験の合格者は1名だったが、今年度6名の合格者を出すことができた。観光学科ホテル・ブライダルコースではホテルビジネス実務検定2級の取得率が100%となった。介護福祉学科では、国家試験の結果、20名が合格となり正式に介護福祉士となった。

医療ビジネス学科 医療事務コース 2年6.9個（前年11.5個）/1年5.2個（前年5.2個）

ITコース 2年5.0個（前年5.6個）/1年4.5個（前年3.4個）

観光学科 ホテル・ブライダルコース 2年10.4個（前年12.4個）/1年7.3個（前年7.1個） 国際観光コース  
2年日本語能力試験 N3 取得者33.3%（前年29.0%）

日本語能力試験 N2 取得者17.0%（前年29.0%）

介護福祉学科 介護福祉士試験（国） 27名中20名合格（合格率74.1%）

#### ④ 実習施設との連携

介護福祉学科の施設実習、医療ビジネス学科の病院実習では、多くの施設と連携を取ることが出来、それがグループ施設への入職者数増加にも結び付いたと史料される。

介護福祉学科 連携施設 15施設

医療ビジネス学科 連携施設 12施設

#### ⑤ カリキュラム再編と指導力向上

全員就職を目標に、エンプロイアビリティを学生に身につけるために全教職員が学生指導に関わり、授業～就職活動～卒業まで一貫した指導内容の充実を図った。

#### **6) 幼保連携型認定こども園みどり幼稚園**

○健康（健康で安全な生活を作り出す視点から捉え、いろいろな状況に思い巡らせ心や体を働かせる）の目標は達成した。

○人間関係

（自立心を育て、人と関わる視点から捉え、他の人々と親しみ思いを巡らせ支えあって生活する）年齢に合わせた取り組みを行った。

○環境

（周囲の環境に好奇心や探究心を持って関わり、生活に取り入れていこうとする視点から捉え、考えたり扱ったりする）自然に触れて生活し、その大きさや美しさ、不思議さなどに気付く。など毎日の保育活動で保育者や友だちの影響を受けて習得することができた。

○言葉

（言葉に対する感覚や言葉で表現する視点から捉え、経験したことや考えたことなどを自分なりの言葉で表現する）保育者やともだちの言葉、話に興味や関心をもち、親しみを持って聞いたり、話したりする。生活の中で必要な言葉が分かり、使うことができる。親しみを持って日常の挨拶をする。絵本や物語などに親しみ、興味を持って聞き、想像する楽しさを味わう。などは日々の園生活の中で培われていった。

○表現

（豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにする視点から捉え、感じたことや考えたことを自分なりに表現する）、作品展などを通して、成果を見ることが出来た。

(乳児)

乳児一人ひとりの発育及び発達状態や健康状態について適切に判断し対応した。また、保護者と連絡帳や保育活動の状況を伝え、安心して園生活が送れるよう配慮した。

(幼児)

外遊びや運動を多く取り入れ、健康でのびのびとした活動を行っていく。一日の保育活動の中に絵本読み聞かせを取り入れる。当番活動を通して、責任をもって行う、協力する、手伝うなど経験する。誕生児を祝い、成長を共に喜ぶ。(月一回の誕生会を開催する)などは工夫して行うことができた。

(教職員)

教職員・保護者と連携・協力をして園児の安全確保に努めた。保育活動や年間行事を計画し、活動や行事を通して園児の成長に繋げた。保育園は毎月、幼稚園は2ヶ月に一回、避難訓練を行い(地震・不審者・火災など)非常時に対応できるよう日頃から危機管理を意識し、日々話し合い、研修などで確認した。ふれあい全体研修会保育部会に参加、専門的知識のスキルアップ、乳幼児の健康管理の対応など再確認、知識を深めた。

湘南医療大学の学生を受け入れ、幼児理解の学習に役立てた。

## その他

### ○ 人事計画及び組織

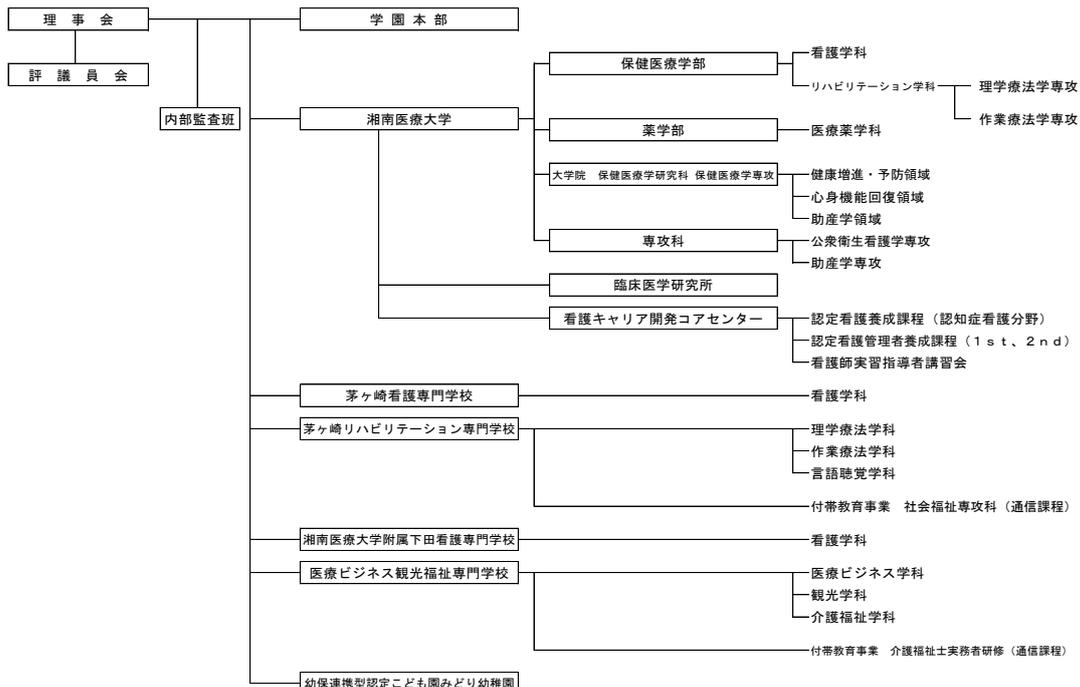
#### (1) 人事計画

湘南医療大学保健医療学部看護学科は、入学定員増(80名→140名)2年目となった。また薬学部は、専任教員の段階的的配置計画を踏まえ、教員42名となり、大学全体教員数及び教授数の変更に対応した。医療ビジネス観光福祉専門学校では、2024年度から介護福祉学科の入学定員を35名→60名に増員となり、留学生の入学も多く見込まれたため、介護教員の定員を増員し、6名の体制となるように教員の確保を行った。

なお、認定こども園みどり幼稚園及び湘南医療大学附属下田看護専門学校は、慢性的に教員の確保が必要であったため、教員募集サイトの活用及び教員派遣会社への登録を行い、教員の確保に努めた。

#### (2) 組織

学校法人湘南ふれあい学園 組織図(2023年度)



○ コンプライアンスの徹底（継続）

・学園の規程に則り、理事会、評議員会を実施した。また、各校園での会議、委員会も予定通り開催し、学校運営の充実を図った。

・リハビリテーション学科はリハビリテーション教育認証評価の受審が2024年度に予定されており、薬学部は、中間認証評価（自己点検評価）が2025年度に予定されているため、その準備に向けて、2023年度中に自己評価により達成されていない事項を洗い出して対策を検討した。また、各専門学校においては、専修学校各種学校協会の自己点検評価項目に沿って実施し、ホームページに評価結果を公表した。

・教職員ハンドブックや職員手帳に基づき、全教職員の入職時に学園の行動指針や行動規範を説明し、コンプライアンスの意識を高めた。

○ 規程の整備

2023年度は、2023年5月に公布、2025（令和7）年4月に施行される私立学校法の改正に合わせ、大幅な寄附行為の改正準備などを行った。寄附行為変更認可申請は、2024年7月以降を予定している。

## V 財政報告

### (1) 決算の概要

#### ①貸借対照表の状況と経年比較

##### ア) 貸借対照表の状況と経年比較

総資産額は、17,679百万円で前年度に対して396百万円の減少、負債総額は5,578百万円で前年度に対して11百万円の減少となった。負債額の減少は、長期借入金、未払金の減少によるものである。なお、負債額（前受金を除く）の総資産額に占める割合は、23.35%である。

#### 貸借対照表の経年比較

(単位：千円)

| 科目          | 2019年度     | 2020年度     | 2021年度     | 2022年度     | 2023年度     |
|-------------|------------|------------|------------|------------|------------|
| 固定資産        | 12,718,983 | 12,825,122 | 15,182,720 | 14,606,920 | 14,339,804 |
| 流動資産        | 4,064,858  | 4,555,764  | 3,845,976  | 3,469,393  | 3,340,145  |
| 資産合計        | 16,783,841 | 17,380,887 | 19,028,697 | 18,076,313 | 17,679,950 |
| 固定負債        | 3,018,561  | 2,724,734  | 1,037,211  | 961,887    | 835,744    |
| 流動負債        | 1,716,414  | 1,781,642  | 4,695,303  | 4,628,069  | 4,742,365  |
| 負債合計        | 4,734,975  | 4,506,377  | 5,732,515  | 5,589,957  | 5,578,109  |
| 基本金         | 12,814,511 | 13,471,970 | 16,031,469 | 16,212,351 | 16,582,127 |
| 繰越収支差額      | △ 66,644   | △ 97,461   | △ ,735,287 | △ ,725,994 | △ ,480,286 |
| 純資産         | 12,048,866 | 12,874,509 | 13,296,181 | 12,486,313 | 12,101,840 |
| 負債及び純資産の部合計 | 16,783,841 | 17,380,887 | 19,028,697 | 18,076,313 | 17,679,950 |
| 減価償却累計額     | 2,365,198  | 2,692,263  | 3,021,632  | 3,541,795  | 4,065,098  |

#### イ) 財務比率の経年比較

(単位：%)

| 分類         | 区分   |  | 2019年度<br>(R2.3.31) | 2020年度<br>(R3.3.31) | 2021年度<br>(R4.3.31) | 2022年度<br>(R5.3.31) | 2023年度<br>(R6.3.31) |
|------------|--|--|---------------------|---------------------|---------------------|---------------------|---------------------|
|            | 比率   | 算式(×100%)                                      |                     |                     |                     |                     |                     |
| 財務状況       | 負債率  | $\frac{\text{総負債} - \text{前受金}}{\text{総資産}}$   | 21.09%              | 18.92%              | 23.15%              | 23.17%              | 23.35%              |
|            | 純資産構成比率  | $\frac{\text{純資産}}{\text{総資産}}$                | 71.79%              | 74.07%              | 69.87%              | 69.08%              | 68.45%              |
|            | 流動資産構成比率                                       | $\frac{\text{流動資産}}{\text{総資産}}$               | 24.22%              | 26.21%              | 20.21%              | 19.19%              | 18.89%              |
|            | 流動比率   | $\frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}}$              | 236.82%             | 255.71%             | 81.91%              | 74.96%              | 70.43%              |
|            | 固定長期適合率  | $\frac{\text{固定資産}}{\text{純資産} + \text{固定負債}}$ | 84.41%              | 82.22%              | 105.93%             | 108.62%             | 110.84%             |
|            | 前受金構成比率  | $\frac{\text{前受金}}{\text{現金預金}}$               | 34.82%              | 31.69%              | 38.74%              | 45.92%              | 49.72%              |
|            | 前受金保有率   | $\frac{\text{現金預金}}{\text{前受金}}$               | 287.18%             | 315.59%             | 258.14%             | 217.75%             | 201.14%             |
| 繰越収支差額構成比率 | $\frac{\text{繰越収支差額}}{\text{負債} + \text{純資産}}$ | -4.57%   | -3.44%              | -14.37%             | -20.61%             | -25.34%             |                     |

## ②資金収支計算書関係

### ア) 資金収支計算書の状況と経年比較

#### (資金収支)

収入：学生生徒等納付金収入は、前年度 2,447 百万円より約 152 百万円の増収で 2,600 百万円となった。また、寄付金収入は、湘南医療大学運転資金の受配者寄付金配布、また学校法人の学術研究活動振興、課外活動教育活動振興を目的とする特定公益増進法人に対する寄附 15 百万円を受け、215 百万円であった。補助金収入は、大学経常費補助金等、4 専門学校、幼保連携型認定こども園みどり幼稚園への補助があり、総額として 590 百万円（前年度 519 百万円）であった。前年度繰越支払資金 3,051 百万円により、資金収入合計は 6,704 百万円となった。

支出：人件費 2,060 百万円、教育研究経費 1,025 百万円、管理経費 334 百万円、施設関係支出 210 百万円などとなった。

上記の結果、法人全体として翌年度繰越支払資金は 2,915 百万円となり、期首に比べて 136 百万円減少した。

#### 資金収支の経年比較

(単位：千円)

| 科目              | 2019年度           | 2020年度           | 2021年度           | 2022年度           | 2023年度           |
|-----------------|------------------|------------------|------------------|------------------|------------------|
|                 | 学生生徒等納付金収入       | 2,296,796        | 2,261,001        | 2,261,123        | 2,447,984        |
| 手数料             | 48,537           | 43,961           | 44,294           | 52,819           | 43,364           |
| 寄付金収入           | 76,929           | 676,072          | 525,435          | 100,051          | 215,008          |
| 補助金収入           | 543,549          | 457,065          | 468,599          | 519,620          | 590,207          |
| 資産売却収入          | 0                | 0                | 1,474            | 0                | 0                |
| 付随事業・収益事業収入     | 44,691           | 36,140           | 38,422           | 36,043           | 32,302           |
| 受取利息・配当金収入      | 113              | 113              | 32               | 27               | 23               |
| 雑収入             | 61,616           | 65,241           | 75,994           | 84,586           | 101,152          |
| <b>小計 ①</b>     | <b>3,072,231</b> | <b>3,539,593</b> | <b>3,415,373</b> | <b>3,241,130</b> | <b>3,582,997</b> |
| 借入金等収入          | 2,000,000        | 0                | 1,000,004        | 0                | 0                |
| 前受金収入           | 1,195,527        | 1,217,746        | 1,326,957        | 1,401,488        | 1,449,276        |
| その他の収入          | 53,833           | 280,489          | 50,204           | 66,171           | 63,629           |
| 資金収入調整勘定        | △ ,482,459       | △ ,243,714       | △ ,273,591       | △ ,373,056       | △ ,443,281       |
| <b>収入の部合計 A</b> | <b>4,839,132</b> | <b>3,794,114</b> | <b>4,518,947</b> | <b>3,335,733</b> | <b>3,652,621</b> |

(単位：千円)

| 科目              | 2019年度           | 2020年度           | 2021年度           | 2022年度           | 2023年度           |
|-----------------|------------------|------------------|------------------|------------------|------------------|
|                 | 人件費支出            | 1,336,565        | 1,533,976        | 1,753,838        | 1,945,385        |
| 教育研究経費支出        | 490,174          | 476,906          | 542,775          | 1,019,365        | 1,025,490        |
| 管理経費支出          | 316,553          | 333,829          | 335,597          | 345,325          | 334,320          |
| 借入金等利息支出        | 49,770           | 37,736           | 20,282           | 24,526           | 20,888           |
| 借入金等返済支出        | 2,126,861        | 303,972          | 103,968          | 103,968          | 81,108           |
| 施設関係支出          | 741,144          | 394,593          | 2,359,282        | 26,176           | 210,290          |
| 設備関係支出          | 22,033           | 32,781           | 28,332           | 100,461          | 30,941           |
| <b>小計 ②</b>     | <b>5,083,100</b> | <b>3,113,793</b> | <b>5,144,074</b> | <b>3,565,206</b> | <b>3,763,735</b> |
| 資産運用支出          | 0                | 0                | 56               | 4,130            | 751              |
| その他の支出          | 158,961          | 471,172          | 193,083          | 384,853          | 295,425          |
| 資金支出調整勘定        | △ 59,293         | △ 00,556         | △ 00,609         | △ 44,817         | △ 70,566         |
| <b>支出の部合計 B</b> | <b>5,082,768</b> | <b>3,384,409</b> | <b>4,936,604</b> | <b>3,709,372</b> | <b>3,789,345</b> |

(単位：千円)

| 科目           | 2019年度       | 2020年度      | 2021年度    | 2022年度      | 2023年度    |
|--------------|--------------|-------------|-----------|-------------|-----------|
|              | 資金収支差額 (①-②) | △ 2,010,869 | 425,800   | △ 1,728,701 | △ 324,076 |
| 資金収支差額 (A-B) | △ 243,636    | 409,705     | △ 417,657 | △ 373,639   | △ 136,724 |
| 翌年度繰越支払資金    | 3,433,369    | 3,843,075   | 3,425,420 | 3,051,780   | 2,915,055 |

イ) 活動区分資金収支計算書の状況と経年比較

教育活動による資金収支収入は3,581百万円支出は3,418百万円で差引162百万円の収入超過となった。

施設整備等活動による収入は、0円、支出は241百万円で差引241百万円の支出超過となった。

その他活動による収入は、18百万円、支出は106百万円で差引88百万円の支出超過となった。

上記の結果、翌年度繰越支払資金は2,915百万円となり、昨年度の3,051百万円より136百万円減少した。

活動区分資金収支計算書の経年比較

(単位:円)

| 科                            |               | 2019年度        | 2020年度          | 2021年度          | 2022年度        | 2023年度          |               |
|------------------------------|---------------|---------------|-----------------|-----------------|---------------|-----------------|---------------|
| 教育活動による資金収支                  | 収入            | 学生生徒等納付金収入    | 2,296,796,450   | 2,261,001,410   | 2,261,123,972 | 2,447,984,405   | 2,600,941,057 |
|                              |               | 手数料収入         | 48,537,152      | 43,961,762      | 44,294,000    | 52,819,040      | 43,364,925    |
|                              |               | 特別寄付金収入       | 2,287,000       | 60,000          | 0             | 100,000,000     | 200,000,000   |
|                              |               | 一般寄付金収入       | 71,000,000      | 140,000         | 10,000        | 51,000          | 15,008,000    |
|                              |               | 経常費等補助金収入     | 315,284,636     | 449,437,072     | 468,599,866   | 519,620,993     | 590,207,926   |
|                              |               | 付随事業収入        | 44,691,060      | 36,140,756      | 38,422,462    | 36,043,864      | 32,302,529    |
|                              |               | 雑収入           | 61,616,529      | 65,241,081      | 75,994,214    | 83,709,170      | 99,434,050    |
|                              |               | 教育活動資金収入計     | 2,840,212,827   | 2,855,982,081   | 2,888,444,514 | 3,240,228,472   | 3,581,258,487 |
|                              | 支出            | 人件費支出         | 1,336,565,093   | 1,533,976,678   | 1,753,837,941 | 1,945,385,698   | 2,060,698,942 |
|                              |               | 教育研究経費支出      | 490,174,356     | 476,906,251     | 542,774,833   | 1,019,802,815   | 1,025,490,569 |
| 管理経費支出                       |               | 316,553,502   | 333,454,364     | 335,596,811     | 345,325,706   | 332,332,357,240 |               |
| 教育活動資金支出計                    |               | 2,143,292,927 | 2,344,337,293   | 2,632,209,585   | 3,310,076,419 | 3,418,546,751   |               |
| 差引                           | 696,919,876   | 511,644,788   | 256,234,929     | △ 69,847,947    | 162,711,736   |                 |               |
| 調整勘定等                        | △ 237,047,289 | △ 50,054,839  | 130,384,070     | 126,046,937     | 44,130,639    |                 |               |
| 教育活動資金収支差額                   | 459,872,587   | 461,589,949   | 386,618,999     | 56,198,990      | 206,842,375   |                 |               |
| 施設整備等活動による資金収支               | 収入            | 施設設備寄付金収入     | 3,641,760       | 675,872,914     | 525,425,885   | 0               | 0             |
|                              |               | 施設設備売却収入      | 0               | 0               | 1,474,146     | 0               | 0             |
|                              |               | 施設設備補助金収入     | 228,264,000     | 7,628,000       | 0             | 0               | 0             |
|                              |               | 施設整備等活動資金収入計  | 231,905,760     | 683,500,914     | 526,900,031   | 0               | 0             |
|                              |               | 施設関係支出        | 741,144,285     | 394,593,455     | 2,359,282,821 | 26,176,700      | 210,290,214   |
|                              |               | 設備関係支出        | 22,033,050      | 32,781,387      | 28,332,166    | 100,461,655     | 30,941,020    |
|                              | 施設整備等活動資金支出計  | 763,177,335   | 427,374,842     | 2,387,614,987   | 126,638,355   | 241,231,234     |               |
|                              | 差引            | △ 531,271,575 | 256,126,072     | △ 1,860,714,956 | △ 126,638,355 | △ 241,231,234   |               |
|                              | 調整勘定等         | △ 17,077,235  | 15,969,385      | 178,341,649     | △ 181,118,153 | △ 13,750,421    |               |
|                              | 施設整備等活動資金収支差額 | △ 548,348,810 | 272,095,457     | △ 1,682,373,307 | △ 307,756,508 | △ 254,981,655   |               |
| 小計(教育活動資金収支差額+施設整備等活動資金収支差額) | △ 88,476,223  | 733,685,406   | △ 1,295,754,308 | △ 251,557,518   | △ 48,139,280  |                 |               |
| その他の活動による資金収支                | 収入            | 借入金収入         | 2,000,000,000   | 0               | 1,000,004,000 | 0               | 0             |
|                              |               | 貸付金回収収入       | 0               | 0               | 0             | 0               | 120,000       |
|                              |               | 預り金受入収入       | 15,638,706      | 13,296,715      | 2,358,006     | 11,090,132      | 15,992,157    |
|                              |               | 仮払金回収収入       | 0               | 313,441         | 0             | 0               | 0             |
|                              |               | その他の固定資産回収収入  | 660,000         | 0               | 0             | 0               | 0             |
|                              |               | 預託金回収収入       | 10,470          | 1,570           | 0             | 0               | 10,210        |
|                              |               | 敷金回収収入        | 20,000          | 20,000          | 0             | 0               | 0             |
|                              |               | 立替金回収収入       | 0               | 173,841         | 34,423        | 0               | 489,920       |
|                              |               | 小計            | 2,016,329,176   | 13,805,567      | 1,002,396,429 | 11,090,132      | 16,612,287    |
|                              |               | 受取利息・配当金収入    | 113,602         | 113,817         | 32,571        | 27,673          | 23,697        |
|                              | 過年度修正収入       | 0             | 0               | 0               | 877,500       | 1,717,976       |               |
|                              | 収益事業元入金回収収入   | 5,745,050     | 4,185,723       | 0               | 0             | 0               |               |
|                              | その他の活動資金収入計   | 2,022,187,828 | 18,105,107      | 1,002,429,000   | 11,995,305    | 18,353,960      |               |
|                              | 支出            | 借入金等返済支出      | 2,126,860,670   | 303,972,536     | 103,968,536   | 103,968,536     | 81,108,505    |
|                              |               | 貸付金支払支出       | 125,000         | 0               | 0             | 600,000         | 1,800,000     |
|                              |               | その他の固定資産支払支出  | 60,000          | 0               | 0             | 0               | 0             |
|                              |               | 仮払金支払支出       | 122,429         | 0               | 0             | 0               | 418,805       |
|                              |               | 預託金支出         | 29,920          | 0               | 23,220        | 47,080          | 8,190         |
|                              |               | 預り金支出         | 0               | 0               | 0             | 0               | 0             |
|                              |               | 立替金支出         | 378,421         | 0               | 0             | 804,373         | 0             |
| 出資金支出                        |               | 0             | 0               | 56,445          | 0             | 0               |               |
| 収益事業元入金支出                    |               | 0             | 0               | 0               | 4,130,978     | 751,753         |               |
| 小計                           |               | 2,127,576,440 | 303,972,536     | 104,048,201     | 109,550,967   | 84,087,253      |               |
| 過年度修正支出                      | 0             | 375,000       | 0               | 0               | 1,963,700     |                 |               |
| 借入金等利息支出                     | 49,770,093    | 37,736,000    | 20,282,265      | 24,526,342      | 20,888,734    |                 |               |
| その他の活動資金支出計                  | 2,177,346,533 | 342,083,536   | 124,330,466     | 134,077,309     | 106,939,687   |                 |               |
| 差引                           | △ 155,158,705 | △ 323,978,429 | 878,098,534     | △ 122,082,004   | △ 88,585,727  |                 |               |
| 調整勘定等                        | 0             | 0             | 0               | 0               | 0             |                 |               |
| その他の活動資金収支差額                 | △ 155,158,705 | △ 323,978,429 | 878,098,534     | △ 122,082,004   | △ 88,585,727  |                 |               |
| 支払資金の増減額(小計+その他の活動資金収支差額)    | △ 243,634,928 | 409,706,977   | △ 417,655,774   | △ 373,639,522   | △ 136,725,007 |                 |               |
| 前年度繰越支払資金                    | 3,677,003,850 | 3,433,368,922 | 3,843,075,899   | 3,425,420,125   | 3,051,780,603 |                 |               |
| 翌年度繰越支払資金                    | 3,433,368,922 | 3,843,075,899 | 3,425,420,125   | 3,051,780,603   | 2,915,055,596 |                 |               |

ウ) 財務比率の経年比較

・教育活動資金収支差額比率

(単位：%)

| 比率           | 算式(×100%)                                    | 2019年度<br>(2020. 3. 31) | 2020年度<br>(2021. 3. 31) | 2021年度<br>(2022. 3. 31) | 2022年度<br>(2023. 3. 31) | 2023年度<br>(2024. 3. 31) |
|--------------|--|-------------------------|-------------------------|-------------------------|-------------------------|-------------------------|
| 教育活動資金収支差額比率 | $\frac{\text{教育活動資金収支差額}}{\text{教育活動資金収入計}}$ | 12.9                    | 6.0                     | △ 3.0                   | △ 24.7                  | △ 10.3                  |

③事業活動収支計算書関係

ア) 事業活動収支計算書の状況と経年比較

教育活動収支差額は、-370百万円となった。

事業活動収入：学生生徒等納付金、手数料、寄付金、補助金、事業収入、雑収入等は、資金収支計算書収入の部と同様の要因により、3,587百万円となり、前年度に対して342百万円の増収となった。

基本金組入額合計は369百万円となり、基本金組入前当年度収支差額(帰属収入)は、-384百万円となった。

事業活動支出：資金収支計算書の支出の部と同様の要因で、3,957百万円となった。

当年度収支差額：当年度収支差額は、-754百万円となった。

事業活動収支の経年比較

(単位：千円)

| 事業活動収支          |           | 科目          | 2019年度    | 2020年度    | 2021年度     | 2022年度    | 2023年度    |
|-----------------|-----------|-------------|-----------|-----------|------------|-----------|-----------|
| 教育活動収支          | 収入        | 学生生徒納付金     | 2,296,796 | 2,261,001 | 2,261,123  | 2,447,984 | 2,600,941 |
|                 |           | 手数料         | 48,537    | 43,961    | 44,294     | 52,819    | 43,364    |
|                 |           | 寄付金         | 75,537    | 2,117     | 3,349      | 103,730   | 221,324   |
|                 |           | 経常費等補助金     | 315,285   | 449,437   | 468,599    | 519,620   | 590,207   |
|                 |           | 付随事業収入      | 44,691    | 36,140    | 38,422     | 36,043    | 32,302    |
|                 |           | 雑収入         | 61,655    | 65,247    | 76,029     | 84,773    | 99,451    |
|                 |           | 教育活動収入計     | 2,842,501 | 2,857,906 | 2,891,819  | 3,244,972 | 3,587,592 |
|                 | 支出        | 人件費         | 1,345,964 | 1,544,267 | 1,764,677  | 1,959,789 | 2,067,716 |
|                 |           | 教育研究経費      | 770,940   | 755,260   | 826,365    | 1,654,564 | 1,507,403 |
|                 |           | 管理経費        | 358,751   | 385,557   | 387,781    | 431,665   | 382,419   |
| 徴収不能額等          |           | 0           | 0         | 0         | 0          | 0         |           |
| 教育活動支出計         |           | 2,475,655   | 2,685,084 | 2,978,824 | 4,046,020  | 3,957,539 |           |
|                 | 教育活動収支差額  | 366,846     | 172,821   | △ 87,004  | △ 801,048  | △ 369,947 |           |
| 教育活動外収支         | 収入        | 受取利息・配当金    | 114       | 113       | 32         | 27        | 23        |
|                 |           | その他の教育活動外収入 | 0         | 0         | 0          | 0         | 0         |
|                 |           | 教育活動外収入計    | 114       | 113       | 32         | 27        | 23        |
|                 | 支出        | 借入金等利息      | 49,770    | 37,736    | 20,282     | 24,526    | 20,888    |
|                 |           | その他の教育活動外支出 | 0         | 0         | 0          | 0         | 0         |
|                 |           | 教育活動外支出計    | 49,770    | 37,736    | 20,282     | 24,526    | 20,888    |
|                 | 教育活動外収支差額 | △ 9,656     | △ 7,623   | △ 0,249   | △ 4,498    | △ 0,865   |           |
| 経常収支差額          |           |             | 317,190   | 135,199   | △ 07,254   | △ 25,546  | △ 90,812  |
| 特別収支            | 収入        | 資産売却差額      | 0         | 0         | 0          | 0         | 0         |
|                 |           | その他の特別収入    | 233,232   | 691,175   | 530,416    | 15,915    | 8,839     |
|                 |           | 特別収入計       | 233,232   | 691,175   | 530,416    | 15,915    | 8,839     |
|                 | 支出        | 資産処分差額      | 578       | 356       | 1,490      | 194       | 576       |
|                 |           | その他の特別支出    | 0         | 375       | 0          | 0         | 1,966     |
|                 |           | 特別支出計       | 578       | 731       | 1,490      | 194       | 2,542     |
|                 | 特別収支差額    | 232,654     | 690,444   | 528,926   | 15,721     | 6,296     |           |
| 基本金組入前当年度収支差額 ③ |           |             | 549,843   | 825,643   | 421,597    | △ 09,825  | △ 84,515  |
| 基本金組入額合計 ④      |           |             | △ 34,991  | △ 56,459  | △ ,559,498 | △ 80,881  | △ 69,776  |
| 当年度収支差額 ⑤       |           |             | △ 83,143  | 169,183   | △ ,137,826 | △ 90,707  | △ 54,291  |
| (参考)            |           |             |           |           |            |           |           |
| 事業活動収入計 ①       |           |             | 3,075,847 | 3,579,195 | 3,422,269  | 3,260,915 | 3,596,455 |
| 事業活動支出計 ②       |           |             | 2,526,004 | 2,723,551 | 3,000,597  | 4,070,740 | 3,980,971 |

イ) 財務比率の経年比較

人件費比率、教育研究経費比率、管理経費比率、事業活動収支差額比率、学生生徒等納付金比率、経常収支差額比率等は以下の通りである。

(単位：%)

| 分類 | 区分         |                                | 2019年度<br>(R2.3.31) | 2020年度<br>(R3.3.31) | 2021年度<br>(R4.3.31) | 2022年度<br>(R5.3.31) | 2023年度<br>(R6.3.31) |
|----|------------|--------------------------------|---------------------|---------------------|---------------------|---------------------|---------------------|
|    | 比率         | 算式(×100%)                      |                     |                     |                     |                     |                     |
| 経  | 人件費比率      | 人件費<br>経常収入                    | 47.35%              | 54.03%              | 61.02%              | 60.39%              | 57.63%              |
|    | 人件費依存率     | 人件費<br>学生生徒等納付金                | 58.60%              | 68.30%              | 78.04%              | 80.06%              | 79.50%              |
|    | 教育研究経費比率   | 教育研究経費<br>経常収入                 | 27.12%              | 26.43%              | 28.58%              | 50.99%              | 42.02%              |
| 営  | 管理経費比率     | 管理経費<br>経常収入                   | 12.62%              | 13.49%              | 13.41%              | 13.30%              | 10.66%              |
|    | 借入金等利息比率   | 借入金等利息<br>経常収入                 | 1.75%               | 1.32%               | 0.70%               | 0.76%               | 0.58%               |
|    | 事業活動収支差額比率 | 基本金組入前収支差額<br>事業活動収入           | 17.88%              | 23.26%              | 12.32%              | -24.83%             | -10.69%             |
| 状  | 基本金組入後収支比率 | 事業活動支出<br>- 事業活動収入<br>- 基本金組入額 | 64.62%              | 64.76%              | 5.03%               | 118.27%             | 100.37%             |
|    | 学生生徒等納付金比率 | 学生生徒等納付金<br>経常収入               | 80.80%              | 79.11%              | 78.19%              | 75.44%              | 72.50%              |
|    | 寄付金比率      | 寄付金<br>事業活動収入                  | 2.46%               | 19.32%              | 15.60%              | 3.64%               | 6.35%               |
| 況  | 補助金比率      | 補助金<br>事業活動収入                  | 10.25%              | 12.88%              | 13.69%              | 15.93%              | 16.41%              |
|    | 基本金組入率     | 基本金組入額<br>事業活動収入               | -27.08%             | -18.50%             | -74.79%             | -5.55%              | -10.28%             |
|    | 減価償却額比率    | 減価償却額<br>経常支出                  | 93.66%              | 12.06%              | 11.08%              | 12.81%              | 13.20%              |
|    | 経常収支差額比率   | 経常収支差額<br>経常収入                 | 11.16%              | 4.73%               | -3.71%              | -25.44%             | -10.89%             |
|    | 教育活動収支差額比率 | 教育活動収支差額<br>教育活動収入計            | 12.91%              | 6.05%               | -3.01%              | -24.69%             | -10.31%             |

(2) その他

①有価証券の状況

本学校法人では、有価証券は所有していない。

②借入金の状況

| 借入先                | 期末残高(円)       | 利率(%)  | 返済期限        |
|--------------------|---------------|--------|-------------|
| (株)みずほ銀行<br>横浜駅前支店 | 512,893,713   | 1.070% | 2031年3月31日  |
|                    | 159,650,000   | 0.390% | 2033年10月31日 |
|                    | 2,800,000,000 | 0.690% | 2025年3月31日  |

③学校債の状況

本学校法人では、学校債は発行していない。

④寄付金の状況

【特定公益増進法人】

(単位：円)

|                  |            |
|------------------|------------|
| 特別寄附（一般の方より）     | 8,000      |
| 特別寄附（グループ企業より寄付） | 15,000,000 |

【受配者指定寄付金】

2023 年度中に配布を受けた寄付金

|                               |             |
|-------------------------------|-------------|
| 受配者指定寄付金（2022 年度中にグループ企業より寄付） | 200,000,000 |
|-------------------------------|-------------|

受配者指定寄付金口座にあるため、2023 年度決算には反映されない寄付金

|                    |             |
|--------------------|-------------|
| 受配者指定寄付金（グループ企業より） | 200,000,000 |
|--------------------|-------------|

⑤補助金の状況

湘南医療大学、専門学校には、経常費補助金及び授業料等減免費交付金として、国・県より補助金が交付された。その他、茅ヶ崎看護専門学校、湘南医療大学附属下田看護専門学校には、看護師養成校として養成所補助事業に対する補助金が交付された。認定こども園には、横浜市より、子ども・子育て支援教育・保育給付費等認定こども園運営に関する補助金が交付された。

2023年度 補助金

|  | 本部 | 茅ヶ崎看護      | 刈校         | 医療ビジネス校    | みどり幼稚園      | 下田看護       | 湘南医療大学      | 合計          |          |
|--|----|------------|------------|------------|-------------|------------|-------------|-------------|----------|
| 国庫補助金<br>経常費補助金収入                        |    |            |            |            |             |            | 198,168,000 | 198,168,000 | 国庫補助金    |
| 国庫補助金<br>授業料等減免費交付金                      |    |            |            |            |             |            | 59,113,500  | 59,113,500  | 国庫補助金    |
| 神奈川県<br>経常費補助金<br>*申請書別紙                 |    | 11,405,000 | 17,165,000 | 12,146,000 |             |            |             | 40,716,000  | 神奈川県     |
| 神奈川県・静岡県<br>看護師等養成所補助事業<br>*申請書別紙        |    | 26,233,000 |            |            |             | 19,049,000 |             | 45,282,000  | 神奈川県・静岡県 |
| 神奈川県<br>介護福祉士養成施設日本語学習等支援事業費             |    |            |            | 90,000     |             |            |             | 90,000      | 神奈川県     |
| 神奈川県・静岡県<br>結核健康診断及び予防接種<br>補助対象経費(課税)   |    | 21,489     | 33,293     |            |             | 35,516     |             | 90,298      | 神奈川県・静岡県 |
| 神奈川県・静岡県<br>授業料等減免費交付金                   |    | 15,583,800 | 14,637,700 | 11,123,600 |             | 9,510,800  |             | 50,855,900  | 神奈川県・静岡県 |
| 神奈川県・静岡県<br>物価高騰対応支援金<br>補助対象経費(課税)      |    | 220,000    | 220,000    | 220,000    |             | 600,000    |             | 1,260,000   | 神奈川県・静岡県 |
| 神奈川県<br>調査研究助成金<br>補助対象経費(課税)            |    |            |            |            |             |            | 100,000     | 100,000     | 神奈川県     |
| 横浜市<br>私立幼稚園等補助金<br>補助対象経費(課税)           |    |            |            |            | 476,000     |            |             | 476,000     | 横浜市      |
| 横浜市<br>はまっこ広場事業補助金<br>補助対象経費(課税)         |    |            |            |            | 500,000     |            |             | 500,000     | 横浜市      |
| 横浜市<br>子ども・子育て支援教育・保育給付費                 |    |            |            |            | 165,962,384 |            |             | 165,962,384 | 横浜市      |
| 横浜市<br>私立幼稚園等一時預かり保育事業補助金<br>補助対象経費(課税)  |    |            |            |            | 1,412,300   |            |             | 1,412,300   | 横浜市      |
| 横浜市・相模原市<br>結核健康診断及び予防接種<br>補助対象経費(課税)   |    |            |            | 19,565     |             |            |             | 19,565      | 横浜市・相模原市 |
| 横浜市<br>人事院勧告に伴う定額格差額分                    |    |            |            |            | 2,118,815   |            |             | 2,118,815   | 横浜市      |
| 横浜市<br>横浜市特定教育・保育施設預かり保育事業<br>補助対象経費(課税) |    |            |            |            | 23,714,000  |            |             | 23,714,000  | 横浜市      |
| 横浜市<br>送迎用バスへの安全装置導入支援補助金<br>補助対象経費(課税)  |    |            |            |            | 329,164     |            |             | 329,164     | 横浜市      |
| 国庫補助金合計                                  | 0  | 0          | 0          | 0          | 0           | 0          | 257,281,500 | 257,281,500 | 国        |
| 神奈川県・静岡県補助金合計                            | 0  | 53,463,289 | 32,055,993 | 23,579,600 | 0           | 29,195,316 | 100,000     | 138,394,198 | 神奈川県・静岡県 |
| 市補助金 合計                                  | 0  | 0          | 0          | 19,565     | 194,512,663 | 0          | 0           | 194,532,228 | 横浜市他     |

⑥関連当事者等との取引の状況

ア) 関連当事者について下表のとおり イ) 出資会社は該当なし

(単位:円)

| 属性                         | 役員、法人等の名称        | 住所        | 資本金又は出資金 | 事業内容又は職業          | 議決権の所有割合 | 関係内容   |                    | 取引の内容                               | 取引金額                           | 勘定科目 | 期末残高       |
|----------------------------|------------------|-----------|----------|-------------------|----------|--------|--------------------|-------------------------------------|--------------------------------|------|------------|
|                            |                  |           |          |                   |          | 役員の兼任等 | 事業上の関係             |                                     |                                |      |            |
| 理事長                        | 大屋敷 英志枝          | -         | -        | -                 | -        | -      | -                  | 当法人の銀行借入に対する被保証<br>*1               | 624,225,000 *1<br>*2           | -    | -          |
| 関係法人                       | 医療法人社団 康心会       | 神奈川県 茅ヶ崎市 | 170百万円   | 病院・老人保健施設・診療所の経営  | -        | 4名     | 職員出向他              | 職員出向他                               | 8,204,141                      | 未収入金 | 548,313    |
|                            |                  |           |          |                   |          |        | 健康診断、実習謝礼他         | 健康診断、実習謝礼他                          | 30,213,323 *4                  | 未払金  | 12,798,775 |
| 関係法人                       | 医療法人社団 健齢会       | 神奈川県 横浜市  | 45百万円    | 病院・診療所の経営         | -        | 5名     | 職員出向他              | 職員出向他                               | 12,434,979                     | 未収入金 | 858,451    |
|                            |                  |           |          |                   |          |        | 健康診断、実習謝礼他         | 健康診断、実習謝礼他                          | 1,894,628 *4                   | 未払金  | 1,100,868  |
| 関係法人                       | 医療法人 回生会         | 神奈川県 横浜市  | 10百万円    | 病院の経営             | -        | 5名     | 医療事務初級講座受講料        | 医療事務初級講座受講料                         | 8,000                          | 未収入金 | 0          |
|                            |                  |           |          |                   |          |        | 健康診断、実習謝礼他         | 健康診断、実習謝礼他                          | 8,361,113 *4                   | 未払金  | 8,111,858  |
| 役員及びその近親者が議決権の過半数を所有している会社 | ㈱フォーライフ企画 *3     | 神奈川県 茅ヶ崎市 | 10百万円    | 一般物品 商社           | -        | -      | リース・医療材料・事務用品購入    | リース・医療材料・事務用品購入                     | 544,783,751 *4                 | 未払金  | 39,998,434 |
| 役員及びその近親者が議決権の過半数を所有している会社 | ㈱エフアンドユアライブ *3   | 神奈川県 茅ヶ崎市 | 5百万円     | 内装工事、建物保守、建築・企画設計 | -        | -      | 施設修理他              | 施設修理他                               | 119,398,240 *4                 | 未払金  | 14,816,730 |
| 役員及びその近親者が議決権の過半数を所有している会社 | ㈱メディアカールヘルスケア *3 | 神奈川県 茅ヶ崎市 | 3百万円     | 不動産管理会社           | -        | 1名     | 不動産賃貸              | 不動産賃貸                               | 22,486,888 *4                  | 未払金  | 104,200    |
| 役員及びその近親者が議決権の過半数を所有している会社 | ㈱エフエムシー *3       | 神奈川県 茅ヶ崎市 | 5百万円     | 人事管理・給与計算・経理業務の請負 | -        | 1名     | 人事管理・給与計算・経理業務委託   | 人事管理・給与計算・経理業務委託<br>当法人の銀行借入に対する被保証 | 30,000,938 *4<br>2,800,000,000 | 未払金  | 1,920,938  |
| 役員及びその近親者が議決権の過半数を所有している会社 | ㈱メディアカールフーズ *3   | 神奈川県 茅ヶ崎市 | 3百万円     | 給食業務の受託及び管理       | -        | 1名     | 食堂食材・食堂委託管理他       | 食堂食材・食堂委託管理他                        | 31,976,469 *4                  | 未払金  | 2,189,662  |
| 役員及びその近親者が議決権の過半数を所有している会社 | ㈱湘南ふれあいの園 *3     | 神奈川県 茅ヶ崎市 | 5百万円     | 有料老人ホーム経営         | -        | 1名     | シニアホテル東戸塚サウイング電気料他 | シニアホテル東戸塚サウイング電気料他                  | 17,096,791 *4                  | 未払金  | 1,322,999  |
| 役員及びその近親者が議決権の過半数を所有している会社 | ㈱リード商会 *3        | 神奈川県 茅ヶ崎市 | 3百万円     | 清掃業務、自動車修理業務      | -        | -      | 清掃管理、自動車修理他        | 清掃管理、自動車修理他                         | 77,167,403 *4                  | 未払金  | 6,352,164  |

注\*1 当法人は銀行借入に対して理事長大屋敷英志枝より債務保証を受けている。

なお、保証料の支払は行っていない。

注\*2 収益事業に係る取引も含んでいる。

注\*3 理事長大屋敷英志枝及びその近親者が議決権の100%を直接所有している。

注\*4 市場価格を勘案して一般取引条件と同様に決定している。

⑦学校間財務取引

該当なし

(3) 経営状況の分析、経営上の成果と課題、今後の方針・対応方策

学校法人湘南ふれあい学園の経営状況の分析(過去5年間)、経営上の成果と課題

下記の財務比率は、経営状況、負債の状況、及び将来の備えに対する資産の保有状況の実施結果の分析を示している。将来支出に備える保有資産の状況は、大学平均(78.2%)とより若干低い数値となったが、現在のところ、万一の支出の状況にも十分に耐えるだけの資産を保有している。

資料1

| 比率名                      | 計算式  | R01    | R02    | R03    | R04    | R05    | R04-R05対比 | 経営上の成果と課題(自己点検・評価)   |
|--------------------------|--|--------|--------|--------|--------|--------|-----------|--|
| <b>① 経営状況</b>            |  |        |        |        |        |        |           |  |
| 事業活動収支差額比率               | 基本金組入前当年度収支差額/事業活動収入                                   | 17.9%  | 23.3%  | 12.3%  | -24.8% | -10.7% | 減少        | 令和2年度の当該率の大学平均は、5.2%である。   |
| <b>② 負債に備える資産の蓄積状況</b>   |  |        |        |        |        |        |           |  |
| 内部留保資産比率                 | (運用資産-(総負債))/総資産                                       | 0.1%   | 3.9%   | -4.4%  | -5.5%  | -15.1% | 減少        | 当該比率がマイナスとなり、財政上の余裕度が減少している。   |
| 運用資産余裕比率(年)              | (運用資産-外部負債)/経常支出                                       | 2.5%   | 27.5%  | 71.0%  | -22.2% | -24.1% | 減少        | 一年間の学校法人の経常的な支出を賚る運用資産の蓄積額が減少しているため、予算額を縮小する必要がある。                                       |
| 流動比率                     | 流動資産/流動負債  | 237.0% | 255.7% | 81.9%  | 75.0%  | 70.4%  | 減少        | 当該比率が100%以下となり、流動負債を固定資産に投下した結果が現れたと考える。   |
| 前受金保有率                   | 現金預金/前受金   | 287%   | 316%   | 258%   | 218%   | 201%   | 減少        | 当該年度に収受している翌年度分の授業料や入学金等が、翌年度繰越支払資金たる現金預金の形で当該年度末の保有比率が100%を超えているため、昨年度より数値は減少したが、問題は無い。 |
| <b>③ 負債水準の状況</b>         |  |        |        |        |        |        |           |  |
| 固定負債構成比率                 | 固定負債/(総負債+純資産)   | 19.5%  | 17.0%  | 5.9%   | 5.8%   | 4.7%   | 減少        | 施設整備計画や手元資金の状況に比してこの比率が高い場合、経営上の留意が必要となる。  |
| 流動負債構成比率                 | 流動負債/(総負債+純資産)   | 11.1%  | 11.1%  | 26.7%  | 28.0%  | 26.8%  | 減少        | 当該比率が低い方が好ましい。本学園は、固定資産の整備のため今年度短期借入金が増加したため、比率が増加した。                                    |
| 総負債比率                    | 総負債/総資産  | 20.4%  | 18.2%  | 22.4%  | 22.3%  | 31.6%  | 増加        | 当該比率50%以下は、負債総額が純資産を下回っていることを示す。本学園の財務安全性は確保されている。                                       |
| 負債比率                     | 総負債/純資産  | 28.4%  | 24.6%  | 32.1%  | 32.3%  | 46.1%  | 増加        | 当該比率が100%以下であるため、他人資金である総負債が自己資金である純資産を下回っている。   |
| <b>④ 将来支出に備える保有資産の状況</b> |  |        |        |        |        |        |           |  |
| 積立率                      | 運用資産(現金預金+特定資産+有価証券)/要積立額(減価償却累計額+退職給与引当金+第2号基金+第3号基金) | 138.4% | 136.4% | 108.5% | 82.6%  | 69.0%  | 減少        | 令和2年度の当該率の大学平均は、78.2%であり、本学園は、平均を下回っている。減価償却累計額はR1年からR05年度末で約16億9千万円増加している。              |

※総負債には、内部負債である「退職給与引当金」及び「前受金」を算入しないことを原則とした。

資料2 運用資産及び外部負債の金額

下記の表より、運用資産は減少かつ外部負債も増加している。ただし、積立額も大幅に増加しているため、運営が安定していることを示している。

(千円)

| 項目   | 計算式                         | R01       | R02       | R03       | R04       | R05       | R01-R05間傾向   |
|------|-----------------------------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|--------------|
| 運用資産 | 現金預金+特定資産+有価証券              | 3,433,369 | 3,843,075 | 3,425,420 | 3,051,780 | 2,915,055 | -518,314 減少  |
| 外部負債 | 総負債-(退職給与引当金+前受金)           | 3,424,348 | 3,163,240 | 4,269,327 | 4,037,835 | 3,971,181 | 546,833 増加   |
| 積立額  | 減価償却累計額+退職給与引当金+第2号基金+第3号基金 | 2,480,336 | 2,817,654 | 3,157,862 | 3,692,429 | 4,222,750 | 1,742,414 増加 |

資料3 総資産基本金組入前当年度収支差額比率関連指標 (百万円)

|                   |        |
|-------------------|--------|
| 総資産               | 17,679 |
| 事業活動収入            | 3,596  |
| 基本金組入前当年度収支差額     | -384   |
| 総資産基本金組入前当年度収支差額比 | -2.2%  |
| 基本金組入前当年度収支差額比    | 20.3%  |
| 総資産回転率            | 0.2 回転 |

## VI 施設・設備報告

2024年3月現在 学校法人所有施設の所在等、主な施設設備の状況は次のとおりである。

### 校地

|                     | 所在地                        | 計 m <sup>2</sup>         |
|---------------------|----------------------------|--------------------------|
| 湘南医療大学              | 神奈川県横浜市戸塚区上品濃16番49         | 7,921.62 m <sup>2</sup>  |
|                     | 神奈川県横浜市戸塚区上品濃16番5 他        | 18,872.36 m <sup>2</sup> |
|                     | 神奈川県横浜市中区山手町27番1 他 ※       | 10,973.00 m <sup>2</sup> |
|                     | 計                          | 37,766.98 m <sup>2</sup> |
| みどり幼稚園              | 神奈川県横浜市戸塚区汲沢二丁目1682番 他     | 2,306.00 m <sup>2</sup>  |
|                     | 神奈川県横浜市戸塚区汲沢二丁目1703番1      | 623.00 m <sup>2</sup>    |
| 茅ヶ崎看護専門学校           | 神奈川県茅ヶ崎市今宿字生神場383-4 他      | 1,477.64 m <sup>2</sup>  |
| 茅ヶ崎リハビリテーション専門学校    | 神奈川県茅ヶ崎市南湖一丁目3690-4 他      | 3,752.04 m <sup>2</sup>  |
| 医療ビジネス観光福祉専門学校      | 神奈川県相模原市南区上鶴間本町三丁目2850-1 他 | 1,106.50 m <sup>2</sup>  |
| 湘南医療大学附属下田看護専門学校    | 静岡県下田市柿崎字腰越288-1 他         | 3,498.57 m <sup>2</sup>  |
|                     | 静岡県下田市柿崎腰越289              | 717.35 m <sup>2</sup>    |
|                     | 計                          | 4,215.92 m <sup>2</sup>  |
| 湘南医療大学附属下田看護専門学校学生寮 | 静岡県下田市柿崎字孫ノ段736-4 他        | 1,322.86 m <sup>2</sup>  |
|                     | 合計                         | 50,264.94 m <sup>2</sup> |

### 校舎

|                       | 所在地  | 構造                                 | 計 m <sup>2</sup>         |
|-----------------------|--|------------------------------------|--------------------------|
| 湘南医療大学                | 神奈川県横浜市戸塚区上品濃<br>16番地48 16番地15   | 鉄筋コンクリート造<br>陸屋根・合金メッキ鋼板ぶ<br>き9階建他 | 13,588.09 m <sup>2</sup> |
|                       | 神奈川県横浜市中区山手町<br>27番地1 27番地16<br>47番地2 47番地1<br>神奈川県横浜市中区元町五丁目<br>220番地4          | 鉄筋コンクリート造陸屋根<br>地下1階付5階建           | 9,296.80 m <sup>2</sup>  |
|                       | 小計   |                                    | 22,884.89 m <sup>2</sup> |
|                       | 神奈川県横浜市戸塚区汲沢二丁目<br>1670-2  | 鉄骨造合金メッキ<br>鋼板ぶき2階建                | 443.46 m <sup>2</sup>    |
| 幼保連携型認定こども園<br>みどり幼稚園 | 神奈川県横浜市戸塚区汲沢二丁目<br>1702-1 1682 1682-3 1670-6                                     | 鉄筋コンクリート造陸屋根地<br>下1階付2階建           | 733.23 m <sup>2</sup>    |
|                       | 小計   |                                    | 1,176.69 m <sup>2</sup>  |
| 茅ヶ崎看護専門学校             | 神奈川県茅ヶ崎市今宿字生神場<br>385番地1 384番地1 386番地1<br>387番地3 390番地                           | 鉄骨造陸屋根4<br>階建                      | 2,893.32 m <sup>2</sup>  |
| 茅ヶ崎リハビリテーション専門学校      | 神奈川県茅ヶ崎市南湖一丁目<br>3690番地5   | 鉄骨造垂鉛メッキ<br>鋼板葺3階建                 | 4,490.96 m <sup>2</sup>  |
|                       | 神奈川県茅ヶ崎市南湖一丁目<br>4617番地1   | 鉄骨造陸屋根・垂<br>鉛メッキ鋼板葺3階<br>建         | 1,234.58 m <sup>2</sup>  |
|                       | 小計   |                                    | 5,725.54 m <sup>2</sup>  |
| 医療ビジネス観光福祉専門学校        | 神奈川県相模原市南区上鶴間本町<br>三丁目2850番地1 2856番地3  | 鉄骨鉄筋コンクリート<br>造陸屋根地下1<br>階付14階建    | 4,360.56 m <sup>2</sup>  |
| 湘南医療大学附属<br>下田看護専門学校  | 静岡県下田市柿崎字腰越289番地<br>静岡県下田市柿崎字吉ノ上1188番地1<br>静岡県下田市柿崎字寺ノ上1192番地<br>1193番地12 1~3階部分 | 鉄筋コンクリート造<br>瓦葺3階建                 | 2,846.76 m <sup>2</sup>  |
|                       | 静岡県下田市柿崎289番地 講堂   | 鉄筋コンクリート造<br>コンクリート屋根<br>平屋建       | 361.37 m <sup>2</sup>    |
|                       | 静岡県下田市柿崎字孫ノ段<br>736番4 737番6<br>静岡県下田市柿崎字矢合1084番地11                               | 鉄筋コンクリート造<br>陸屋根5階建                | 1,773.99 m <sup>2</sup>  |
|                       |  |                                    | 42,023.12 m <sup>2</sup> |

## VII 生涯学習事業報告

湘南医療大学看護キャリア開発コアセンターでは、看護師実習指導者講習会、認定看護師（認知症看護分野）、認定看護管理者（ファーストレベル、セカンドレベル）を開講した。

また、地域医療、福祉系への協力事業としては、介護系では介護職員初任者研修、介護福祉士実務者研修、介護福祉士国家試験対策講座、福祉系では、社会福祉士国家試験対策講座、社会福祉士実習指導者講習会を開講した。

| 系統           | 看護系                                 |                                     |                | 介護系                      |             |                      |   |             |                     | 社会福祉系              |  |
|--------------|-------------------------------------|-------------------------------------|----------------|--------------------------|-------------|----------------------|---|-------------|---------------------|--------------------|--|
| 事業名          | 認定看護管理者(セカンドレベル)                    | 認定看護管理者(ファーストレベル)                   | 看護師実習指導者講習会    | 介護職員初任者研修(茅ヶ崎会場)         |             | 介護職員初任者研修(町田会場)      | 介護福祉士実務者研修(茅ヶ崎会場)   |             | 介護福祉士実習指導者講習会       | 介護福祉士国家試験対策講座      | 社会福祉士実習指導者講習会  |
|              |                                     |                                     |                | 4月開講                     | 8月開講        |                      | 4月開講  | 6月開講        |                     |                    |  |
| 対象           | グループ内外                              | グループ内外                              | グループ内外         | グループ内外                   |             | グループ内外               | グループ内外  |             | グループ内               | グループ内外             | グループ内外   |
| 期日           | 2023.9月～2023.12月                    | 2023.6月～7月                          | 2023.7月～12月    | 2023.4月～8月               | 2023.8月～12月 | 2023.7月～11月          | 2023.4月～9月  | 2023.6月～11月 | 2024.2月             | 2023.12月           | 2024.2月  |
| 日数           | 192時間                               | 114時間                               | 186時間          | 17日(講義15日、実習2日)          |             | 15日(講義15日)           | 6ヶ月   |             | 4日                  | 2日                 | 2日   |
| 会場           | 湘南医療大学                              |                                     |                | 講義：研修センター<br>実習：ふれあいの丘ほか |             | 町田校                  | 研修センター  |             | 研修センター              | 研修センター             | 研修センター   |
| 受講料          | 受講審査料<br>10,000円<br>受講料<br>250,000円 | 受講審査料<br>10,000円<br>受講料<br>150,000円 | 受講料<br>50,000円 | 60,000円<br>(テキスト代込み)     |             | 55,000円<br>(テキスト代込み) | 無資格者：125,000円<br>初任者研修：105,000円<br>基礎研修、1級：30,000円<br>(テキスト代込み) |             | 10,000円<br>(テキスト代別) | 4,000円<br>(テキスト代別) | ふれあいグループ職員、リハ校専攻科修了生<br>9,000円<br>その他10,000円<br>(テキスト代別) |
| 定員           | 20名                                 | 40名                                 | 30名            | 各20名                     |             | 20名                  | 各30名  |             | 15名                 | 15名                | 20名  |
| 申込者数<br>受講者数 | 9名                                  | 20名                                 | 23名            | 16名                      | 9名          | 15名                  | 16名   | 8名          | 15名                 | 20名                | 17名  |
| 取得資格         | 認定看護管理者教育課程セカンドレベル修了                | 認定看護管理者教育課程ファーストレベル修了               | 看護師実習指導者講習会修了  | 介護職員初任者研修修了              |             | 介護職員初任者研修修了          | 介護福祉士国家試験受験資格(要実務経験3年)  |             | 介護福祉士実習指導者講習会修了     | —                  | 社会福祉士実習指導者講習会修了  |

## VIII 収益事業の状況

(収益事業会計)

### 貸借対照表

2024年 3月 31日 現在

(単位:円)

| 資産の部     |            | 負債の部       |               |
|----------|------------|------------|---------------|
| 科目       | 金額         | 科目         | 金額            |
| [流動資産]   | 57         | [流動負債]     | 941,102       |
| 未収入金     | 57         | 一年内返済長期借入金 | 772,160       |
|          |            | 前受金        | 137,000       |
|          |            | 未払金        | 31,942        |
| [固定資産]   | 63,581,417 | [固定負債]     | 3,706,287     |
| (有形固定資産) | 63,581,417 | 長期借入金      | 3,706,287     |
| 建物       | 30,810,396 |            |               |
| 土地       | 32,771,021 |            |               |
|          |            | 負債の部合計     | 4,647,389     |
|          |            | 純資産の部      |               |
|          |            | [元入金]      | 342,565,273   |
|          |            | [利益剰余金]    | △ 283,631,188 |
|          |            | 繰越利益剰余金    | △ 283,631,188 |
|          |            | 純資産の部合計    | 58,934,085    |
| 資産の部合計   | 63,581,474 | 負債・純資産の部合計 | 63,581,474    |

## IX 監査報告

2023年度は、下記の監査対象校の内部監査及び監事監査を以下の通り実施した。

### 【業務監査】

| 監査対象校                 | 内部監査            | 監事監査           | 結果                    |
|-----------------------|-----------------|----------------|-----------------------|
| 湘南医療大学                | 2023年<br>10月27日 | 2024年<br>3月27日 | 適性な運営であることが<br>確認された。 |
| 幼保連携型認定こども園<br>みどり幼稚園 | 2023年<br>7月3日   | 2024年<br>3月27日 | 適性な運営であることが<br>確認された。 |

※監事監査はオンラインにて実施。

### 【会計監査】

2024年5月14日 公認会計士より監事2名が2023年度の予算執行状況等の説明を受け、適切な運営であることが説明された。

# 監査報告書

2024年 5月 14日

学校法人 湘南ふれあい学園  
評議員会 御中

学校法人 湘南ふれあい学園

監事 金井 清吉

監事 竹俣 耕一



私たちは、学校法人湘南ふれあい学園の監事として、私立学校法第37条第3項及び学校法人湘南ふれあい学園寄附行為第8条に基づき、学校法人湘南ふれあい学園の2023年度（2023年4月1日から2024年3月31日まで）の業務及び財産の状況並びに理事の業務執行の状況について監査しました。

私たちは監査にあたり、理事会、評議員会及びその他重要な会議に出席し必要に応じ意見を述べた他、理事から業務報告を聴取し、重要な決裁書類等を閲覧するとともに、会計監査人と連携し、計算書類について検討するなど必要と思われる監査手続きを実施しました。

監査の結果、学校法人の業務に関する決定及び執行は適切であり、財産目録及び計算書類すなわち資金収支計算書、事業活動収支計算書及び貸借対照表（固定資産明細表、借入金明細表及び基本金明細表を含む）は、会計帳簿の記載と合致し、学校法人の収支及び財産の状況を正しく示しており、学校法人の業務もしくは財産の状況並びに理事の業務執行の状況に関し、不正の行為又は法令若しくは寄附行為に違反する重大な事実はないものと認めました。

以上

# 監 査 報 告 書

2024年 5月 14日

学校法人 湘南ふれあい学園  
理事会 御中

学校法人 湘南ふれあい学園  
監事 金井 清吉  
監事 竹俣 耕一



私たちは、学校法人湘南ふれあい学園の監事として、私立学校法第37条第3項及び学校法人湘南ふれあい学園寄附行為第8条に基づき、学校法人湘南ふれあい学園の2023年度（2023年4月1日から2024年3月31日まで）の業務及び財産の状況並びに理事の業務執行の状況について監査しました。

私たちは監査にあたり、理事会、評議員会及びその他重要な会議に出席し必要に応じ意見を述べた他、理事から業務の報告を聴取し、重要な決裁書類等を閲覧するとともに、会計監査人と連携し、計算書類について検討するなど必要と思われる監査手続きを実施しました。

監査の結果、学校法人の業務に関する決定及び執行は適切であり、財産目録及び計算書類すなわち資金収支計算書、事業活動収支計算書及び貸借対照表（固定資産明細表、借入金明細表及び基本金明細表を含む）は、会計帳簿の記載と合致し、学校法人の収支及び財産の状況を正しく示しており、学校法人の業務もしくは財産の状況並びに理事の業務執行の状況に関し、不正の行為又は法令若しくは寄附行為に違反する重大な事実はないものと認めました。

以上